

沼津市文化財調査報告書 第117集

御幸町遺跡第4次発掘調査報告書

2017

沼津市教育委員会



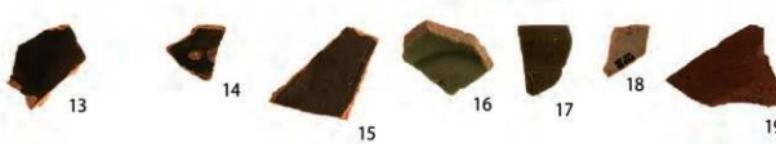
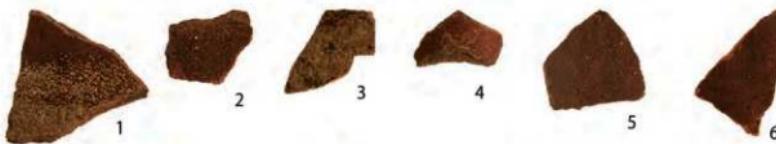
調査区遠景（西より）



調査区全景



大席式土器



陶磁器

例　言

1. 本書は静岡県沼津市御幸町に所在する御幸町遺跡の第4次発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は市都市計画部中心市街地整備企画室（現　香陵公園周辺整備室）より依頼を受け、予定地内に分布する埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。
3. 現地調査は、平成27年11月20日から平成28年3月25日まで実施した。資料整理は平成28年4月1日から平成29年3月31日まで実施し、いずれも沼津市教育委員会事務局文化振興課が担当した。
4. 調査関係者は以下のとおりである。

調査主体者	沼津市教育委員会	教　育　長	工藤達朗（H27）　服部裕美子（H28）
		教　育　次　長	井原正利（H27・H28）
事業担当者	沼津市教育委員会	文化振興課	
		課　　長	勝又恵三（H27）　中島康司（H28）
		課　長　補　佐	山内良太（H27・H28）
調査担当者		主幹兼文化財調査係長	池谷信之（H27）
		文化財調査係長	鶴田晴徳（H28）
		主　　任	小崎　晋（H27・H28）
		主　　事	原田雄紀（H27）
		学　芸　員	谷口哲也（H27・H28）
整理担当者（平成28年度）		文化財調査係長	鶴田晴徳
		指　導　主　事	前嶋秀張
		臨　時　嘱　託	矢田晃代
		整理補助員	笹原伊津子・松島あつ子
5. 資料整理の実務は、沼津市文化財センターにおいて行った。本書の執筆は前嶋・矢田が担当し、執筆箇所については目次に示した。事務処理は事務補助員　土屋周子が担当した。
6. 本報告書の執筆にあたり、出土土器の土器型式・年代観について以下の各氏にご指導およびご教授をいただいた。記して深く感謝の意を示す次第である。（五十音順・敬称略）
河合　修・佐藤祐樹・篠原和大・柴垣勇夫・渡井英聟
7. 現地調査における基準点測量・測量監理業務については、株式会社シン技術コンサルに委託した。
8. 現地調査で得られた測量データは、沼津市が所有する遺跡管理システムに取り込み、同システム上で編集・図版作成を行った。本作業については、株式会社シン技術コンサルに委託した。
9. 空中写真撮影は、株式会社フジヤマに委託した。

10. 本書に係わる発掘調査資料および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係(沼津市文化財センター 〒410-0873 沼津市大瀬詣 46-1)で保管している。

凡 例

1. 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は海拔高を表す。
2. 実測図の縮尺は各図に表示するとともに、出土遺物の実測図・写真図版については 1/3 を基本とした。
3. 土層・土器胎土の色調・記号は、新版標準土色帖に基づいて記載し、計測は土色計（SCR-1 第一合成株式会社製）を用いた。
4. 遺構の略号は以下のとおりである。
SB：竪穴住居址 SD：溝状遺構 SX：性格不明遺構
5. 遺物観察表における推定値・復元値・残存値には（ ）を付して表記した。
环蓋についての法量は天井部・器高・口径の順に記載した。

目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

第Ⅰ章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯（前嶋）	1
第2節 発掘調査事業の経過（前嶋・矢田）	2
第3節 整理事業の経過（矢田）	3

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（矢田）	5
第2節 周辺遺跡と歴史的環境（矢田）	7
第3節 遺跡の層位（前嶋・矢田）	11

第Ⅲ章 遺構と遺物（前嶋・矢田）

第1節 遺構と遺物の概要	14
第2節 弥生時代の遺構と遺物	14
第3節 古墳時代の遺構と遺物	14
第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物	17
第5節 近世以降の遺構と遺物	21
第6節 性格不明遺構	22
第7節 遺構外遺物	24

第Ⅳ章 調査の成果と課題（前嶋）	45
------------------	----

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	御幸町遺跡第1～4次発掘調査範囲・平成25・26年度試掘坑位置	1
第 2 図	御幸町遺跡試掘位置図	2
第 3 図	遺跡位置図	6
第 4 図	周辺地質図	7
第 5 図	周辺遺跡分布図	8
第 6 図	ボーリング調査地点	11
第 7 図	基本層序・土層柱状図	12
第 8 図	遺構全体図・調査区配置図	13
第 9 図	第2号溝状遺構実測図	15
第 10 図	第2号溝状遺構出土遺物実測図	16
第 11 図	第1号住居址実測図	16
第 12 図	第1号住居址出土遺物実測図	17
第 13 図	第2号住居址実測図	18
第 14 図	第2号住居址カマド実測図	19
第 15 図	第2号住居址出土遺物実測図（1）	19
第 16 図	第2号住居址出土遺物実測図（2）	20
第 17 図	第3号住居址実測図	21
第 18 図	第3号住居址カマド実測図	22
第 19 図	第3号住居址出土遺物実測図	22
第 20 図	第1号溝状遺構実測図	23
第 21 図	第1号溝状遺構出土遺物拓影図	24
第 22 図	第2号性格不明遺構実測図	24
第 23 図	第3号性格不明遺構実測図	25
第 24 図	第3号性格不明遺構土層注記	26
第 25 図	弥生時代遺構外出土遺物実測図（1）	27
第 26 図	弥生時代遺構外出土遺物実測図（2）	28
第 27 図	古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（1）	30
第 28 図	古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（2）	31
第 29 図	古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（3）	32
第 30 図	古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（4）	33
第 31 図	古墳時代前期～古墳時代後期遺構外出土遺物実測図	35
第 32 図	古墳時代前期～奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図	36
第 33 図	奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（1）	37
第 34 図	奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（2）	39
第 35 図	奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（3）	40
第 36 図	奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（4）	42
第 37 図	奈良・平安時代～中世遺構外出土遺物実測図	43
第 38 図	砥石実測図	44
第 39 図	土鍾実測図	44

第 40 図	銭貨拓影図	44
第 41 図	下石田原田遺跡・上ノ段遺跡掘立柱建物跡	46
第 42 図	弥生時代遺構分布図	47
第 43 図	古墳時代遺構分布図	47
第 44 図	奈良・平安時代遺構分布図	48
第 45 図	近代遺構分布図	48

挿表目次

第 1 表	発掘調査事業・整理事業工程表	3
第 2 表	周辺遺跡一覧表	9
第 3 表	土器観察表（1）	49
第 4 表	土器観察表（2）	50
第 5 表	土器観察表（3）	51
第 6 表	土器観察表（4）	52
第 7 表	土器観察表（5）	53
第 8 表	土器観察表（6）	54
第 9 表	土器観察表（7）	55
第 10 表	円面硯観察表	56
第 11 表	陶磁器観察表	56
第 12 表	石器観察表	56
第 13 表	土製品観察表	56
第 14 表	銭貨観察表	56

写真図版目次

巻頭カラー図版 1 調査区遠景（西より）

調査区全景

巻頭カラー図版 2 大廓式土器

陶磁器

PL. 1	調査区北部
	調査区南部
PL. 2	第 2 号溝状遺構検出状況
	第 2 号溝状遺構セクション
PL. 3	第 2 号溝状遺構完掘状況
	第 1 号住居址検出状況
PL. 4	第 1 号住居址遺物出土状況
	第 1 号住居址床面検出状況
PL. 5	第 2 号住居址検出状況
	第 2 号住居址北東セクション
PL. 6	第 2 号住居址遺物出土状況
	第 2 号住居址床面検出状況

PL_7	第2号住居址完掘状況 第3号住居址床面検出状況
PL_8	第3号住居址カマド検出状況 第3号住居址完掘状況
PL_9	第1号溝状遺構セクション 第1号溝状遺構B・C区
PL10	第1号溝状遺構E・F区 第1号溝状遺構G区
PL11	第2号性格不明遺構検出状況 第2号性格不明遺構セクション
PL12	第2号性格不明遺構完掘状況 第3号性格不明遺構Bセクション
PL13	第3号性格不明遺構セクション 第3号性格不明遺構完掘状況
PL14	標準土層南より 標準土層北より
PL15	A区遺物出土状況（1） A区遺物出土状況（2）
PL16	B区遺物出土状況 C区遺物出土状況
PL17	第2号溝状遺構出土遺物 第1号住居址出土遺物 第2号住居址出土遺物（1）
PL18	第2号住居址出土遺物（2） 弥生時代遺構外出土遺物（1）
PL19	弥生時代遺構外出土遺物（2） 古墳時代遺構外出土遺物（1）
PL20	古墳時代遺構外出土遺物（2）
PL21	古墳時代遺構外出土遺物（3）
PL22	古墳時代遺構外出土遺物（4）
PL23	古墳時代遺構外出土遺物（5）
PL24	奈良・平安時代遺構外出土遺物（1）
PL25	奈良・平安時代遺構外出土遺物（2）
PL26	奈良・平安時代遺構外出土遺物（3）
PL27	奈良・平安時代遺構外出土遺物（4） 中世遺構外出土遺物
PL28	支脚・砥石・土錘・錢貨

第1章 調査の概要

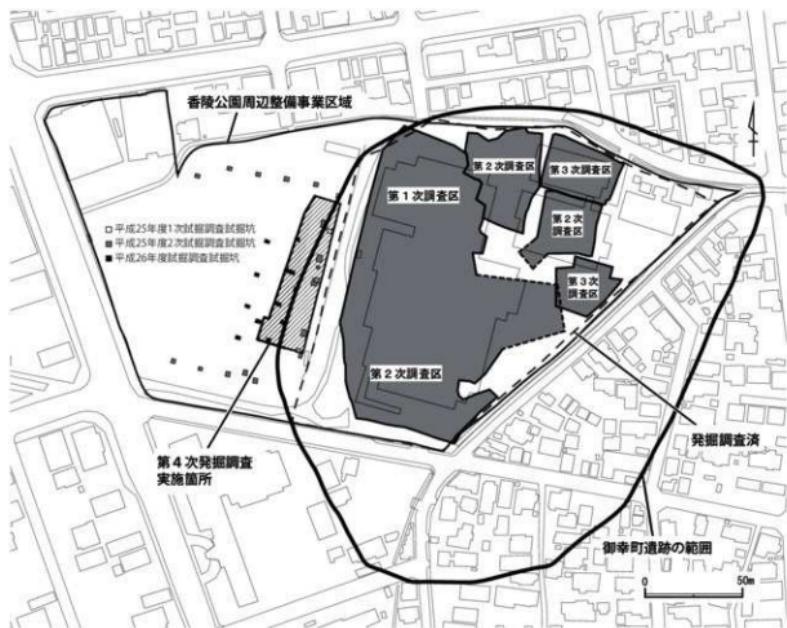
第1節 調査に至る経緯（第1図）

沼津市では、老朽化した公共施設の更新等と中心市街地の活性化を目指した取組みを実施しており、スポーツ・健康づくりの拠点とすることを目的として、平成25年9月12日に「沼津市新市民体育館整備基本構想」を策定した。これを受け、教育委員会事務局スポーツ振興課から新市民体育館の建設予定地である香陵運動場内の埋蔵文化財の所在について問い合わせがあった。対象地とその東側には周知の埋蔵文化財包蔵地である御幸町遺跡が分布し、その範囲が対象敷地内に及んでいることから、さらに対象敷地内における遺跡の広がりを確認するため、試掘による遺跡の範囲確認調査が必要となった。

スポーツ振興課と文化振興課との協議を行い、平成25年10月2日付けでスポーツ振興課から香陵運動場内の試掘調査実施依頼が文化振興課に提出された。これを受け、平成25年度から平成26年度にかけて遺跡の範囲確認調査を実施した。この調査結果をもとに新市民体育館建設等を含む香陵公園周辺整備事業を所管する市中心街地整備企画室（平成28年度から香陵公園周辺整備室）と協議を行い、平成27年10月30日付け事務連絡により本発掘調査についての依頼を受けた。

平成27年11月5日付け沼都中第4号で、文化財保護法第94条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が沼津市長から提出されたため、平成27年11月11日付け沼教文第584号-2により副中とともに県教育委員会教育長に進達した。

その後、県教育委員会教育長から平成27年11月20日付け教文第1307号の2により、土木工事



第1図 御幸町遺跡第1～4次発掘調査範囲・平成25・26年度試掘坑位置

等のための発掘調査について通知があり、文化振興課が主体となって本発掘調査を実施することとなった。

第2節 発掘調査事業の経過（第2図・第1表）

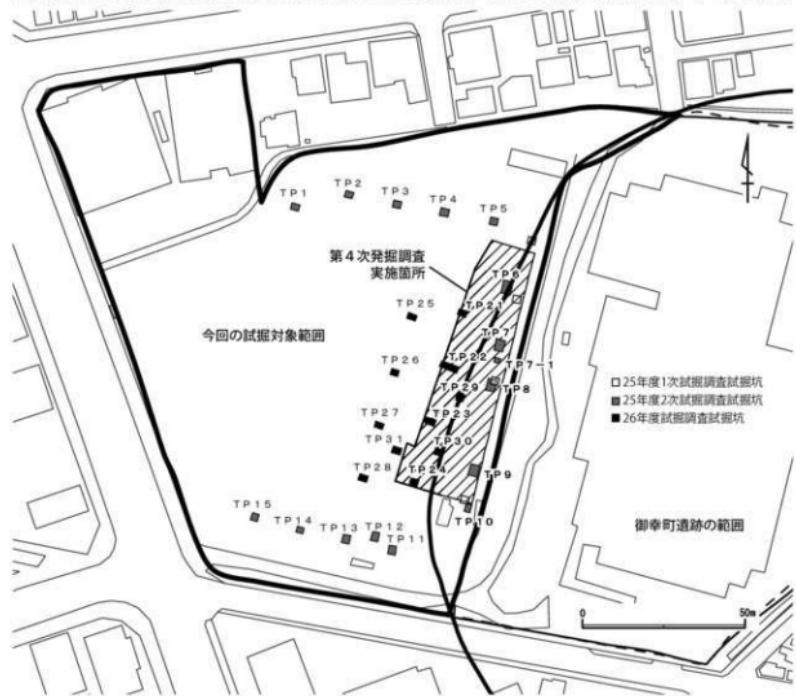
現地調査は沼津市御幸町15番1号の1,980m²を対象として、平成27年11月20日から準備を始めた。調査工程は表土を0.3m重機掘削し、遺物包含層を1.45m人力掘削しながら遺構の検出を行い、最後に遺構の調査を行った。重機による表土除去は平成27年11月24日から開始し、同月末までに終了した。

遺物包含層の上面からは土師器や須恵器の破片が出土しており、調査対象区を南側からA区からH区に区分して遺物を取り上げている。

遺構の検出は平成27年12月2日から始め、溝状遺構2条、性格不明遺構3基、竪穴住居址3軒を検出した。

遺構の調査は近現代に帰属すると思われる第1号溝状遺構から開始した。この覆土からは大正時代から昭和時代に至る様々な遺物が出土しており、旧制沼津中学校時代の平面図や写真と照合することで、同時代の溝と認定することができた。

遺跡の評価に直接関わる重要な遺構や遺物としては、古墳時代前期の住居址の検出が挙げられる。これらは遺構ごとに試掘溝を設定して断面形状と覆土を観察し、完掘に至るまで調査した。その過程で古



墳時代前期の住居址は掘り方で平面プランと断面形を確定することができた。さらに整理作業段階でも炉と平面プランならびに断面形を再検討して復元している。この他、当初方形周溝墓と考えられた遺構については、試掘溝による断面観察の結果、自然地形との結論を得た。性格不明の遺構については、人工的な搅乱と自然堆積層と判断している。こうして平成28年3月初旬に遺構を完掘し、空中写真撮影を実施した。その後、各遺構の実測を行い、平成28年3月末に調査区の埋め戻しを完了した。香陵運動場の復旧を平成28年5月に終了した。

第3節 整理事業の経過（第1表）

整理事業については、香陵公園周辺整備室から平成28年4月1日付けで実施依頼を受け、実務を市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係が担当し、市文化財センターにおいて実施した。

出土遺物については、まず洗浄を行った。ある程度作業が進むと洗浄と並行して注記を行い、統いて分類・接合作業を進めた。一部の出土土器については補強樹脂を用いて復元作業を実施した。これらの作業を行なながら主要遺物を抽出し、実測図を作成した。実測図のスキャニングをした後、デジタルトレースを行った。

検出遺構図版作成のためのデータは、現地調査時にデジタルデータとして市が所有している遺跡管理

第1表 発掘調査事業・整理事業工程表

施工内容	平成27年度						平成28年度											
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
表土除去	-																	
板グリッド設定	-																	
遺構検出（古墳時代・弥生時代）	-																	
SD 1（水路造構）																		
SD 2																		
S X 2																		
S X 3																		
SB 1																		
SB 2																		
SB 3																		
空中写真撮影																		
包含層削除																		
測量支援業務																		
埋め戻し																		
撤去工																		
遺物洗浄																		
遺物注記																		
遺物分類・仕分																		
遺物接合・復元																		
遺物実測・トレース																		
遺物拓本																		
遺構図版作成																		
写真整理																		
遺物写真撮影																		
原稿執筆・全体編集																		
校正																		

システムへ取り込んだ。このデータをもとに編集を加えて整合性を確認した後、土層データを加えるなどの編集作業を実施した。これらの編集作業は、整理支援業務として株式会社シン技術コンサルに委託し、担当職員の指示に従い進めた。出土遺物のデジタルトレース、遺構図版の再編集はともに「Adobe Illustrator CS5」で行った。

現地調査時に撮影した遺構・遺物などの記録写真は、スキャナーを用いてデジタルデータ化した。さらに、接合・復元した遺物の写真撮影を実施し、あわせて写真図版を作成した。

以上の作業により得られた図面・写真および調査日誌等の記録を基本資料とし、これらの作業と並行して本文執筆を行った。報告書の編集は「Adobe InDesign CS5.5」を使用した。

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第3図・第4図）

沼津市は駿河湾最奥部の東側にあたる伊豆半島西海岸の北端に位置し、北部には愛鷹山南麓斜面が広がり、その南にはかつて浮島沼と呼ばれた湿地帯である浮島ヶ原が所在する。その南側の海岸部には、富士市田子の浦から狩野川河口に続く富士川起源の千本砂礫州が形成されており、浮島ヶ原の東側には富士山東斜面の山体崩壊により黄瀬川流域を流下した御殿場泥流堆積物で構成される黄瀬川扇状地が広がる。現在の沼津市の市街地は黄瀬川扇状地の南西端に位置しているが、周辺部の土地利用が徐々に進み、市街地は少しづつ拡大している。

沼津市内の遺跡としては、古墳時代最初頭に東海東部に君臨した首長の墓と考えられている高尾山古墳、白鳳時代に地域支配豪族の氏寺として建立された日吉廃寺跡、戦国期の三枚橋城跡などが確認されている。また、江戸時代には東海道の宿場となり、三枚橋城跡にほど重なるように沼津城が築かれるなど城下町としても発展した。明治時代以降になると、建設資材運搬のため静岡県下初の鉄道となる蛇松線が明治21年に開通し、さらに翌年には東海道本線が開通した。これにより沼津駅は箱根越えのため、機関車を取り替える重要駅として機能した。

昭和44年の東名高速道路開通に伴い沼津インターチェンジが開設され、その周辺や平地部において工業団地や紡績業、電気・機械の製造に関連する大規模な工場が設立された。国や県に関連した公共機関・施設も多く存在し、沼津市は静岡県東部の中核的都市として政治・経済・文化の中心的役割を担ってきたが、近年は交通環境や物流システムの変化、郊外への大型店進出などにより中心市街地の空洞化が進行している。

御幸町遺跡は、沼津市役所東側に隣接し狩野川下流域左岸に位置する。かつては旧制沼津中学校（現県立沼津東高等学校）が所在し、学校の移転後は香陵運動場や市民文化センターとして利用されていた。

本遺跡は狩野川下流域の低地に所在する。この低地は、黄瀬川沿いに見られる火山性扇状地、その西側に広がる扇状地性三角州、海岸部に発達する砂礫州および後背湿地といった地形要素から構成される。

また、本遺跡の東側には静浦山地の北半分を占める香貫山、徳倉山がそびえ、その山裾は明瞭な傾斜変換により、狩野川下流域の低地と接している。

およそ10,000年前、富士山起源の三島溶岩流が黄瀬川沿いに流下したことにより、狩野川の南側に位置する静浦山系との間に狭窄部が形成された。寒冷期が終わって気温が上るとそれに伴い海面が上昇するため、9,000年前頃から狭窄部を通って海水が狩野川中流域に浸入するようになり、内湾（古狩野湾）形成が始まった。ほぼ同時期、沼津市西部に広がる浮島ヶ原周辺から狩野川下流域周辺にかけての愛鷹山南麓付近にも海水が入り込み、内湾を形成していた。古狩野湾の拡大が徐々に進んでいたおよそ8,000年前の浮島ヶ原周辺では、富士川起源の砂礫が沿岸流によって運ばれ、海底に砂礫層が堆積し始めていた。この砂礫州は東西方向に広がり、約6,000年前には、内陸側に砂礫州が形成されていた。この頃が古狩野湾の最も拡大した時期であり、現在の沼津市から黄瀬川下流、伊豆の国市（旧伊豆長岡町）付近までが入り江となっていた。古狩野湾の海底には砂、シルト、粘土などが堆積していたと考えられる。浮島ヶ原周辺の砂礫州はその後、海側に新たな砂礫州が発達したことにより、約4,500年前頃には浮島ヶ原から狩野川河口域にかけて内陸側が閉塞された。この新たな砂礫州の東端は静浦山地の麓まで達し、古狩野湾の湾口を塞いた。この影響で古狩野湾は潟湖化する。次第に沼沢地・湿地へ変化し、狩野川沿いに自然堤防が徐々に形成され始めた。縄文時代には断続的ではあるが、狩野川下流域周辺において人々が活動していたと考えられる。およそ3,200年前から2,500年前頃になると、相次いで発生した天城カワゴ平火山起源の土石流や、富士山の山体崩壊によって流出した御殿場泥流起源



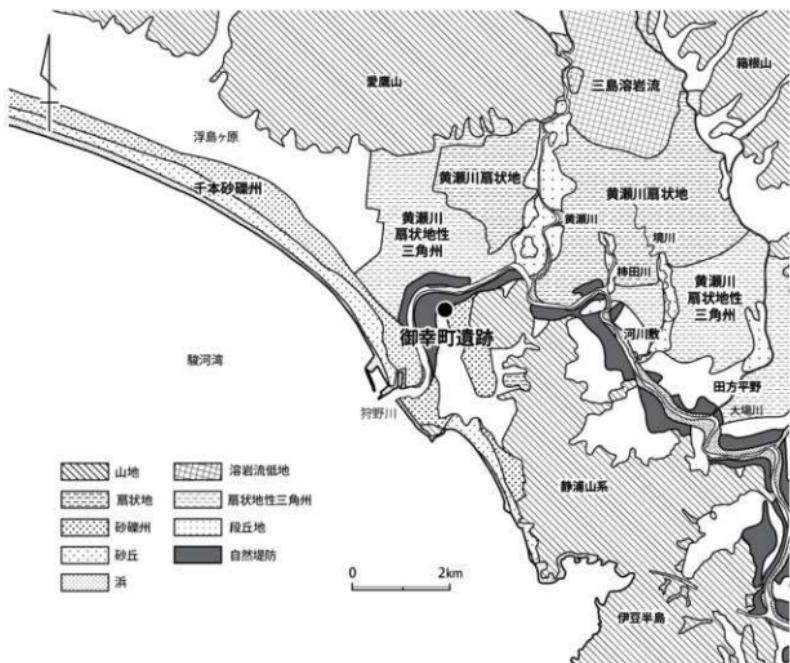
第3図 遺跡位置図

の堆積物により、現在の狩野川下流低地に扇状地および扇状地性三角州が形成されることとなる。これ以降は本遺跡周辺の地形が比較的安定したため、弥生時代以降には狩野川下流域周辺にも集落が形成されるようになったと考えられる。

第2節 周辺遺跡と歴史的環境（第1図・第5図・第2表）

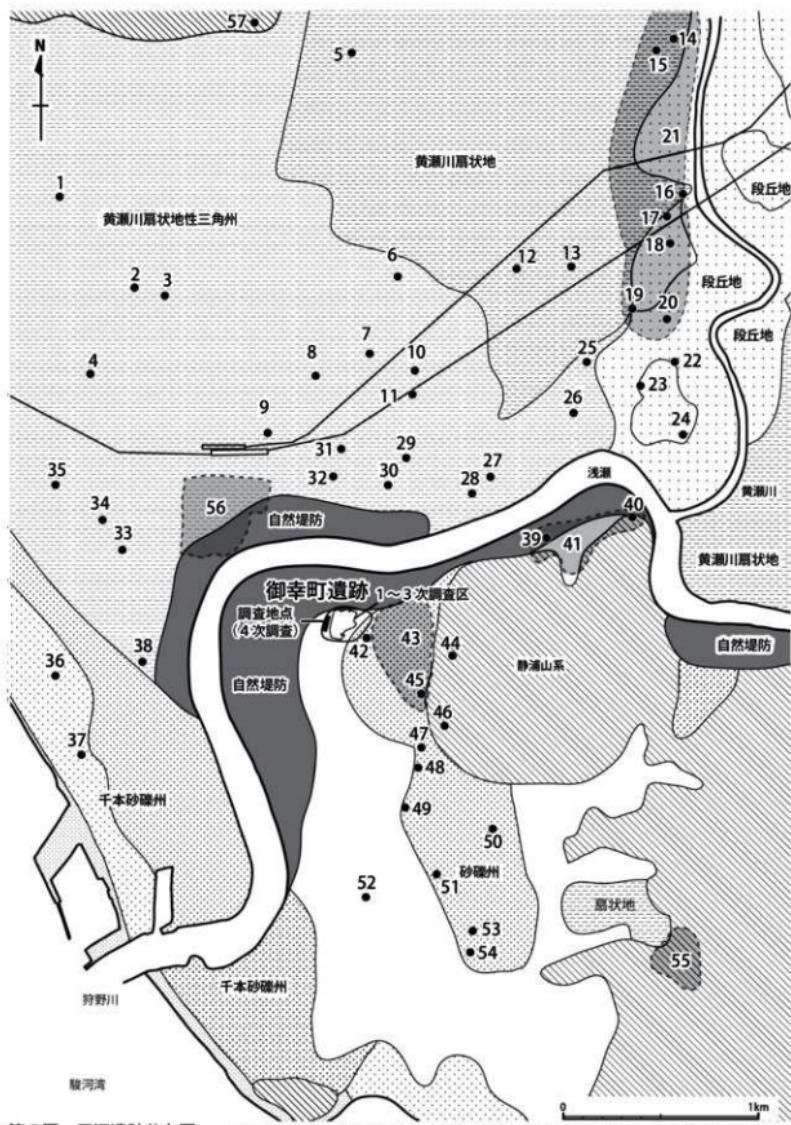
御幸町遺跡は昭和53年度から昭和55年度にわたって第1次調査から第3次調査が行われている。市民文化センターを中心とする範囲が主な調査範囲であった(第1図)。今回行われた第4次調査の調査範囲は香陵公園(香陵運動場)であり、運動場と市民文化センターとの間にはおよそ1mの高低差が生じている。

本遺跡が所在する黄瀬川扇状地性三角州および砂礫洲上には、弥生時代以降に形成された集落跡である中瀬遺跡(39)・住吉遺跡(42)・二瀬川遺跡(49)・山ノ根遺跡(50)・馬場遺跡(51)・藤井原遺跡(54)が所在する。住吉遺跡は御幸町遺跡の東側に隣接しており、その位置から同一遺跡とも考えられる。古墳時代になると主に砂礫洲上に古墳が築造されるようになり、禪東久保古墳(40)・天神洞古墳群(41)・



第4図 周辺地質図

出典：沼津市史編さん委員会（1999）『沼津市史』資料編 自然環境付図 6 地形分類図（一部修正）



第5図 周辺遺跡分布図

出典：沼津市史福さん委員会（1999）『沼津市史』資料編 自然環境付図 6 地形分類図（一部修正）

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	時代	種別	遺跡の現状・様式状況・遺物等	遺跡番号	
1	沢田	沢田新田片萩	弥生・古墳	水田址 集落跡	土器（登百・振田・五箇・鬼高・須恵器）、住居址、廻文化	122	
2	本田町西	本田町	弥生	集落跡	市教委で1部発掘、廻立柱建物複数、土器（弥生後期・土師器）	369	
3	本田町	本田町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・土師器・須恵器）	184	
4	双葉町	古墳・奈良平安		集落跡	土器（土師器・須恵器・壺・瓶・板、柱、杭）、市教委で1部発掘	317	
5	庄池	岡宮天神ヶ尾 庄池	古墳	祭址？	土器（五箇・和泉）	147	
6	高田第六天	高田第六天	弥生・奈良平安	集落跡	土器（弥生後期・土師器・須恵器）、頭大型石錐、布目瓦	178	
7	日吉出町	三枚橋大字ノ出町		古墳	集落跡	土器（和泉）、菅玉、大片	179
8	杉崎町	利根町	奈良平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	180	
9	上ノ段	大手町	古墳・奈良平安	集落跡	市教委で大半発掘、整穴住居址、土器（土師器・須恵器）	382	
10	日吉	日吉遺跡	弥生・奈良平安	集落跡	土器（文崎中層・土師器）、整穴住居址、磨製石斧	177	
11	日吉庚申跡	日吉遺跡	奈良平安	寺跡跡	市教委と日大で一部発掘、延基塙・柱穴、溝、住居	176	
12	豆生田	中石田豆生田	弥生・奈良平安	集落跡	市教委で一部発掘、整穴多數複出、土器（弥生後期・土師器（五箇・鬼高・真高・圓分）、銅鋌	172	
13	五郎丸	中石田五郎丸	古墳	集落跡	土器（土師器）	171	
14	新谷3号墳	上石田新谷	古墳		円墳、消滅、組合式箱形石棺、刀身、人骨（楕円式石室）	162	
15	上郷地	大岡上郷地	古墳～近世	集落跡	整穴住居址、土器（土師器・須恵器）、陶器	371	
16	土居	中石田屋敷	中世	城館	土壘、古墳、石堤？	319	
17	新小路古墳	中石田新小路	古墳		円墳、消滅、組合式箱形石棺、刀身、金環、勾玉、人骨（楕円式石室）	163	
18	宮下古墳	中石田宮下	古墳		円墳、消滅、組合式箱形石棺、須恵器、土師器、銅鋌、銅器	164	
19	長町古墳	木瀬川長町	古墳		円墳、金環、鐵劍、銅鋌、銅鏡、須恵器（楕円式石室）	165	
20	宮煙	木瀬川宮煙	古墳	集落跡	土器（五箇）、有頭大型石錐	166	
21	石田古墳群	大岡上保田	古墳		No.3～6含む数、円錐5基消滅。	420	
22	蹴屋敷	木瀬川蹴屋敷	奈良平安	集落跡	土師器、須恵器	167	
23	浜井塙	木瀬川浜井塙	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・五箇）、石錐	168	
24	台煙	木瀬川台煙	奈良平安・江戸	集落跡？	市教委で一部発掘、整穴1基複数出	169	
25	下石田森	下石田森	奈良平安	集落跡	土器（土師器・土師器・陶器）、古錢	385	
26	鶴	下石田鶴	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・五箇）	170	
27	下石田原田	大田	奈良	集落跡	住居址150基以上、廻立柱建物96基以上、土器（土師器・須恵器・鐵劍）、反輪陶器、土壘、古墳、馬齒	368	
28	二ツ谷	日吉二ツ谷	弥生・奈良平安	集落跡	土器（弥生後期？・土師器・須恵器）	173	
29	鹿田	日吉鹿田	古墳	集落跡	土器（土師器）	175	
30	山王台	三枚橋天王台	弥生・縄文	集落跡 神社址	日吉神社で一部発掘、住居址・柱穴多数複数出。土壘・空堀残存、土器（五箇・鬼高・真高・圓分・須恵器）、古錢	174	
31	三芳町	三芳町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・土師器）、獸型土製品	181	
32	津水上	三枚橋津水上	弥生・古墳	集落跡	土器（文崎中層・土師器）、柱狀片刀石斧	182	
33	福井塙古墳	八幡町	古墳		日大で発見。刀身、鐵劍、須惠器、消滅	331	
34	白鶴町	白鶴町	古墳・奈良平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	188	
35	鶴町	鶴町	弥生	集落跡	土器（後期）	187	
36	千本	木千本	奈良平安	集落跡	市教委で発掘、整穴住居址、土器（土師器・須恵器）、古錢（和同開跡・隔水平宝）	372	
37	常盤町	木千本常盤町	弥生？	集落跡	土器（後期？）	190	
38	下小路	旭町	奈良平安	集落跡	土器（土師器・須恵器）	189	
39	中瀬	上香貫中瀬町	弥生	集落跡	土器（土師器・後期）	208	
40	押東久保古墳	上香貫中瀬町		古墳	円墳 12基、土器整理庫で大量消滅、市教委で3基発掘	207	
41	天神岡古墳群	上香貫中瀬町		古墳	須恵器、玉鏡、金環、人骨、一部宅地に残存	210	
42	往吉	往吉町	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生中期・土師器）	209	
43	東本郷古墳群	上香貫東本郷		古墳	數基消滅、刀身、土器、玉鏡、須恵器	211	
44	豊山寺根穴群	上香貫東本郷	弥生・奈良平安	横穴群	数基開口していたが削除されたため内部は残存の可能性あり	212	
45	中古墳	中古墳	古墳		円墳、須恵器、渥美美濃（東京国立博物館藏）	213	
46	香貫山絆塚	上香貫絆塚山	平安	絆塚	絆塚、外周容器、渥美美濃（東京国立博物館藏）	214	
47	宮原1号墳	下香貫宮原	古墳		円墳、消滅、組合式箱形石棺、人骨、須恵器	216	
48	宮原2号墳	下香貫宮原	古墳		円墳、消滅、丁字形鉄製利器、武具、金環	217	
49	二瀬川	下香貫二瀬川	古墳	集落跡	方形整穴住居址、廻部穿孔土器（五箇）	215	
50	山ノ根	下香貫山ノ根	弥生・古墳	集落跡	土器（弥生後期？・五箇）、大型石錐	219	
51	鳥塙	下香貫鳥塙	古墳	集落跡	土器（五箇）、有頭大型石錐	302	
52	陣子川古墳	下香貫陣子	古墳	古墳	円墳、破壊	340	
53	大塙古墳	下香貫陣原	古墳	古墳	円墳	221	
54	藤井原	下香貫藤井原	弥生・奈良平安	集落跡	市教委でほぼ全域発掘、住居址180基以上、井戸、漢式造営、土器（陶・漆、土師器（五箇・真間・圓分）、銅鋌片、曾玉鉄製品、有頭大型石錐）	222	
55	稚沼古墳群	下香貫稚沼	古墳	古墳	2基石室複数出	301	
56	沼津城跡	上土大手町	江戸	城跡	石垣・一部残存、消滅	183	
57	高尾山古墳	東熊堂	古墳	古墳	前方後方廣、上方作系深形式獸面帝鏡、椎・鉄劍、施・勾玉、バレ・ススタイル壺、大底式土器、土師器	276	

出典：沼津市教育委員会（1987）『沼津市埋蔵文化財分布図』（一部修訂）

東本郷古墳群（43）・中住古墳（45）・宮原1号墳（47）・宮原2号墳（48）・障子川古墳（52）・大塚古墳（53）が、山地には靈山寺横穴群（44）・猪沼古墳群（55）が認められる。

本遺跡から南東に位置する藤井原遺跡では、古墳時代初期の住居址群と奈良・平安時代の住居址群などが重なり、180軒以上の住居址が検出された。墳形土器や墨書き土器が出土しており、これらの遺物などから狩野川対岸に所在していた駿河郡衙と関わる遺跡とも考えられている。本遺跡でも以前の調査時において墨書き土器および線刻土器等が出土しており、駿河郡衙に関わる集落であった可能性がある。

本遺跡の狩野川対岸には黄瀬川扇状地、黄瀬川扇状地性三角州、段丘地が広がり、いずれも弥生時代以降の集落跡が所在する。黄瀬川扇状地上には広池遺跡（5）・豆生田遺跡（12）・五郎丸遺跡（13）・上耕地遺跡（15）、黄瀬川沿いの段丘地上には宮畠遺跡（20）・蔵屋敷遺跡（22）・浜井場遺跡（23）・台畠遺跡（24）、扇状地性三角州上には沢田遺跡（1）・本田町西遺跡（2）・本田町遺跡（3）・双葉町遺跡（4）・高田第六天遺跡（6）・日ノ出町遺跡（7）・杉崎町遺跡（8）・上ノ段遺跡（9）・日吉遺跡（10）・郷遺跡（26）・下石田原田遺跡（27）・二ツ谷遺跡（28）・窪田遺跡（29）・山王台遺跡（30）・三芳町遺跡（31）・清水上遺跡（32）・白銀町遺跡（34）・錦町遺跡（35）・下小路遺跡（38）が所在する。古墳時代になると、主に段丘地周辺に古墳が築造されるようになり、新谷3号墳（14）・新小路古墳（17）・宮下古墳（18）・長町古墳（19）を含む石田古墳群（21）が位置する。また奈良・平安時代になると中央集権による国家体制が確立し、民衆統治の精神的なよりどころあるいは新しい文化波及の拠点として各地に仏教寺院の建立が展開した。日吉廐寺跡（11）は、この地域を支配していた豪族の氏寺として建立されたものと考えられる。狩野川河口付近に位置する千本砂礫州上には弥生時代後期以降の集落跡と思われる常盤町遺跡（37）、奈良・平安時代の集落跡である千本遺跡（36）が認められる。

古代郡制では沼津市は駿河国駿河郡に属するが、扇状地性三角州上に駿河郡衙とその関連の集落が営まれていたと推測され、上ノ段遺跡・下石田原田遺跡についてはその可能性が高い。下石田原田遺跡は奈良時代を中心とした集落遺跡であり、建物配置に規則性が見られないことから官衙とする決め手はないが、墨書き土器、刻畫土器が出土しており、これらから郡衙関連遺跡と考えることができる。上ノ段遺跡は奈良・平安時代の竪穴住居址および掘立柱建物跡が多数検出され、同一の主軸方位による計画的配置を確認でき、唐三彩の陶枕などの官衙に関連する遺物が出土している点から、官衙遺跡とする意見が有力である。また、千本砂礫州上に位置する千本遺跡も多量の墨書き土器、京都産と考えられる縁釉陶器が出土し、藤井原遺跡でも出土している墳形土器が少量あるが出土している点などから、郡衙関係の遺跡と考えられる。

また、御幸町は駿河郡の中で玉造郷に属し、中世になると香貫郷とされた。香貫郷は、元徳元年の「定縁書状」、建武五年の「駿河国守護今川範國書下写」などから鎌倉時代を通じて国領であったと推測される。江戸時代には上香貫村となり、助郷制度が成立すると定助7か村に含まれた。明治時代になると下香貫村、我入道村とともに楊原村となる。明治34年には本遺跡範囲に旧制沼津中学校が開校し、昭和24年に新制県立沼津東高等学校となり、昭和42年、沼津市岡宮に全面移転した。跡地は香陵運動場として利用されていたが、文化施設の充実を求める市民の声が高まったことから、昭和57年以降に市民文化センター等が建てられ、現在に至っている。

第3節 遺跡の層位（第6図・第7図）

調査区内に設定したトレンチのうち、標準的な堆積を示すトレンチ1を基に土層柱状図を作成した。その際、標高1.80mより下位の堆積状況については、今回の調査範囲に最も近いNo.2地点のボーリングデータを使用した。

また、No.2地点から100m東方向へ進んだ地点で、昭和54年度に市民文化センター建設に伴う地質調査を行っている（No.4地点）。この地質調査では今回の調査よりもさらに下層の調査を行っており、富士川起源の海成砂礫層が認められ、その上層には本調査時に確認した土層が堆積する（第1層～第7層）。

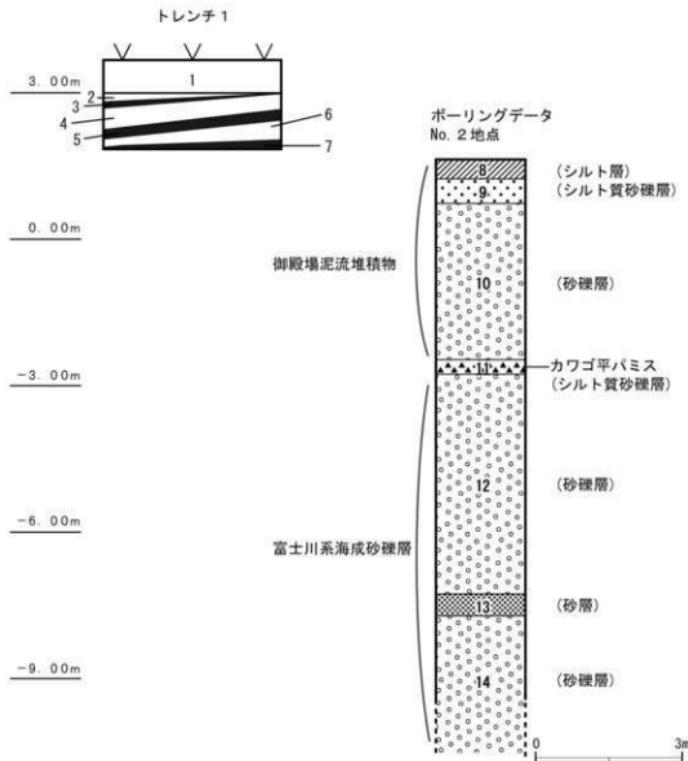
基本土層は以下のとおりである。

第1層	暗褐色土層	香陵公園造成時の盛り土。
第2層	黄褐色土層	遺構検出面。黄瀬川扇状地堆積物の砂が多く含まれ、ややしまりがある。
第3層	黒色土層	腐植土。砂質。ややしまりが弱い。
第4層	褐色土層	カワゴ平バミスが含まれる。シルト質。ややしまりが強い。
第5層	黒色土層	腐植土。シルト質。しまりが強い。
第6層	褐色土層	カワゴ平バミスが含まれる。砂質。しまりが弱い。
第7層	黒色土層	腐植土。シルト質。しまりがやや強い。
第8層	暗褐色土層	シルト層。
第9層	褐色土層	シルト質砂礫層。
第10層	暗褐色土層	砂礫層。
第11層	暗褐色土層	シルト質砂礫層。カワゴ平バミスが含まれる。
第12層	青灰色土層	砂礫層。
第13層	青灰色土層	砂層。
第14層	青灰色土層	砂礫層。

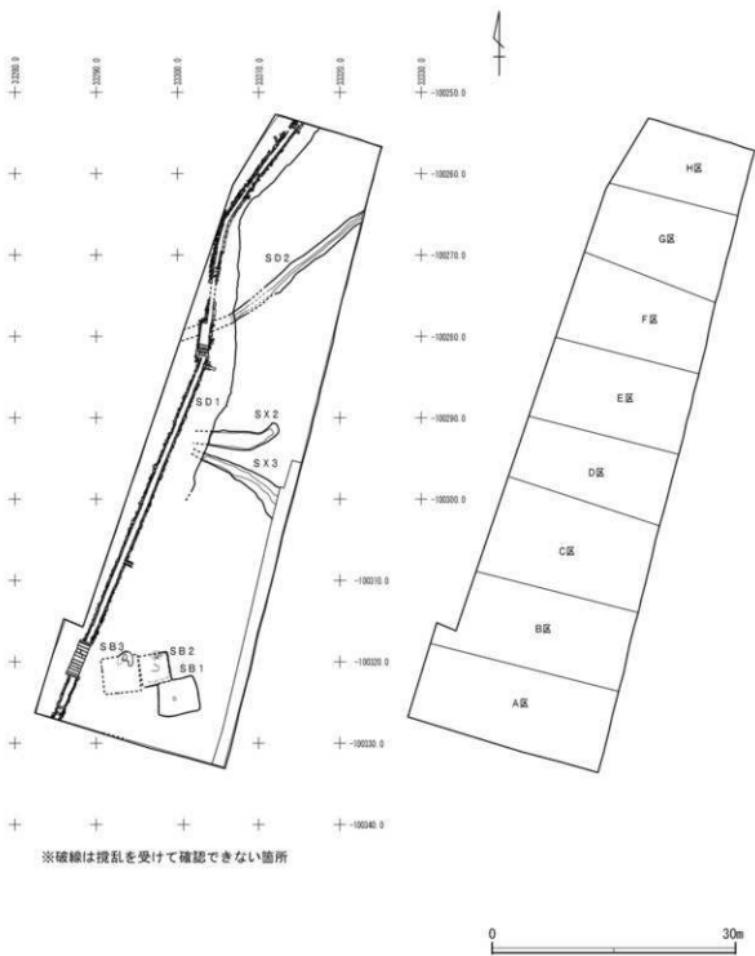
基本土層のうち、第2層・第4層・第6層は洪水堆積層と推測され、第2層は富士山起源のスコリア



や火山灰を含む水成層であることから黄瀬川の氾濫に伴う堆積物と考えられる。第4層・第6層はカワゴ平バミスを多く含む水成層であることから、狩野川の氾濫に伴う堆積物と推定される。第8層から第10層は黄瀬川で採取した資料と比較した結果御殿場泥流堆積物と推定される。その下位の第11層は、国土岬、本田町、愛鷹山麓で採取したカワゴ平バミスと比較し、その色調と形状からカワゴ平バミスと判断される。第12層から第14層は富士川で採取した資料と比較して富士川系海成砂礫層と考えられる。



第7図 基本層序・土層柱状図



第8図 遺構全体図・調査区配置図

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 遺構と遺物の概要（第8図）

遺構は北側の自然堤防から南側の低地にかけて分布する砂礫層・砂層・シルト層を掘り込んで構築されている。検出された遺構は住居址3軒・溝状遺構2条・性格不明遺構2基である。これらの遺構は、住居址がA区・B区から、溝状遺構がA区からH区にかけてとF区・G区から、性格不明遺構はD区・E区で検出している。

弥生時代の遺構はF区・G区から検出した第2号溝状遺構である。この溝状遺構は昭和53年の第1次調査で確認した溝状遺構と軸線が重なることから、同一の遺構と判断した。古墳時代の遺構は住居址1軒である。古墳時代前期と推測される第1号住居址は、床面の中央西寄りに炉を検出した。奈良・平安時代の遺構は住居址2軒である。第2号住居址と第3号住居址は北壁にカマドを構築している。近世の遺構は調査区西侧で検出した第1号溝状遺構である。この第1号溝状遺構は旧制沼津中学の改築に際して石組みの水路として整備されている。これらの他に性格不明遺構を2基検出しているが、規格性に乏しいので自然流路と考えられる。

遺物は弥生時代の土器、古墳時代から平安時代にかけての土師器・須恵器・灰釉陶器・山茶碗・土鍤、中世のかわらけ・陶磁器・砥石、近世の銭貨である。これらは主に包含層から出土していることから、帰属時期を推測できる遺物を抽出し、復元実測が可能なものを掲載した。

第2節 弥生時代の遺構と遺物

(1) 溝状遺構

第2号溝状遺構（SD2）（第9図・第10図）

F区・G区で検出した。検出面は第2層（黄褐色土層）で、第10層（暗褐色土層）まで掘り込んでいる。平面形態は直線的に北東から南西方向へ延びる。断面形態はV字状を呈する。規模は長さ20.3m、幅1.0m～1.7m、深さ0.2m～0.7mを測る。本遺構は平面形態や断面形態から第1次発掘調査時に確認した第1号溝状遺構と同一遺構であり、弥生時代後期後葉以降の遺構と考えられる。

出土遺物は高環の脚部のみ図示した。脚部はラッパ状に開き、円窓が認められる。外面は丁寧なミガキを継位に施し、内面はハケ調整を横位に施す。古墳時代前期大廓式の高環脚部に比定されるため、埋没する際に混入した可能性が高い。

第3節 古墳時代の遺構と遺物

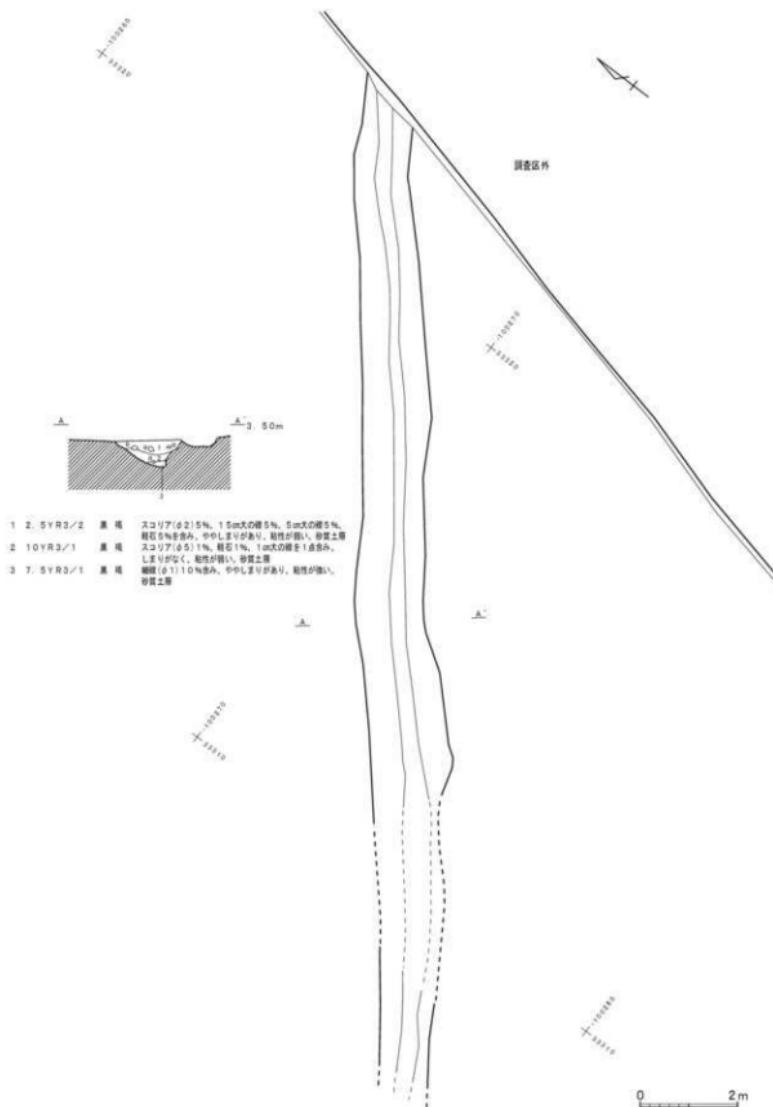
(1) 住居址

第1号住居址（SB1）（第11図・第12図）

A区の中央やや東寄りで検出した。検出面は、第2層（黄褐色土層）で炉の焼成面を検出し、第3層（黒色土層）まで掘り下げて平面形態を確認した。平面形態は東西方向がやや長い隅丸方形を呈しており、規模は南北4.3m×東西4.4m～5.1m、炉址から掘り方までの深さが0.4mを測る。

新旧関係は、北西に位置する第2号住居址より古い。炉址は中央西寄りに焼成面と思われる焼土ブロックが残存し、規模は長径0.5m×短径0.3m、深さ0.07mを測る。

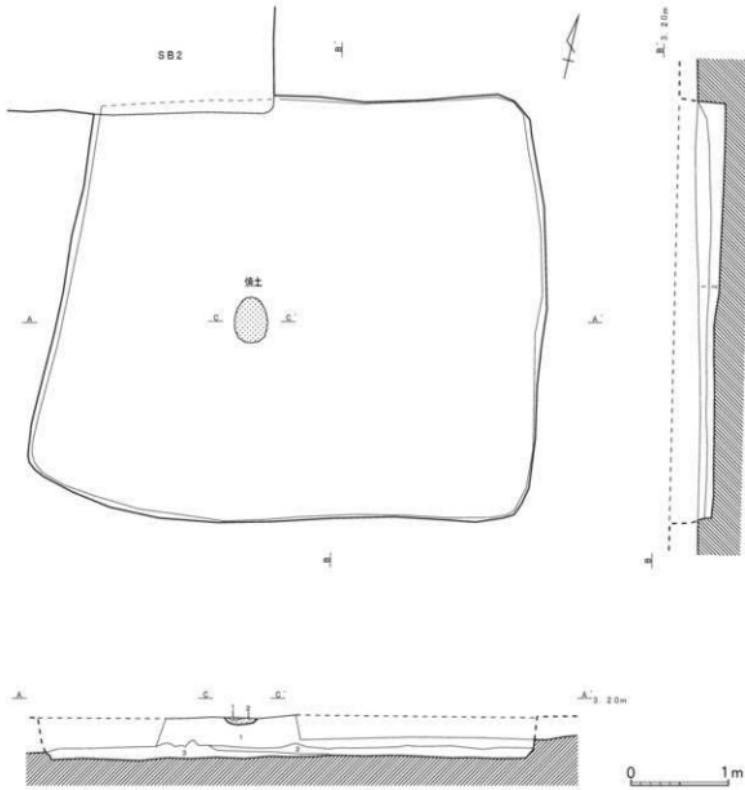
出土遺物は3点を図示した。1～3は古墳時代前期後半の土師器である。いずれも覆土から出土している。1は在地系のS字形状口縁部付腰の脚台部で、裾部を内面に折り返し、外側にナナメハケを不連続に施す。2は腰の口縁部から胴部である。口縁部の内外面をナデで整え、胴部の外側は継位、内側は横位のハケメ調整が施されている。3は高環の環部である。下半部に稜をもち、内外面に継位のヘラミガ



第9図 第2号溝状遺構実測図



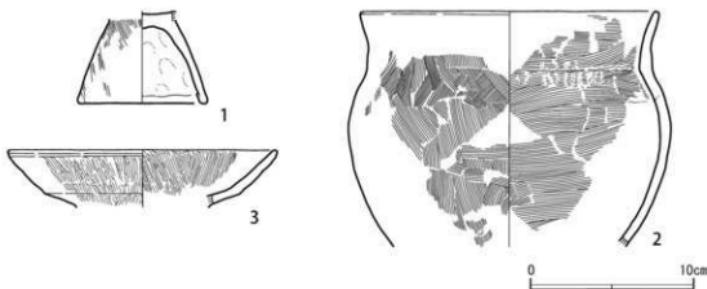
第10図 第2号溝状遺構出土遺物実測図



A - B	1 7. 5YR3/1	基 構	粗石、スコリア(0.1)を含み、ややしまりが強く、粘性が高い。
2 10YR3/2	基 構	スコリア(0.1) 2%, 磨(0.5) 1%, 硬褐色土が盛り、しまりが強く、やや粘性が高い。	
3 10YR4/2	3	に古い褐色 層(0.2~3) 30%, 粗石を含み、しまり、粘性ともに弱い。砂質土層	

C	1 7. 5YR3/1	基 構	赤褐色の砂土を多量に含み、ガラス質を1%含む、しまりがなく、粘性が弱い。砂質混土。
2 7. 5YR3/1	基 構	上層のみ砂土を含み、1.5cmの大粒を1%含む、しまり、粘性とともにやや高い。砂質混土。	

第11図 第1号住居址実測図



第12図 第1号住居址出土遺物実測図

キを施す。

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

(1) 住居址

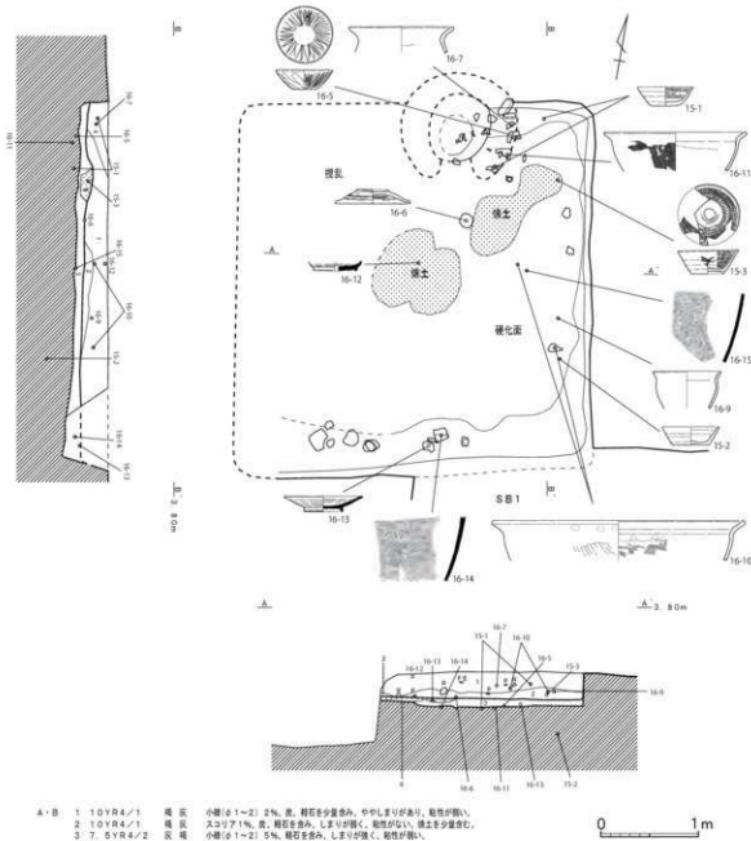
第2号住居址 (SB2) (第13図～第16図)

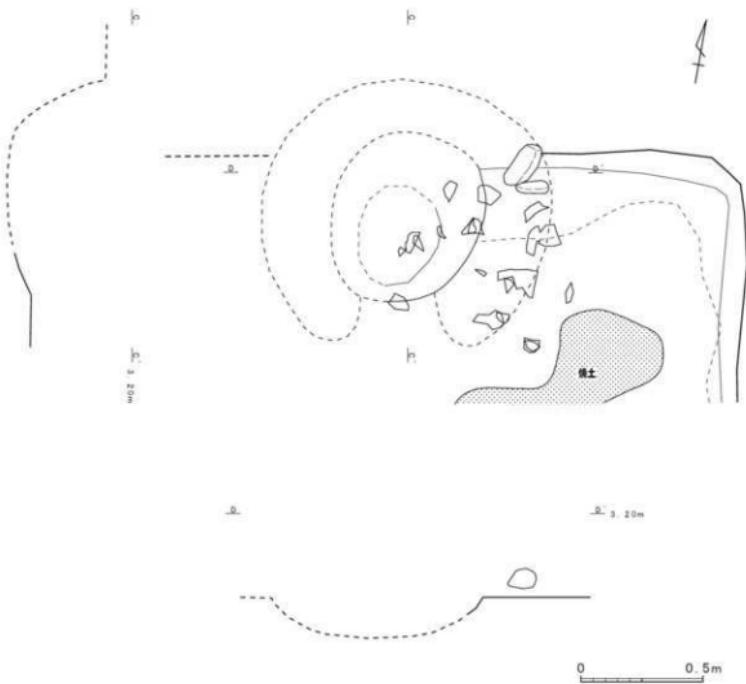
A区の中央やや東寄りで検出した。検出面は第2層(黄褐色土層)で、カマドに伴う袖石が検出され、第3層(黒色土層)まで掘り下げる平面形態を確認した。平面形態は方形を呈しており、規模は南北3.7m×東西3.6mで、検出面から掘り方までの深さは0.3mを測る。重複関係から第1号住居址より新しいと考えられる。主軸方位はN-6°-Wである。床面上に硬化面と2か所の焼土を検出した。カマドは掘り方と袖石の状況から北辺のやや東寄りに構築しているものと判断される。本住居址の時期は出土した遺物から9世紀に帰属すると思われる。

出土遺物は15点を図示した。1～11が上師器、12～15が須恵器である。

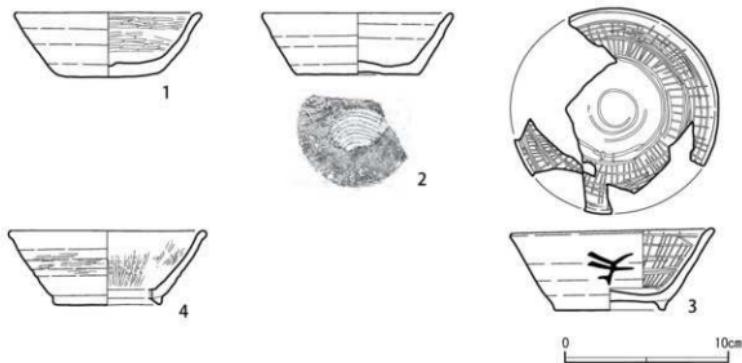
上師器はロクロ成形の环(1～5)と环蓋(6)、甕(7～9)、壺(10・11)がある。1～5は床面から出土した。1は外面部をナデ調整、底部をヘラケズリで整え、内面は横位ヘラミガキを施す。2は内外面ともにナデ調整、底部中央に糸切り痕を残してヘラケズリで整える。3・4は外面がナデ調整、内面が横位と放射状のヘラミガキを施し、高台を貼り付けている。3は外面に「大」もしくは「天」の文字を墨書している。5は底径が縮小し、小型化した甲斐型の环である。体部外表面はナデ調整の後、体部から底部にかけて斜位のヘラケズリを施す。内面は見込みの暗文が無く、粗く放射状のヘラミガキを施す。6は環状のツマミが付く环蓋である。内外面ともに横位のヘラミガキを施す。内面には煤が付着する。7は長胴で薄手の甕である。口縁部から胴部にかけてナデ調整を施す。8・9は覆土で出土した小型で薄手の甕である。口縁部から胴部にかけてナデ調整を施す。10・11は壺で、いずれも口縁部と胴部の一部が残存し、口縁部は外反する器形を呈する。10は口縁端部を内面に折り返している。

須恵器は有台环(12)、皿(13)、大甕(14・15)がある。12は有台环で底部が高台より突出する伊場A類と呼ばれるものである(池谷1995他)。13は灰釉陶器を模倣した皿である。浅い体部に高台を付け、口縁部を外反気味に引き出している。ミズビキ手法で整形し、底部を回転ヘラケズリで整えている。14・15は甕の胴部である。14は内外面、15は外面に叩き目文が残る。これらの遺物は9世紀に帰属するとと思われる。

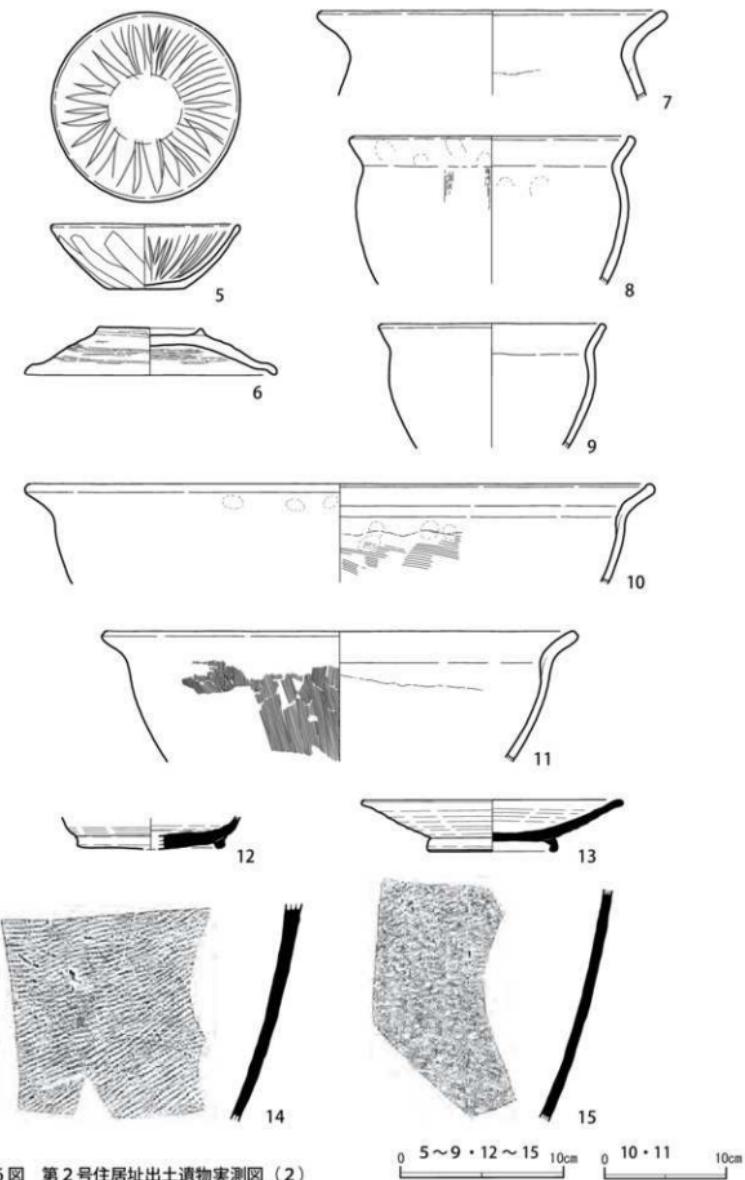




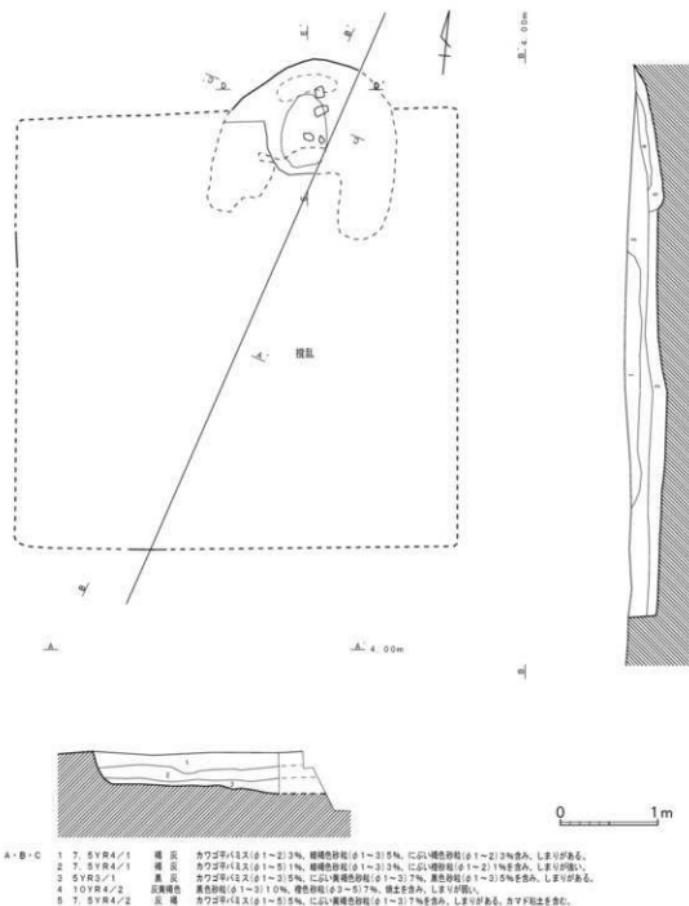
第14図 第2号住居址カマド実測図



第15図 第2号住居址出土遺物実測図（1）



第16図 第2号住居址出土遺物実測図（2）



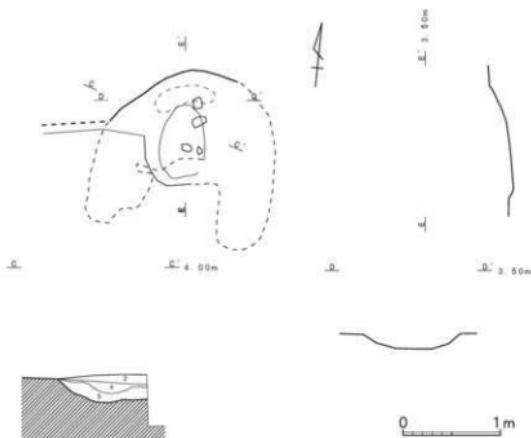
第17図 第3号住居址実測図

第5節 近世以降の遺構と遺物

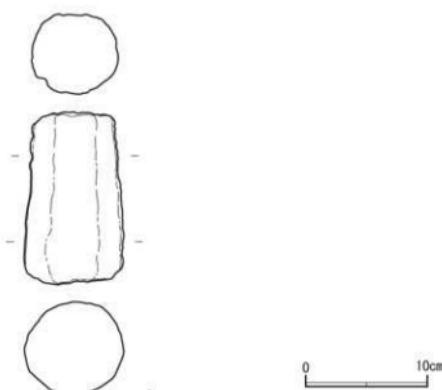
(1) 溝状遺構

第1号溝状遺構 (SD1) (第20図・第21図)

本調査区の西寄りで検出した南北方向に走る溝状遺構である。南は直線状に延び、北は緩やかに湾曲する。両端ともに調査範囲外に延びるため全長は不明である。検出した規模は、長さ 80.3m、幅 0.3m ~ 0.6m、深さ 0.3m ~ 0.8m を測る。土層断面図を観察した結果、溝状遺構を安山岩の切石で積み上げ、石組みの水路として整備していることが判明した。この石組みは出土遺物等から近代のものと考えられ



第18図 第3号住居址カマド実測図



第19図 第3号住居址出土遺物実測図

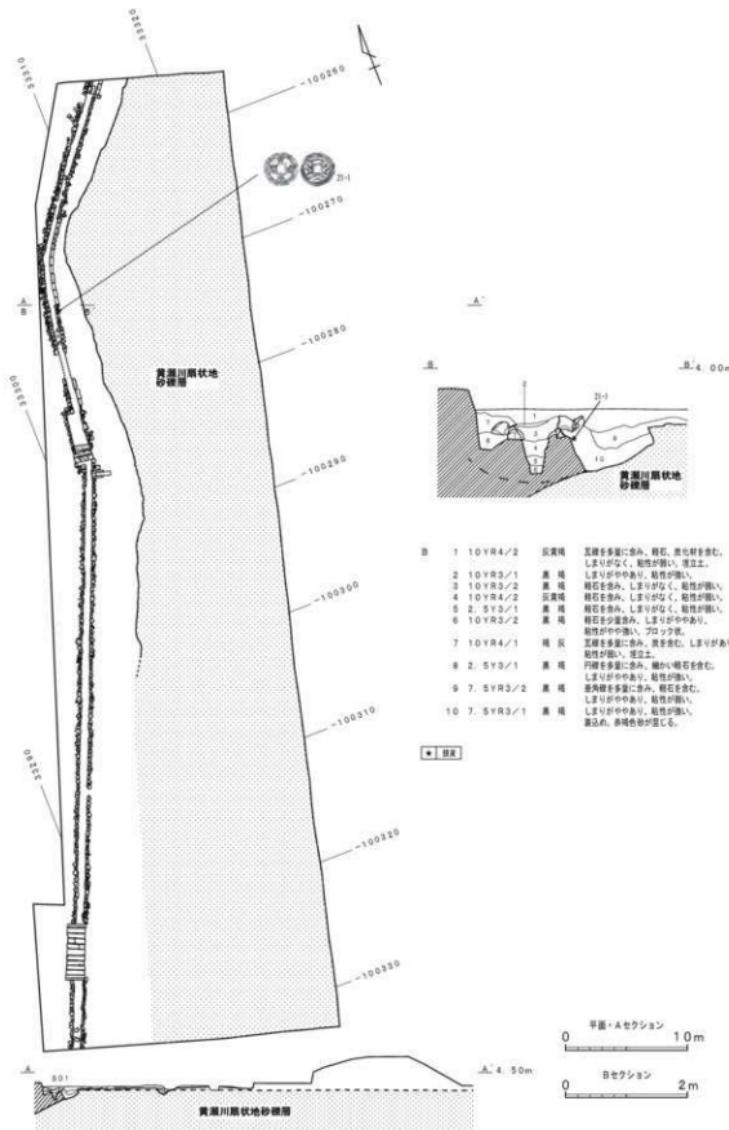
る。本遺跡の東側から西側に張り出る黄瀬川扇状地砂礫層を避けるように造成している。

石組み以前の溝状遺構の覆土から銭貨が2点出土し、拓影図で示した。1は寛永通寶（四文銭）である。裏面に波紋があり、明和5年（1768）から鋳造しているものである。2は大正時代に鋳造した一錢青銅貨幣である。この他、石組み水路の埋没過程で陶磁器、ピン、筆記具、スパイク等が出土している。

第6節 性格不明遺構

第2号性格不明遺構（SX2）（第22図）

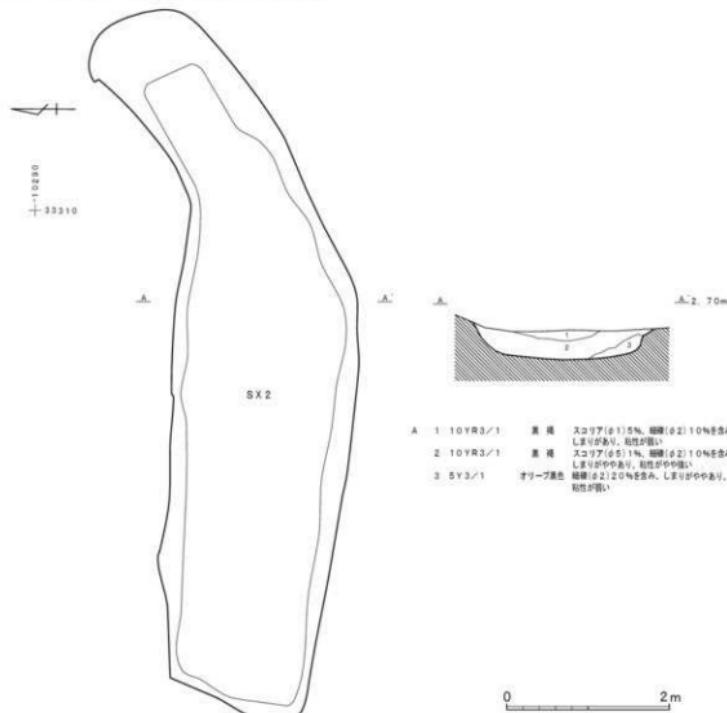
D区・E区で検出した。遺構検出面は、第2層（黄褐灰色土層）である。平面形態はノの字状を呈しており、北東から西方向に走る。規模は長さ 8.9m、幅 1.4m～2.3m、深さ 0.3m～0.4m を測る。検



第20図 第1号溝状遺構実測図



第21図 第1号溝状遺構出土遺物拓影図



第22図 第2号溝状遺構実測図

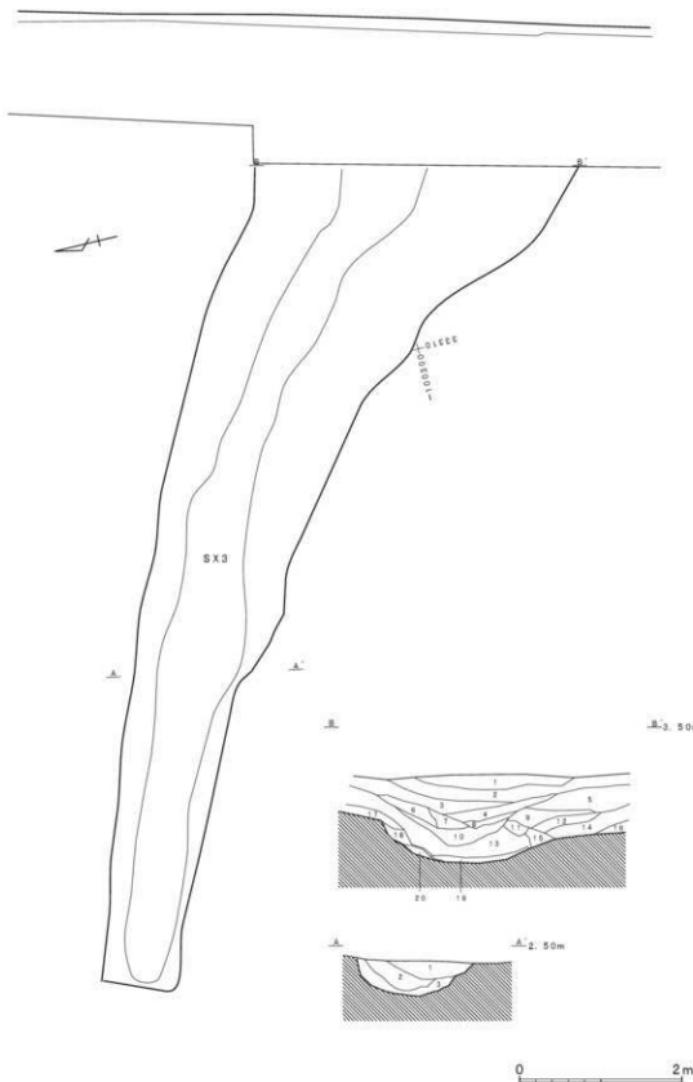
出状況から自然流路と考えられる。遺物は出土しなかった。

第3号性格不明遺構 (SX3) (第23図・第24図)

D区で検出した。東西方向に走る溝状の遺構で、東端が調査区外へ延び、西端が搅乱を受けている。規模は長さ 10.8m、幅 1.0m ~ 3.9m、深さ 0.5m を測る。平面形態と断面形態から自然流路と考えられる。

第7節 遺構外遺物

調査区内の遺物包含層など遺構外で出土した遺物を一括した。土器については破片資料が多く、図化できたものは 186 点である。その他の遺物について図化できたものは 12 点で、合計 198 点である。



第23図 第3号性格不明遺構実測図

A	1 SYRS/1	直 瓶	スコリア(φ1) 10%, 塗色砂利(φ1) 50%, 塗色砂利フロコ(φ1) 10%を含み、しまりがなく、軸性が強い切妻土層	
2	2 NS/1	直 瓶	スコリア(φ2) 2%, 塗色砂利(φ2) 10%, 塗色砂利(φ1) 80%を含み、しまりがややあり、軸性がやや強い	
3	7 SYRS/1	直 瓶	スコリア(φ1) 10%, 塗色砂利(φ2) 5%を含み、しまりがややあり、軸性がやや強い	
B	1	TOYR4/3	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 3%, 漆色砂利(φ1～3) 3%, 漆色砂利(φ1～3) 1%, しまりがある切妻土層
2	2 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 3%, 黒色砂利(φ1～3) 1%, しまりがある切妻土層	
3	3 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 3%, 黒色砂利(φ1～3) 1%, しまりがある切妻土層	
4	4 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 3%, 黒色砂利(φ1～3) 1%, しまりがある切妻土層	
5	5 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 1%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(△S(φ1～3)) 5%を含み、しまりが強い切妻土層	
6	6 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりが強い	
7	7 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
8	8 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
9	9 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
10	10 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
11	11 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
12	5 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがやや強い切妻土層	
13	10 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
14	15 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある切妻土層	
15	7 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 2%, 黑色砂利(φ1～3) 3%を含み、しまりの少ない切妻土層	
16	10 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 3%, 黑色砂利(φ1～3) 3%を含み、しまりがやや強い切妻土層	
17	10 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりが強い	
18	7 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%, 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりが強い	
19	10 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 10%, にいし(漆色砂利(φ1～3) 7%), 黑色砂利(φ1～3) 7%を含み、しまりが強い	
20	10 SYR4/1	直 瓶	カワヨリ(△S(φ1～3)) 10%, にいし(漆色砂利(φ1～3) 7%), 黑色砂利(φ1～3) 5%を含み、しまりがある	

第24図 第3号性格不明遺構土層注記

1. 土器

(1) 弥生時代（第25図・第26図）

弥生時代の土器は壺8点、甕3点の合計11点を図示した。

弥生時代中期と思われる土器は、壺4点（1～4）、甕3点（9～11）の合計7点である。1～4は長頸の形態をとる細頸壺で3・4は下膨れ形の胴部をもち、2・3は赤彩する。文様構成は縄文を主文様とする1・2、縄文とヘラ描文を組み合わせる3、櫛描文を施す4がある。器面にミガキを施すものが多い。1は口縁端面と外面に縄文帯をもち、意匠文としてヘラ描沈線の中に縄文による結紐文を表出する。3は胴部上半に沈線を付加した縄文帯と沈線を充填した鋸歯文を施し、円形浮文を貼り付ける。4は頸部から胴部にかけて波状文を配した複帯構成と疑似流水文を組み合わせている。9は横位羽状文台付甕である。ハケを基調として横位羽状文一段をヘラ描沈線で施す。口縁端部の刻み目はハケ状工具を用いる。10・11は緩やかに曲面して外反する甕の口縁部で、端部に刻み目を施す。

弥生時代後期と思われる土器は、壺4点（5～8）である。5・6は口縁部である。折返し口縁が水平近くまで折れて端面が外側を向く。棒状浮文を施す。7・8は頸部である。7は焼成前の穿孔が認められる。内外面をハケメで整える。8は縄文の上に円形浮文を貼り付け、赤彩している。

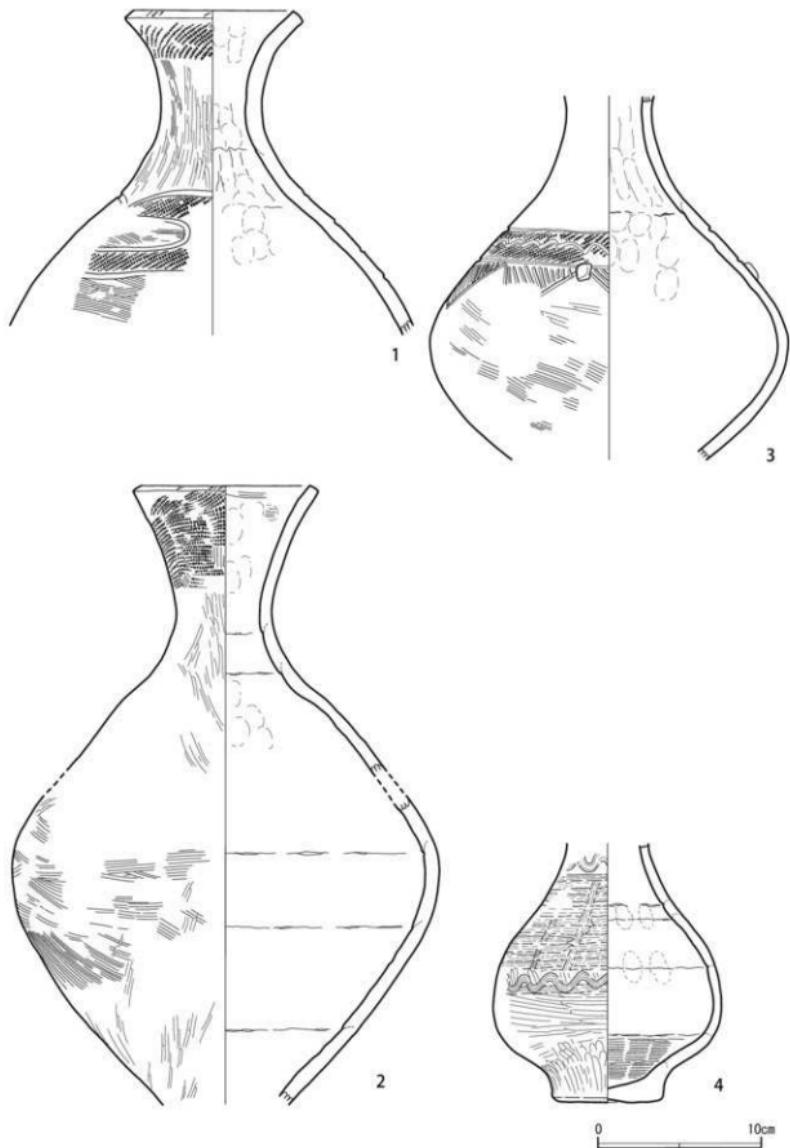
(2) 古墳時代（第27図～第32図）

土師器は甕19点、壺21点、高环10点、鉢4点、埴3点、甑1点、塙1点、ミニチュア土器18点、須恵器は壺蓋1点、壺身1点、高环2点、甕1点、瓶2点、碗類1点の合計85点を図示した。

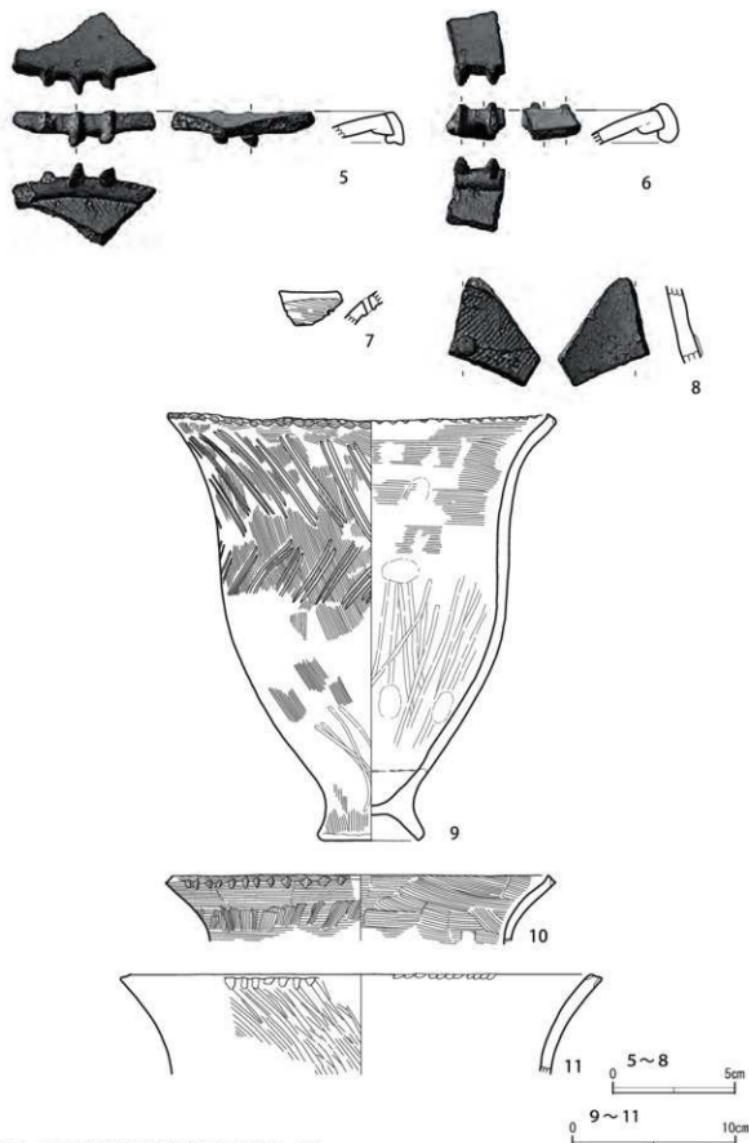
古墳時代前期前葉と思われる土器は、甕8点（12・13・20・23～27）、壺3点（46～48）、高环1点（52）、ミニチュア土器13点（71・77～88）の合計25点である。古墳時代前期中葉と思われる土器は、甕9点（14～18・21・22・28・29）、壺15点（31～43・45・49）、高环4点（53～56）、鉢2点（62・63）、埴3点（66～68）、小型器台4点（72～75）の合計37点である。古墳時代前期後葉と思われる土器は、甕1点（19）、壺3点（44・50・51）、高环4点（57・59～61）、鉢2点（64・65）、ミニチュア土器1点（76）の合計11点である。古墳時代前期末葉と思われる土器は、甕1点（30）、高环1点（58）の合計2点である。古墳時代中期・後期と思われる土器は、土師器2点（69・70）、須恵器8点（89～96）、の合計10点である。

a. 土師器

甕（第27図12～24・第28図25～30） 12～22はS字状口縁台付甕である。12は口縁部から胴部下位、13は口縁部から肩部が残存し、いずれも尾張のS字状口縁台付甕B類に相当する（赤塚次郎1990）。肩が張り、頸部から離脱して横位のハケが施される。14は口縁部第二段が外反する。口縁部



第25図 弥生時代遺構外出土遺物実測図（1）



第26図 弥生時代遺構外出土遺物実測図（2）

内面に強い面取りがあり、頸部の屈曲部内面にハケ調整が認められる。尾張のS字状口縁台付壺B類の新段階に位置付けられる。15～18は口縁内部の面取りが弱い。17は地域型S字状口縁台付壺である（渡井2000）。19はS字状口縁台付壺の口縁部で、内外面をヨコナデで整える。頸部に粗いハケによる調整を施す。20～22はS字状口縁台付壺の脚台部である。21と22は裾部を内面に折り返しており、外面に不連続ナナメハケを施す。23～25は口縁部が単純に外反するくの字状口縁台付壺である。23・24は頸部の屈曲が明瞭で、口縁部外面はハケ調整の後ヨコナデで仕上げている。25は口縁部が緩やかに外反する台付壺で、口縁部外面はナデで仕上げている。26は有段口縁の壺で口縁帯の幅は1.5cmを測る。外面はハケ調整を縦位に施し、内面はハケ調整を横位に施す。庄内段階の西日本系のものと推測される。27・28は台付壺の脚台部で、ハの字状に開く。ハケ調整を施すもの（27）とナデ調整を施すもの（28）がある。29は口縁部が単純に外反するくの字を呈する小型丸底壺である。球形の胴部に、短く外方に開く口縁部が付く。口径と体部径がほぼ同一である。30は平底壺の底部である。底部には1本超え、1本潜り、1本送りの網代痕がある。

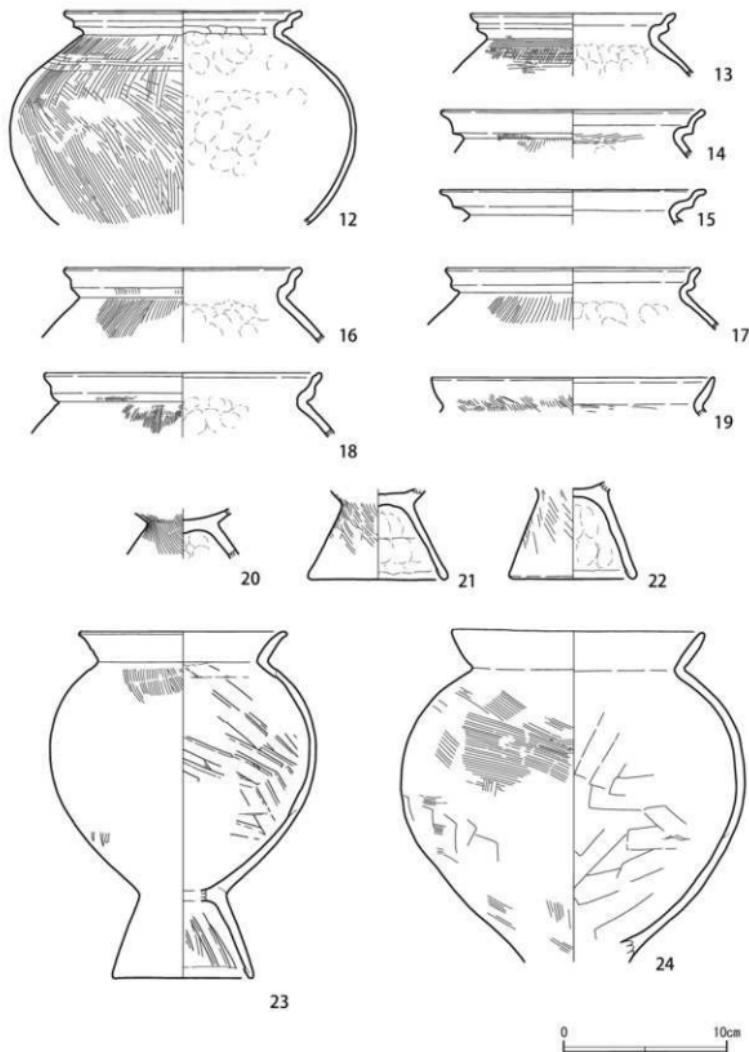
壺（第28図31～35・第29図36～48・第30図49～51） 31～49は広口壺で、31～34は折り返しの幅が比較的広く、口縁端部外面の面取りが明瞭で、その断面が正方形に近い。口縁端部内面にS字状結節文（31～34）や円形浮文（31）を施す。35は頸部から緩やかに外反する折返し口縁壺である。36～42は「大廓式の大型壺」の複合口縁部で口縁端部内面に粘土帯を添付しているもの（36・37）、上方に開く複合部のうち、その下端を突出させるもの（38～42）があり、複合部に棒状の貼付文（36～40）や沈線文（41・42）やS字状結節文（37）を施す。43は伊勢型二重口縁壺の口縁部から頸部である。頸部は緩やかな弧を描いて外反し、屈曲部を経て大きく外反する口縁部へ移行する。口縁端部は面取りをしている。44は畿内系二重口縁壺の口縁部から頸部である。頸部が緩やかに外反して、更に屈曲部を経て大きく外反する口縁部へ移行する。口縁端部と屈曲部に刺突文を施す。45は単純口縁壺で、口縁端部を面取りしている。46は頸部が明瞭に屈曲する小型の広口壺である。47～49は広口壺の頸部から胴部で、肩部から頸部にかけてS字状結節文などで区画した二段の縄文帶に円形浮文（47）や円形刺突文（48）を附加している。49は無文化が進み、外面を縦位のヘラミガキ、内面をハケで整える。50は大型の直口壺の胴部から底部で、平底の底部には木葉痕が残る。51は直口壺の口縁部から肩部で、肩部を丁寧なヘラミガキで整えている。

高坏（第30図52～56・第31図57～61） 52は高坏の脚部で並行櫛描文を施す。53は坏部下位に段を有する有段高坏の坏部である。坏部が段より内湾気味に開く。54は坏部が緩やかに内湾する。55は口縁部が直線的に開く。内面をハケ、外面をヘラミガキで整える。56はラッパ状に開く脚部である。57・59は坏部の下位に稜を形成して、口縁部は内湾気味に大きく開く。脚部は柱状に延びて内面にシボリが残る。坏部から脚部の外面はタテヘラミガキを施す。58は有段高坏の坏部である。坏部下位に稜を形成し大きく開いている。外面から内面まで丁寧なタテミガキで整える。脚部の接合は外面に独立式の接合痕が残る。60はハの字状に開く脚部である。61は柱状の脚部でタテヘラミガキを施す。

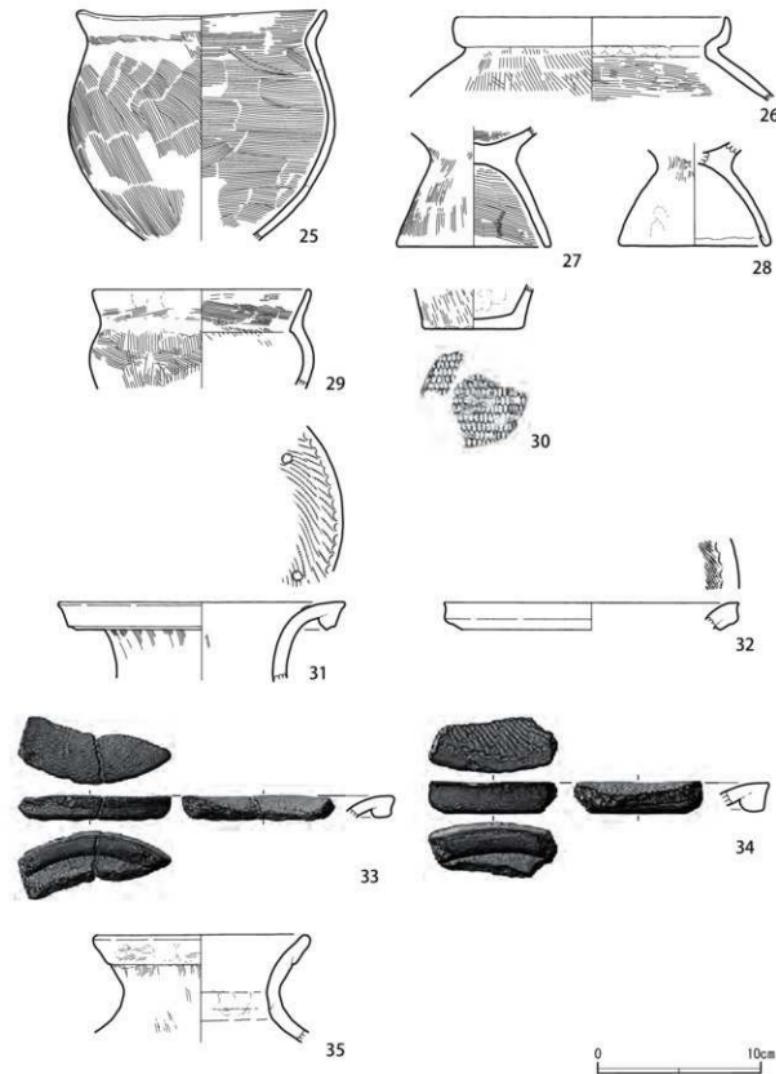
鉢（第31図62～65） 62～65は鉢である。62は口縁屈曲鉢である。63は小型鉢で、底部が上げ底になる。64は体部から底部が残存し、上げ底の底部から体部は内湾して立ち上がる。65はやや高台状の底部から体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外傾する。

埴（第31図66～68） 66は小型埴の口縁部で外反気味に立ち上がり、口縁端部が内湾気味になる。67は小型丸底埴の体部～底部である。68は球形の体部にやや外方に開く口縁部が付くため体部径より口径の方が大きい。口縁部はハケ調整を横位に施し、体部外面はハケ調整を縦位に施す。

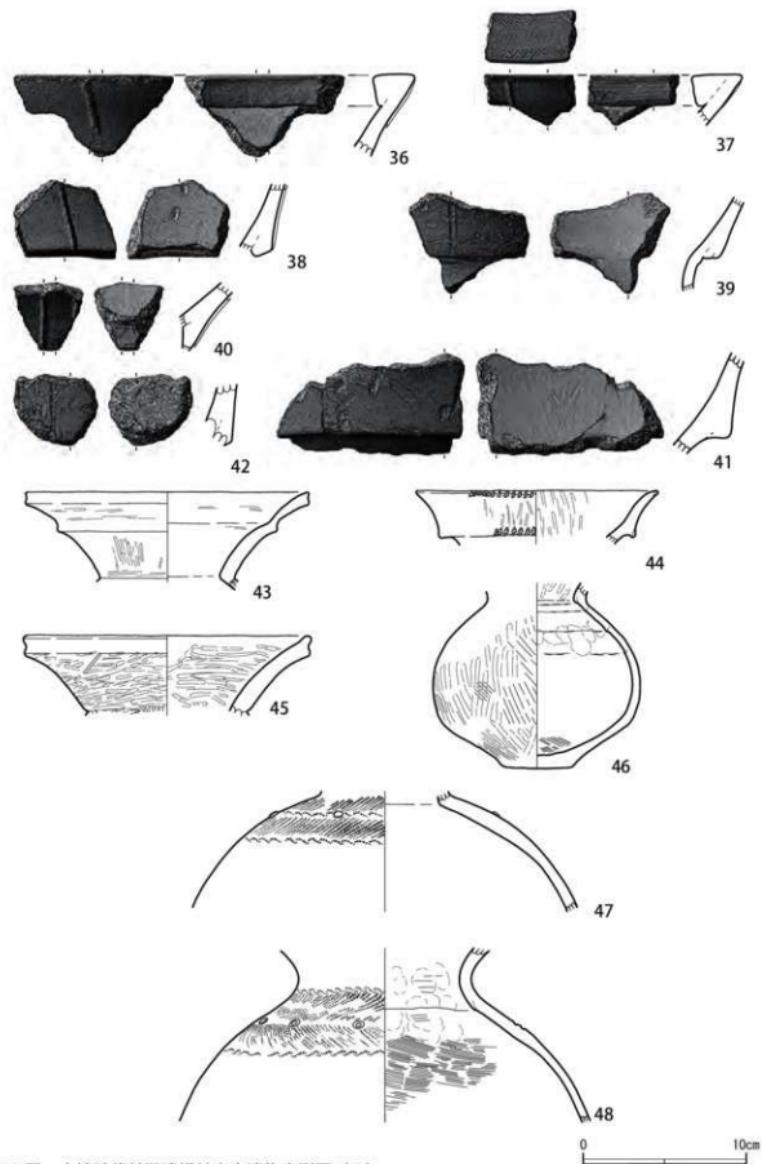
その他（第31図69～78・第32図79～88） 69は壠で、6世紀後半から7世紀のものと推測される。（山本1995）。70は壠の口縁部で、大きく外反する。7世紀後半と推測される。71～88はミニチュア土器（供



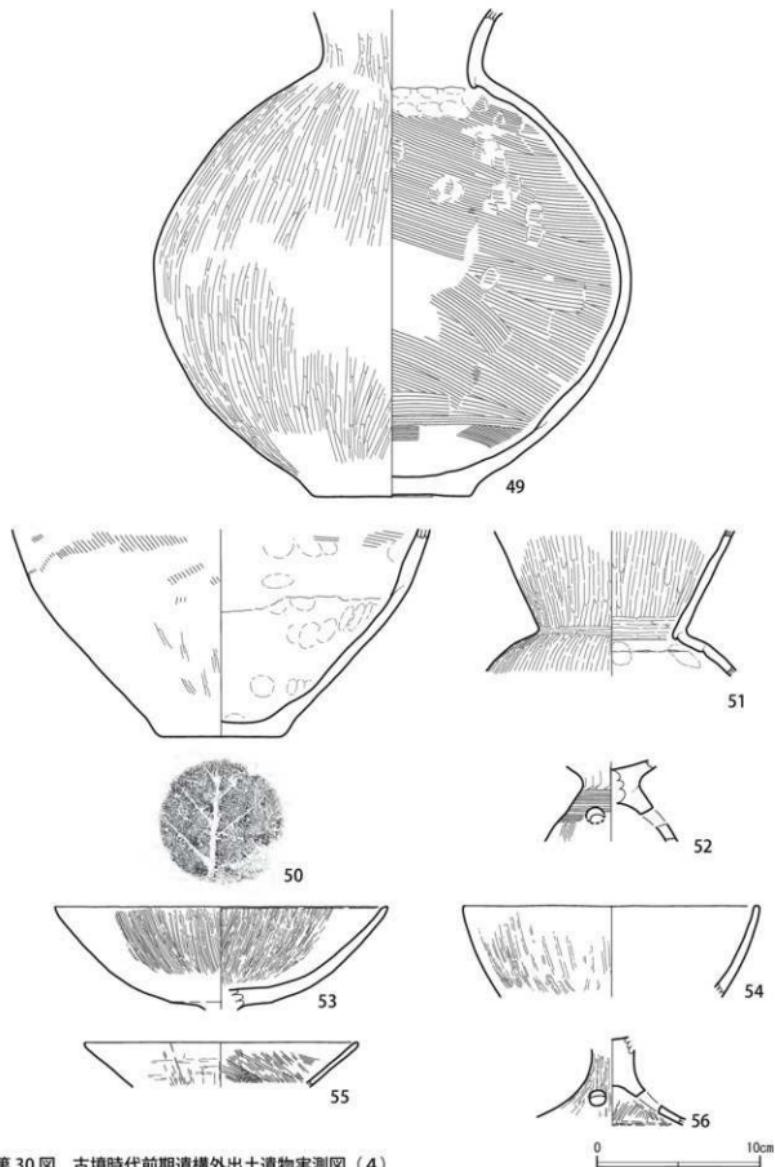
第27図 古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（1）



第28図 古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（2）



第29図 古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（3）



第30図 古墳時代前期遺構外出土遺物実測図（4）

献土器）である。71は短頸壺に似ており、底部中央がくぼむ。内外面ともに指頭で成形した後、体部から底部にかけてヘラケズリで整形し、ハケメで整えている。72～75は小型器台である。72は脚部がハの字状に開く。73は受部で、ほぼ水平に開き、口縁端部は外反する。74は円窓が1か所残存する。75は平坦な天井部から脚裾部に向かって内湾気味に開く。76は小型鉢で、平底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部はやや外反する。77・78は鉢に類似する。77は底部から胴部にかけて輪積み痕を指頭で整え、口縁部は輪積み痕を残している。78は、指頭で斜めに引き上げて整形している。口縁部は一部欠損する。底部に木葉痕が残る。79～87は环状の手捏土器である。88は平底の壺型土器である。底部1か所と底部よりやや上位に2か所以上を焼成前に穿孔している。平底で体部の外面にハケメ後ナデで整えている。

b. 須恵器

蓋（第32図89） 天井部の一部と口縁部が残存する返り蓋である。遠江の須恵器編年（鈴木2001）IV期後半から末の返り蓋に類似することから、7世紀後半から7世紀末のものと推測される。

坏身（第32図90） 陶邑編年M T 15並行期の猿投古窯、遠江の須恵器編年II期の坏身に類似することから、5世紀後葉から6世紀前葉のものと推測される。

高坏（第32図91・92） 脚部が残存する。遠江の須恵器編年I期の短脚1段透高坏の脚部に類似することから6世紀後半のものと推測される。

龜（第32図93） 遠江の須恵器編年IV期の龜に類似することから7世紀代のものと推測される。

瓶（第32図94・95） 口縁部が残存する。遠江の須恵器編年III期の瓶口縁部に類似することから7世紀代のものと推測される。

脚付碗類（第32図96） 口縁部が残存する。7世紀代のものと推測される。

（3）奈良・平安時代の遺物（第32図～第37図）

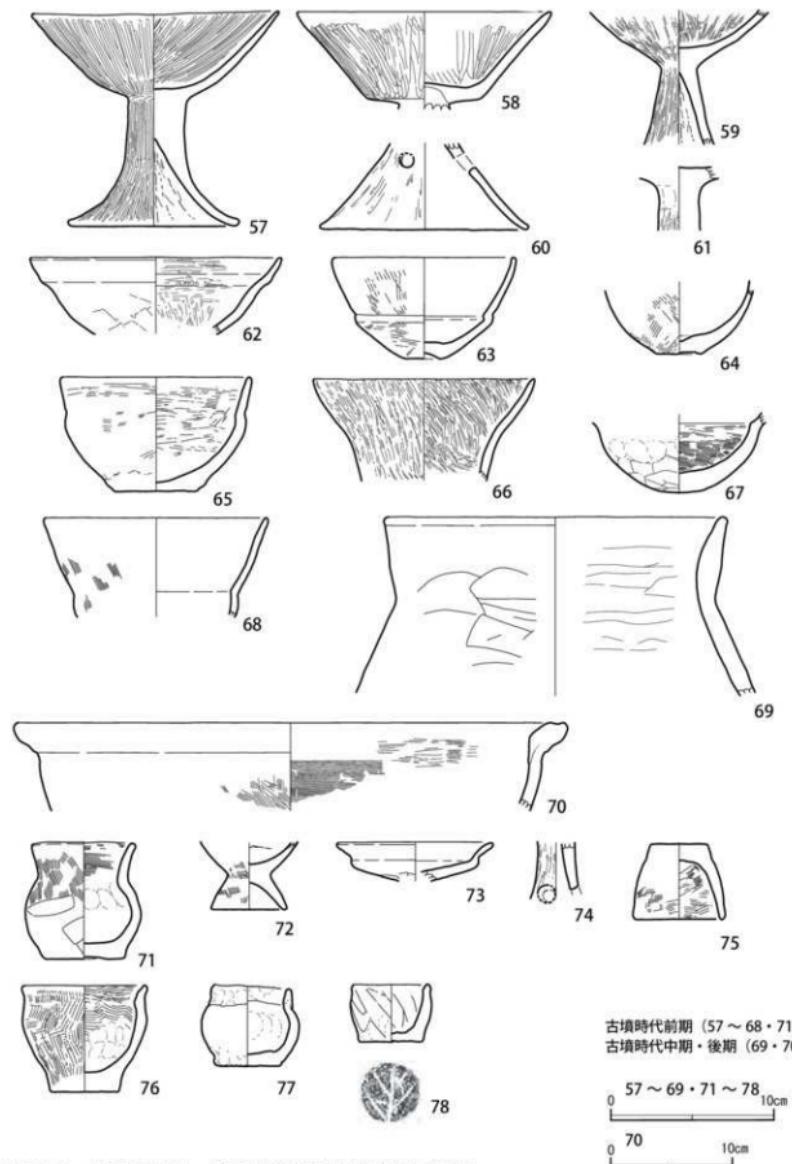
土師器は环6点、坏蓋1点、甕3点、壺6点、須恵器は坏蓋10点、坏16点、碗6点、龜1点、壺5点、甕1点、灰釉陶器は皿3点、碗5点、瓶2点、山茶碗は4点、円面硯1点の合計70点を図示した。

奈良時代前半と思われる土器は、土師器の坏1点（97）、甕2点（104・105）、壺2点（107・108）、須恵器の坏蓋9点（113～121）、坏12点（123～126・131～138）、碗4点（139～142）、壺1点（146）、円面硯1点（166）の合計32点である。奈良時代後半と思われる土器は、土師器の坏1点（98）、甕1点（106）、壺4点（109～112）、須恵器の坏蓋1点（122）、坏4点（127～130）、碗1点（143）、龜1点（145）、壺4点（147～150）、甕1点（151）の合計18点である。

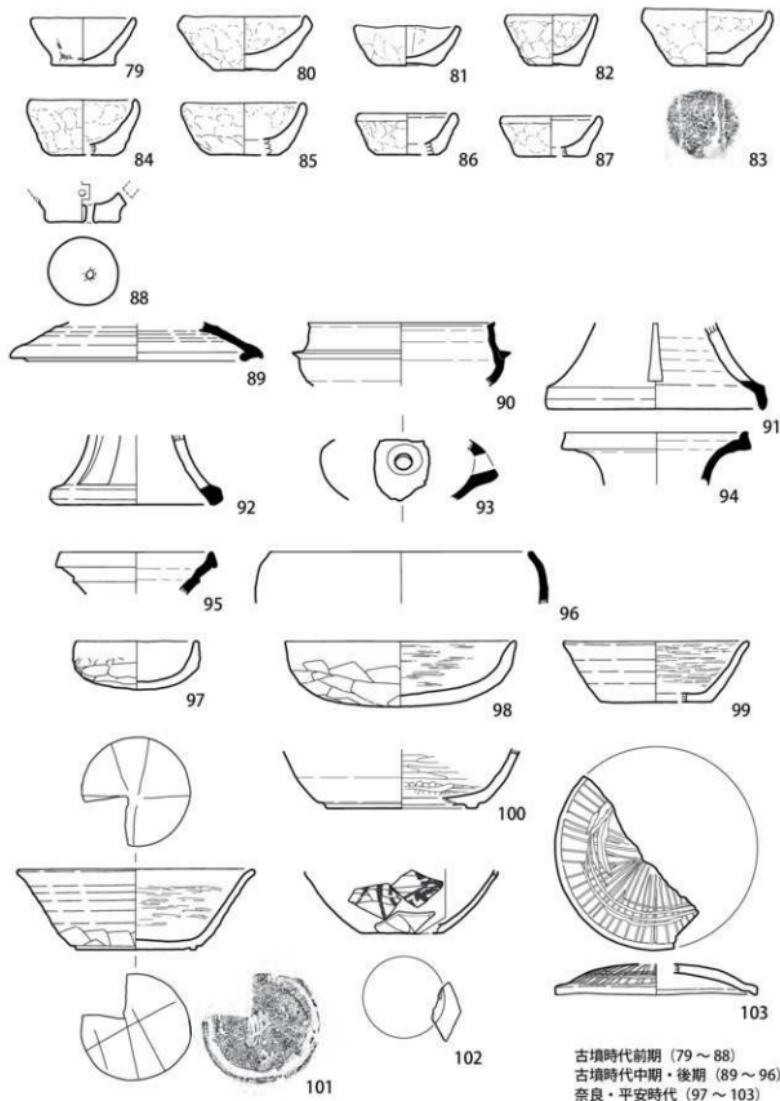
平安時代前葉と思われる土器は、土師器の坏3点（99～101）、坏蓋1点（103）、須恵器の碗1点（144）、灰釉陶器の皿2点（152・153）の合計7点である。平安時代中葉と思われる土器は、土師器の坏1点（102）、灰釉陶器の碗4点（155・156・158・159）の合計5点である。平安時代後葉と思われる土器は、灰釉陶器の皿1点（154）、碗1点（157）、瓶2点（160・161）、山茶碗4点（162～165）の合計8点である。

a. 土師器

坏（第32図97～102） 97・98は、非ロクロ成形の坏である。97は口縁部が底部から直立気味に立ち上がる。口縁部をヨコナデ、体部の内外面をハケメ後ナデで整え、底部を手持ちヘラケズリで整える。98は底部は扁平な丸底を呈する。口縁部下にわずかに稜があり、口縁部はやや外傾する。体部の外面をヘラケズリ、内面をヨコヘラミガキで整える。99～102はロクロ成形の坏である。99は無台坏で、ミズビキによる整形の後、底部を切り離し手持ちヘラケズリで整える。100・101は有台坏で、100は内面をヨコヘラミガキ、外面をヨコナデで整える。底部は台部を削り出し、回転ヘラケズリで整えてい



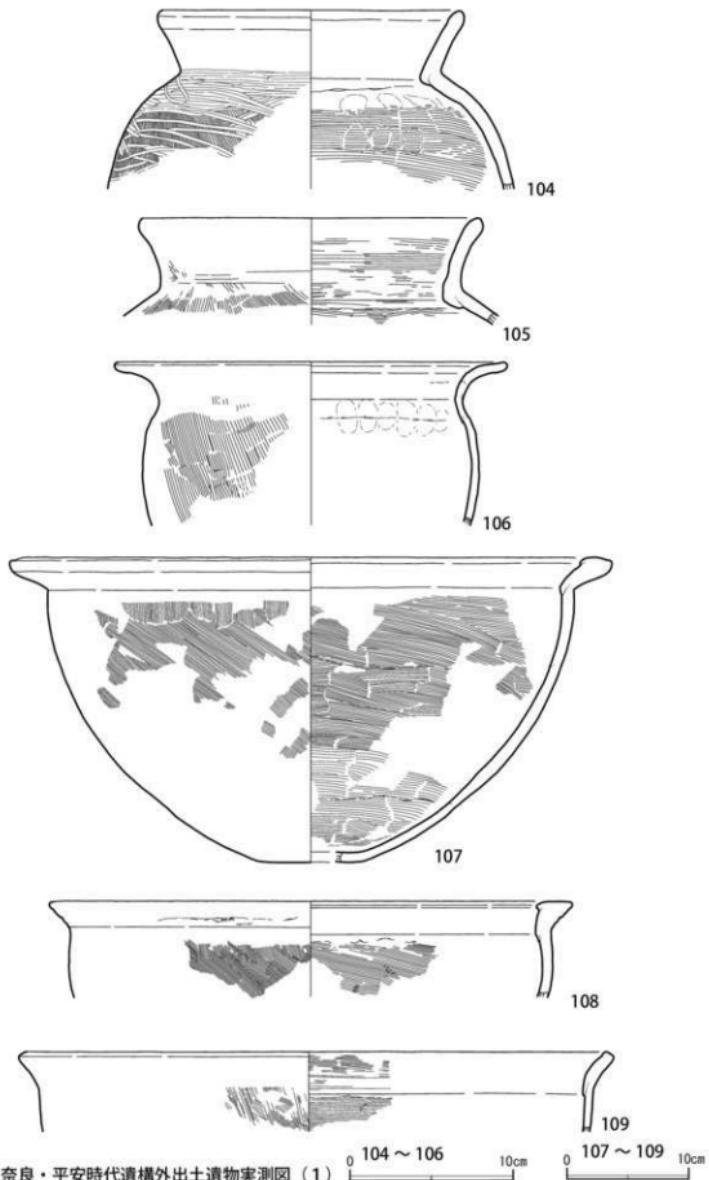
第31図 古墳時代前期～古墳時代後期遺構外出土遺物実測図



古墳時代前期 (79 ~ 88)
古墳時代中期・後期 (89 ~ 96)
奈良・平安時代 (97 ~ 103)

0 10cm

第32図 古墳時代前期～奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図



第33図 奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（1）

る。101は内面をヘラ状工具で横に磨き、外面をヨコナデで整える。底部は手持ちヘラケズリで台部を削り出し、糸切り痕が残る。ヘラによる記号が認められる102は甲型の壺で墨書き器である。体部内面をヨコナデ、外面を手持ちヘラケズリで器壁を厚さ約3mmに整えている。底面は手持ちヘラケズリで整え、わずかに糸切り痕を残す。墨書きの判読は困難であった。

壺蓋（第32図103） 須恵器の壺蓋を模倣している。天井部が低く、端部が明瞭に屈曲する。外面を放射状へラミガキの後、一部を回転へラミガキで整える。内面はナデで整える。

甕（第33図104～106） 104・105は「駿東型甕」である。104は厚手の球胴甕口縁部から胴部で、胴部の内外面にハケ調整、外面には特徴的なヨコヘラミガキを施す。106は口縁部がコの字状を呈する8世紀後半の遠江を中心に分布する長胴甕である。薄手で胴部外面のハケメがやや粗い。

壺（第33図107～109・第34図110～112） 107は口縁部から底部を残し、108～112は口縁部と胴部の一部を残す。107・108は、口縁部の断面が三角形を呈する。107は口縁部が大きく外反し（瀬川1980）、108は内面が一部突出している。109の口縁部は直立した胴部からやや外反しながら直行し、内面に折り返す。口縁部外面にヨコナデ、口縁部内面に横位のハケ調整を施し、ナデで整える。胴部外面は縦位のハケ調整を施す。110の口縁部は胴部から反り返るように外反し、内面に折り返す。口縁部外面は縦位のハケ調整の後、ヨコナデを施す。口縁部内面は横位のハケ調整を施し、ナデで整える。胴部外面は縦位のハケ調整を施す。111の口縁部は直立した胴部からやや外反しながら直行し、内面に折り返す。口縁部外面にヨコナデ、口縁部内面に横位のハケ調整を施し、ヨコナデで整える。胴部外面は縦位のハケ調整を施し、横位に粗いミガキを入れている。112の口縁部はやや外反し、内外面ともにヨコナデで整える。

b. 須恵器

壺蓋（第34図113～122） 113～122は天井部が丸味をもち端部が屈曲する。内外面をナデで整え、天井部を回転へラケズリで調整している。このうち113～116・122が摘み蓋である。113は扁平化した摘みを貼り付け、114は擬宝珠状摘みが認められる。122は天井部の高さが低い。

壺（第35図123～138） 123～138は有台壺である。内外面をナデで整え、底面に台部を貼り付け、回転へラケズリで整えている。128・129は箱形の有台壺で8世紀から9世紀の助宗古窯産の製品に類似する（贊2001）。130は箱状の断面を呈する。124は底部が摩耗しているため、硯として転用された可能性がある。138は底部が高台より突出する。

碗（第35図139～144） 139～144は無台碗である。139～142は内外面をナデで整形し、底部をヘラケズリで整えている。142は底部にヘラによる記号の一部と推測される刻みが認められる。143は軟質で、外面をナデで整え、底部の糸切り痕を持ちヘラケズリで整える。144はミズビキによる整形の後、底部を回転糸切りで切り離し、ヘラで記号を描いている。

甕（第35図145） 甕の口頭部と思われる。内外面ともにナデで整える（鈴木2004）。

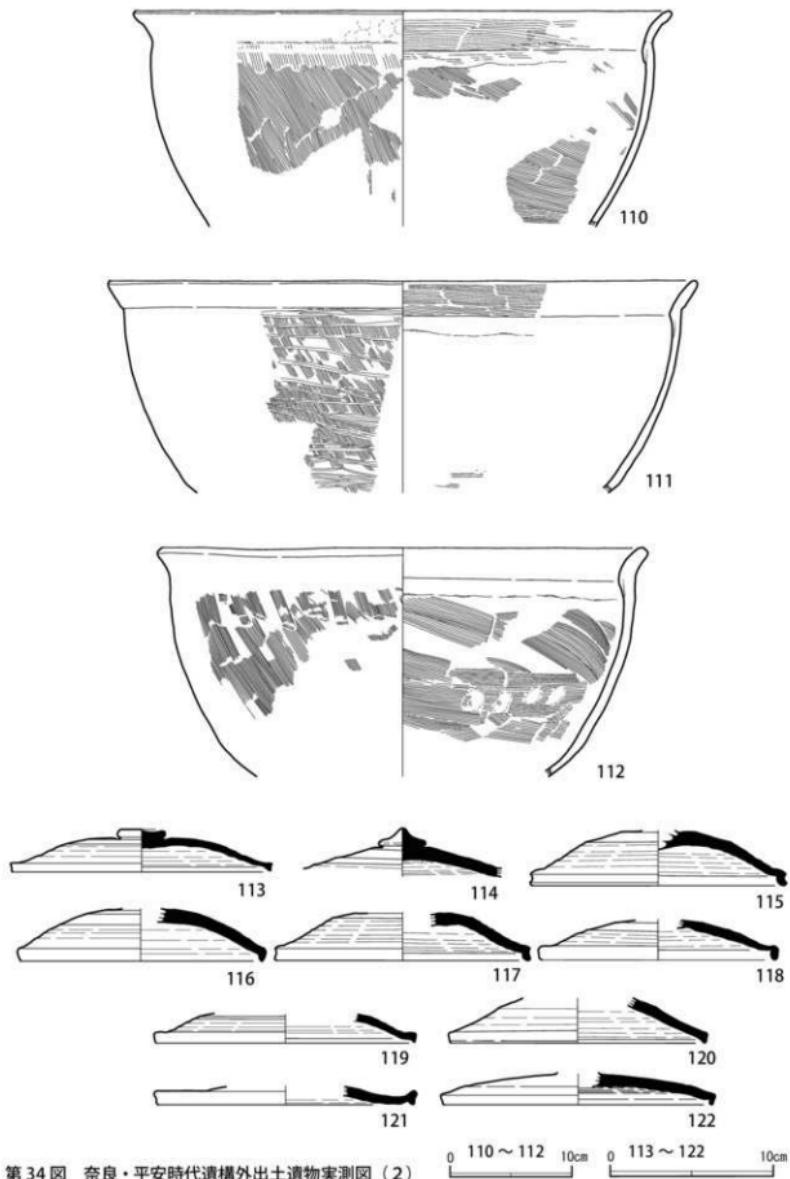
壺（第36図146～150） 146～149は長頸壺である。146・148は頸部、147は口縁部から頸部、149は胴部が残存する。外面をナデで整える。147・149は7世紀末と考えられる。150は小型壺の水差しである。伊場遺跡第32号木簡枝溝2区の遺物の中に類似の壺が出土している（鈴木2001・2014・2015）。

甕（第36図151） 口縁部を残す。二重沈線をめぐらせ、その上下に櫛歯刺突文を描いている。

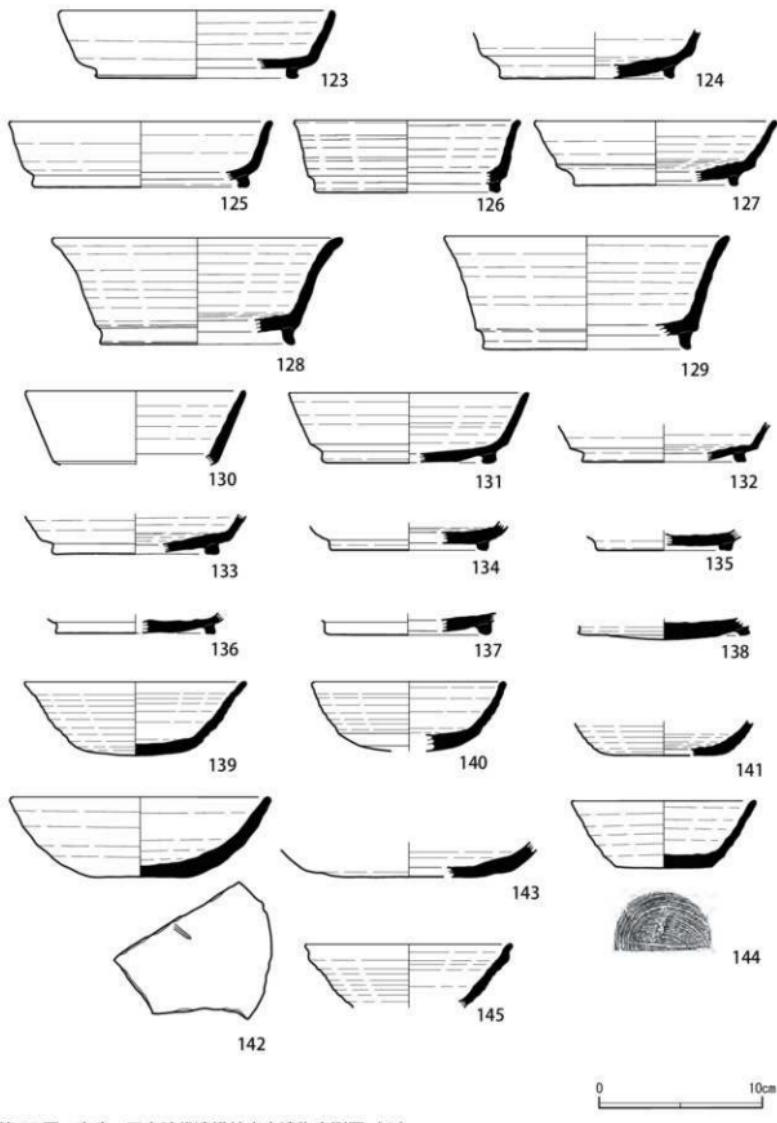
c. 灰釉陶器

皿（第36図152～154） 152は糸切り痕をヘラで整え、低い高台を貼り付けている。153は段皿である。回転へラケズリの後、低い高台を貼り付けている。154は糸切り痕をヘラで整え、高台を貼り付けている。

碗（第36図155～159） いずれも糸切り痕をナデで整え、高台を貼り付けている。157は体部内面



第34図 奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（2）



第35図 奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（3）

に重ね焼きの痕跡がある。158・159は小碗である。159は高台の断面が三角形を呈する。

瓶（第36図160・161） 瓶の底部。161は厚手の底部に四角い高台を貼り付けている。

e. 山茶碗（第36図162～165）

いずれも山茶碗の小碗である。162・165は糸切り痕を残し、高台を貼り付ける。162は高台部にモミ痕がある。163・164は糸切り痕をナデで整え、高台部を貼り付ける。

d. 円面硯（第37図166）

陶硯の円面硯が1点出土している。墨をする平らな部分から墨をためるくぼみである海の一部が残る。側面に直線的で透かしの痕跡がある。7世紀末～8世紀初頭（奈良文化財研究所 2006）。

（4）中世（第37図167・168）

167はかわらけである。ミズビキ手法で整形し、回転糸切りで切り離している。底部にはモミ痕が残る。器形と調整から12世紀と推測される。168は羽釜である。口縁部から体部にかけて内湾している。13世紀後半以降と推測される。

（5）陶磁器（巻頭カラー図版2）

陶磁器19点は写真のみの掲載とした。1～15・19は国産陶器で、産地は常滑窯・渥美窯・瀬戸窯産のものが出土している。1～8は常滑窯の甕で、いずれも胴部の破片である。1が13世紀のもの、2～8が13世紀から14世紀のものと推測される。9・10は渥美窯産の甕の胴部破片で、12世紀から13世紀のものと推測される。色調はいずれも黄灰色を呈し、10はわずかに釉薬が残る。11～15は瀬戸窯産である。11は鉛釉小皿の口縁部の破片である。口縁端部内面に釉薬が明瞭に残る。13世紀から15世紀のものと推測される。12～15は、古瀬戸から大窯期（15世紀から16世紀）のものと推測される。12～14は擂鉢で、12は口縁部である。15は擂鉢ないし甕の胴部の一部と推測される。いずれも銷釉がかかるており、色調は暗赤灰色ないし褐灰色を呈する。16～18はいわゆる貿易陶磁である。16・17は青磁碗、18は白磁碗である。16は体部から底部が残存する。連弁文碗で、13世紀のものと推測される。17は口縁部の破片で、14世紀から15世紀のものと推測される。18は玉縁碗の口縁部で、13世紀のものと推測される。19は備前窯産の擂鉢の底部と推測されるが、時期は不明である。

2. その他の遺物

（1）砥石（第38図）

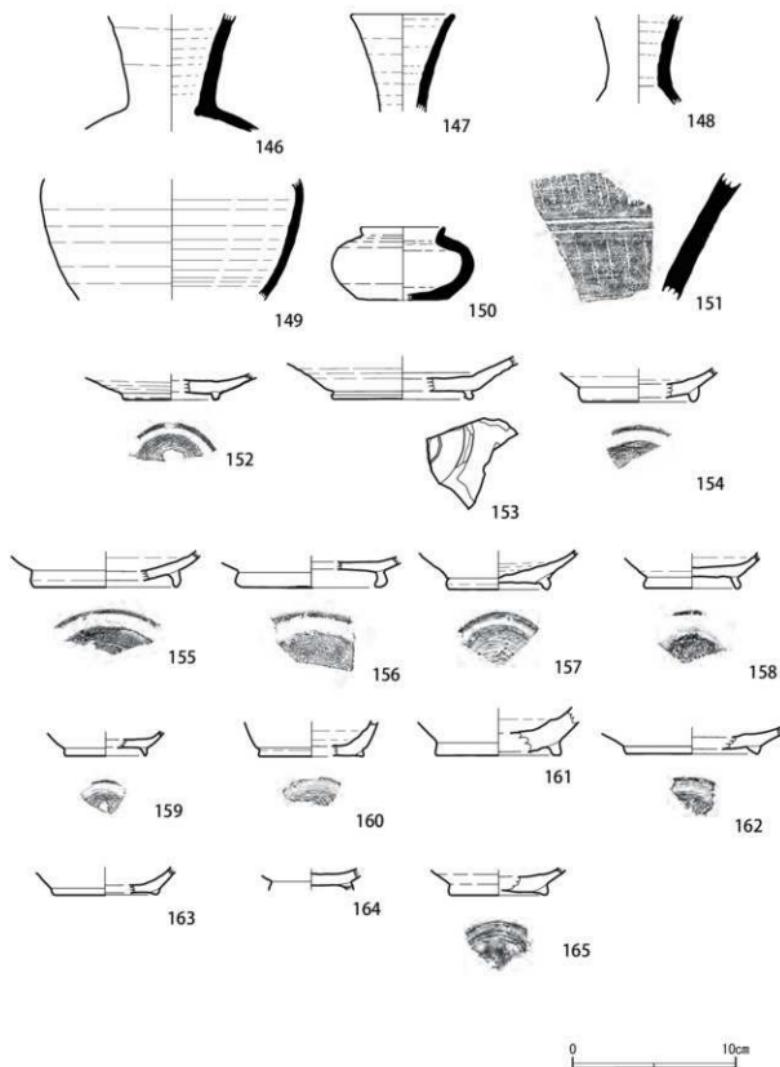
3点出土している。1は正面および左側面に顕著な使用痕が認められる。2は正面に顕著な使用痕が認められる。3は正面および右側面に使用痕が認められる。

（2）土錘（第39図）

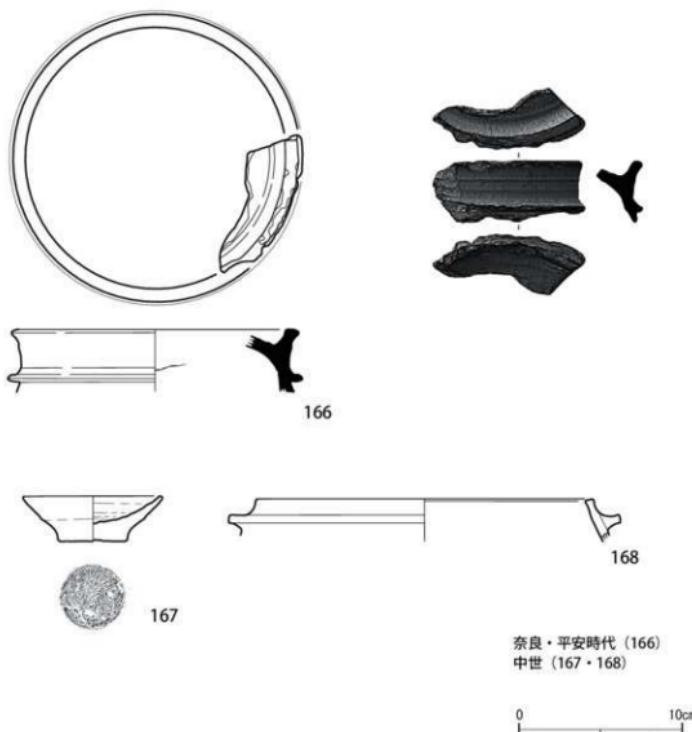
1～4は素焼きの管状土錘である。上下ともに面取りがなされ、1・2は完形、3・4は半分残存する。1は長さ5.3cm、幅4.1cmで、穿孔部径は2.2cmである。2は長さ3.8cm、幅3.9cmで、穿孔部径は1.5cmである。3は長さ5.3cm、幅4.1cmで、穿孔部径は1.7cmである。4は長さ5.8cm、幅4.2cmで、穿孔部径は2.1cmである。

（3）銭貨（第40図）

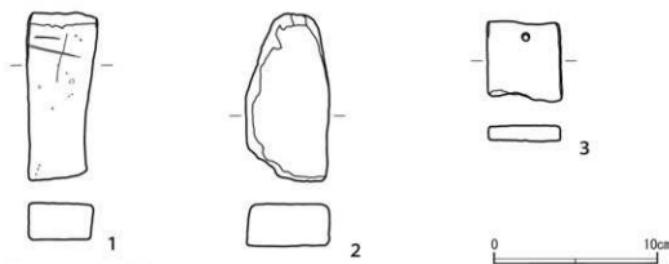
日本で鋳造した近世・近代銭貨が4点出土した。1・2は寛永通寶、3は文久永寶、4は明治28年に鋳造された五銭白銅貨幣である。



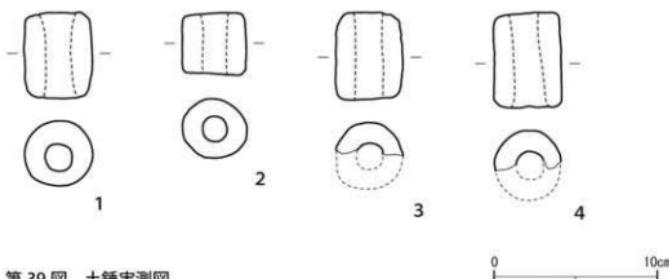
第36図 奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図（4）



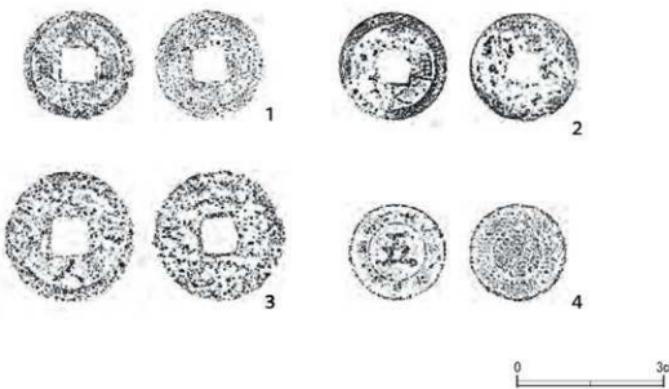
第37図 奈良・平安時代～中世遺構外出土遺物実測図



第38図 砧石実測図



第39図 土錘実測図



第40図 錢貨拓影図

第IV章 調査の成果と課題

御幸町遺跡は駿河湾に面した狩野川河口左岸の低地に形成された拠点集落である。

今回の調査では弥生時代後期後葉以降の溝1条、古墳時代の住居址1軒、奈良・平安時代の住居址2軒、近代の溝1条を検出している。これらの遺構は遺構検出面（第2層）が残っているA区からG区で検出した。

出土遺物は接合や復元作業によって220点を図示することができた。内訳は、弥生時代中期7点、弥生時代後期4点、古墳時代前期83点、古墳時代中期・後期10点、奈良時代50点、平安時代36点、中世24点、近世・近代6点である。

これらの出土状況は、遺構に伴う例が少なく、大半は包含層からの出土である。出土層位は、弥生時代の遺物が下位の第2層（黄褐色土層）から、近世の遺物が上位の第1層（暗褐色土層）から出土する。これらの包含層はA区からE区に堆積している。

次に、遺構と遺物について概要をまとめる。

1. 弥生時代後期（第42図）

今回の調査では弥生時代後期後葉以降に掘削された溝1条を検出した。この溝は第1次調査から第3次調査で検出している長さ約60mの溝状遺構と主軸の方向や断面形状が一致しており、延長100mの溝であることが判明した。その性格は、静浦山系の湧水を集落に導いた水路と思われる。

2. 古墳時代（第43図）

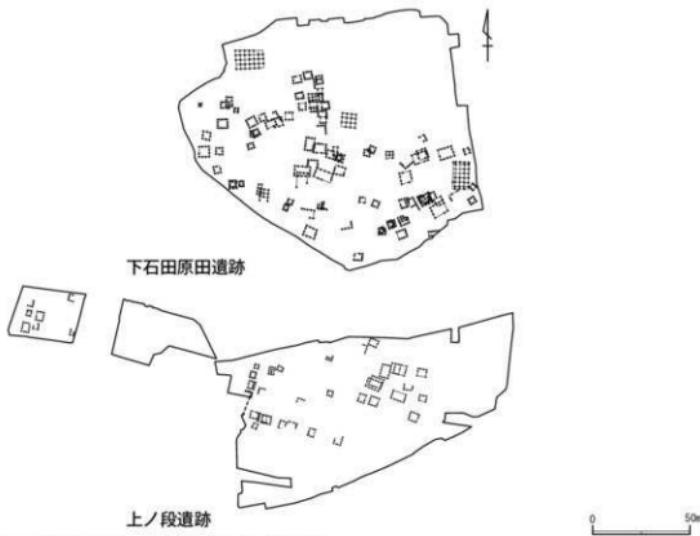
今回の調査では住居址1軒を検出し、前期を中心とする土器類が出土している。同時期の住居址は第1次調査から第3次調査で28軒検出しており、検出例が少ない前期の拠点的な集落と位置付けられる。また、狩野川流域の首長居館的な性格が指摘される恵ヶ後・谷口遺跡（清水町）、山木遺跡（伊豆の国市）などでは、東海西部系土器が多く出土することから、御幸町遺跡が狩野川流域の首長居館と東海西部を結ぶ水運に深く関わる集落としての役割りを担っていた可能性を示しており注目される。

3. 奈良・平安時代（第44図）

今回の調査では住居址2軒を検出し、円面窓を含む遺物が出土した。同時期の住居址は第1次調査から第3次調査で231軒検出し、遺物は青銅製の袴帶金具・鉄製品・墨書き土器が出土している。今回出土した円面窓と併せて、官衙に関わりのある遺物が多い集落といえる。同時期の遺跡としては、狩野川右岸の日吉庵寺跡、上ノ段遺跡、下石田原田遺跡が注目される。日吉庵寺跡は、狩野川河口部に勢力をを持つ豪族の氏寺と考えられ、仏教文化を受容した豪族が他地域に先駆けて寺院を建立した意義は大きい。この豪族に関わりのある遺跡として、下石田原田遺跡と上ノ段遺跡がある（第41図）。下石田原田遺跡は狩野川右岸に隣接する立地から、古代東海道や狩野川水運に関わる建物群と推定され、上ノ段遺跡は建物配置の規格性から官衙的な集落と考えられている。御幸町遺跡は、これらの遺跡とともに古代東海道や狩野川水運に関わる豪族が存在したことを示し、この地域が律令国家体制の中で整備されていく過程で、伊豆国と駿河国を繋ぐ物流の中心地として発達していたことを物語っている。

4. 中世（第45図）

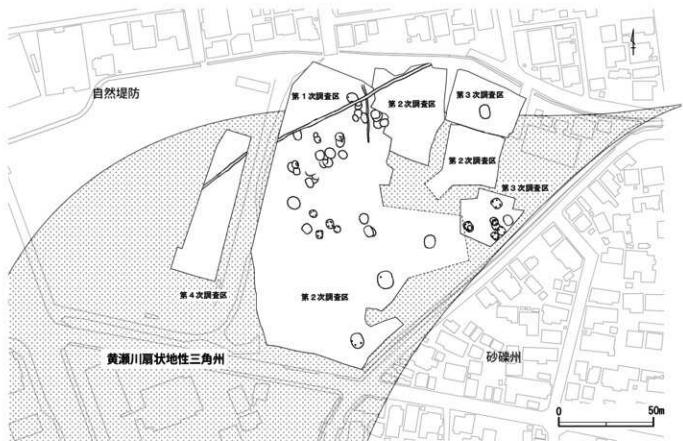
今回の調査では貿易陶磁として青磁碗や白磁碗のほか、国産陶器として鉛釉の小皿、瀬戸窯産の擂鉢、常滑・渥美窯産の甕等が出土している。同時期の下石田原田遺跡とともに中世の集落が存在した可能性があるが、明確な遺構は確認されなかった。



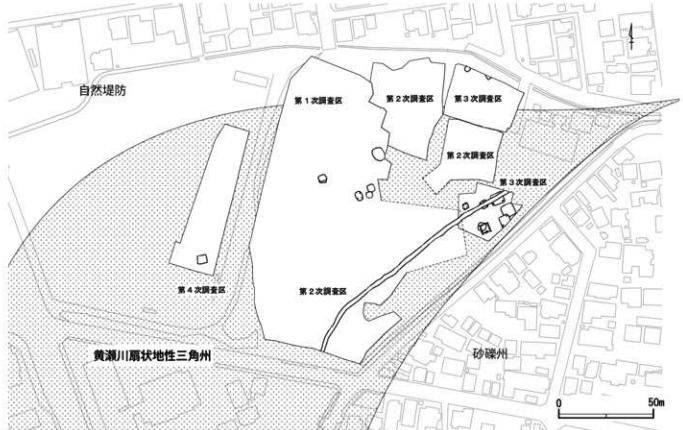
第41図 下石田原田遺跡・上ノ段遺跡掘立柱建物跡

主な引用・参考文献

- [論文等]
- 瀬田市部 1980 「藤井原の大鉢—律合時代地形土器の変遷」『沼津市歴史民俗資料館紀要 4』 沼津市歴史民俗資料館
- 中村 育 1980 「遺器」考古学ライブラリー 5 ニュー・サイエンス社
- 郡司勇夫 1981 「日本古墳研究」 洋洋出版社
- 比川憲一 1984 「鐵柵(鐵籠)の「初根」と「鍵」について」『沼津市博物館紀要 12』 沼津市歴史民俗資料館・明治史料館
- 中村 哲 1984 「鐵柵(鐵籠)の「初根」と「鍵」について」『沼津市博物館紀要 12』 沼津市歴史民俗資料館・明治史料館
- 中村 哲 1990 「研究入門」 遺迹調査・発掘調査の実際と方法 第2版 第1章 「主に東海道地域を中心として」『東国土器研究会
- 山本憲一 1995 「静岡県下の約7℃の「鋸跡」—伊豆北部の鋸跡について—」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会
- 大川清・鈴木公雄・J.索普通 1998 「日本土器事典」 鶴山閣出版株式会社
- 渡井英登 1998 「鐵柵(鐵籠)における布留式(藤井式)の種類(前)―土器編年の設定―」静岡県考古研究 28
- 沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会沼津市 1999 「西御殿(前)―自然環境」沼津市
- 池谷初恵 1999 「静岡伊豆半島環状につく「唐国人土器研究」 第5号 静岡土器研究会
- 渡井英登 1999 「鐵柵(鐵籠)の「初根」と「鍵」について」『沼津市博物館紀要 15』 第5号 東国土器研究会
- 渡井英登 1999 「中世代式(墨小寺・大字式土器から中見式土器へ)」『東国土器研究』第5号 東国土器研究会
- 渡井英登 2000 「「吉野の貴」-富士小寺・大字式土器から中見式土器へ-」 静岡考古学研究 32.
- 東海土器研究会 2001 「須磨生産の出路から消滅へ-鉢投石・源氏京編の内構第1-5分冊(補遺・論考編)」
- 沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会 2002 「沼津市史(資料編・考古)」沼津市
- 佐藤山記写・萩野玲子・鶴原和夫 2002 「沼津(藤井)の土器の種類と編年-鹿島編-」 木耳社
- 菊池シゲル・中澤良夫・佐藤正義 2003 「陶器の発掘から見る静岡の歴史社会」(浅見要旨・論考編)(資料編)
- 沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会 2003 「沼津中世の「鐵柵(鐵籠)」-原始・古代・中世-」沼津市
- 渡井英登 2008 「沼津川流域における古墳時代前半高持式(高持式)の高持を考る」 静岡考古学研究 40
- 文化庁文化財保護部記念講習 2010 「発掘調査のてきめ(調査・報告書編)」
- 東海土器研究会 2014 「灰輪馬器を考える-編年の現状と問題-」
- 丸杉慶一郎 2014 「古代水路に関する一論議」静岡県埋蔵文化財センター研究紀要(3) 静岡県埋蔵文化財センター
- 東海土器研究会 2015 「灰輪馬器生産における地盤の成立と展開」(資料集)
- 奈良文化研究所「古城山出土遺物データベース」
- 報告書
- 沼津市教育委員会 1975 「藤井原遺跡発掘調査報告」 沼津市文化財調査報告 第7集
- 1976 「藤井原遺跡第2次発掘調査報告」 沼津市文化財調査報告 第10集
- 1979 「藤幸寺遺跡第1次発掘調査報告」 沼津市文化財調査報告 第17集
- 1980 「藤幸寺遺跡第2次発掘調査報告」 沼津市文化財調査報告 第21集
- 1981 「藤幸寺遺跡第3次発掘調査報告」 沼津市文化財調査報告 第25集
- 1998 「藤幸寺遺跡発掘調査報告書-物語(土器)」 沼津市文化財調査報告書 第67集
- 2000 「藤幸寺遺跡発掘調査報告書(土器)」 沼津市文化財調査報告書 第74集
- 2004 「上ノ段遺跡発掘調査報告書(1)」 沼津市文化財調査報告書 第85集
- 1989 「安久道路」
- 1995 「大場川遺跡群」
- 2004 「中島B遺跡(上台地)」(三島市埋蔵文化財発掘調査報告 IX)
- 富士市教育委員会 1982 「東平(道標編)(遺物・考察編)(遺物図版編)」
- 1983 「新田跡発掘調査報告書」
- 富士宮市教育委員会 1997 「「萬葉」と「富士」」 富士宮市文化財調査報告書 第23集
- 浜松市教育委員会 2004 「有玉古窯」
- 2014 「古名古跡調査: 1号窯発掘調査」
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1989 「静岡県の墓業遺跡(本文編)」 静岡県埋蔵文化財調査報告書 第42集
- 財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2009 「静府城内遺跡」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第203集
- 2011 「沼津北遺跡」 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第239集
- 奈良国立文化財研究所 2013 「平城京(奈良・二坊・八幡)・八幡宮発掘調査報告書」
- 静岡大学人文学部考古学研究室 2001 「清水市神明山1号塹発掘調査報告(個別報告編)」 静岡県文化財報告書 第55集



第42図 弥生時代遺構分布図



第43図 古墳時代遺構分布図



第44図 奈良・平安時代遺構分布図



第45図 近代遺構分布図

第3表 土器観察表（1）

器皿 番号	種類	生土地	盛物類	口径 横径 厚さ	施土	焼成	色調・模様部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第14回 1	蓋付	SB2	—	— (4.1)	白色砂粒多 半透明砂粒	良好	73VH-4 にない褐色 糊部	ラップ状に聞く 円管が2本所持する	外面 タテヘラミガキ 内面 三ツハナヘラミガキ	土師器
第14回 2	合付蓋	SB1	2523	— (5.6) (3.0)	白色砂粒 糊部 7%	良好	73VH-2 にない褐色 糊部	5字状口縁合付唇 糊部裏に手印残す	外面 ナナメハケメ 内面 三ツハナヘラミガキ	土師器
第14回 3	蓋	SB1	—	(16.0) (14.3)	白色・赤色砂粒	良	SVH-2 灰褐色 糊部～糊部	口縁部はやや外傾して立ち上がる	外面 口縁ヨコナナヘラミガキ 内面 糊部ヨコナナヘラミガキ	土師器
第14回 4	蓋	SB1	—	(16.2) (3.5)	白色砂粒 糊部	良好	73VH-6 明褐色 糊部	対称下平に2本所持する。内面裏味に立ち上がる	外面 タテヘラミガキ 内面 タテヘラミガキ	土師器
第15回 1	坪	SB2	2389	11.2 6.0	白色・赤色 砂粒	良好	73VH-4 にない褐色 糊部～糊部	左クロ口成形 平底から外傾して立ち上がる	外面 回転チズル 土師ヘラミガキ 内面 回転ナナヘラミガキ	土師器
第15回 2	坪	SB2	2608	11.4 3.7 7.4	白色・赤色 砂粒	良好	73VH-4 にない褐色 糊部	右クロ口成形 平底から外傾して立ち上がる。口縁部がやや突出する	外面 回転チズル 土師ホリゲン、ヘラケズリ 内面 回転チズル	土師器
第15回 3	坪	SB2	2437	12.2 4.9 6.6	白色・赤色砂粒	良好	SVH-4 にない褐色 糊部	左クロ口成形 糊部裏味なし。体部は外傾して立ち上がる	外面 回転チズル 土師ヘラミガキ 内面 回転ナナヘラミガキ	土師器
第15回 4	坪	SB2	—	11.8 (8.2)	白色・半透明砂粒	良好	25VH-6 明褐色 糊部	右クロ口成形 糊部裏味なし。体部は外傾して立ち上がる	外面 回転チズル 内面 回転ナナヘラミガキ	土師器
第16回 5	坪	SB2	2469	11.3 3.9 4.0	白色・赤色 半透明砂粒	良好	25VH-6 明褐色 糊部	右クロ口成形 平底から外傾して立ち上がる	外面 回転ナナヘラミガキ 内面 回転チズル	土師器 平底型坪
第16回 6	坪	SB2	2394	6.2 — 15.3	白色・半透明砂粒 糊部	良好	25VH-2 灰褐色 糊部～糊部	運びマサニヤする有する。体部は内溝して開き。カヌリ はよりや開く	外面 注ヘラミガキ 内面 注ヘラミガキ	土師器 深窓型
第16回 7	長桶蓋	SB2	2383	(20.0) (5.4)	白色・赤色 半透明砂粒	良好	SVH-4 にない褐色 糊部～糊部上半	口縁部は外傾して立ち上がる	外面 ナデ 内面 ナデ	土師器
第16回 8	小型蓋	SB2	—	(17.0) (9.0)	白色・赤色 半透明砂粒	良好	73VH-2 灰褐色 糊部	口縁部はやや内溝する 裏部はあまり積らない	外面 口縁ヨコナナヘラミガキ 内面 糊部ヨコナナヘラミガキ	土師器
第16回 9	小型蓋	SB2	2406	(13.4) (7.6)	白色砂粒	良好	73VH-4 にない褐色 糊部	口縁部は外傾して立ち上がる。口縁部がわざかに肥厚する 裏部はあまり積らない	外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	土師器
第16回 10	坪	SB2	2392	(51.0) (8.1)	白色・黒色・ 半透明砂粒	良好	SVH-4 にない褐色 糊部	口縁部は反する 糊部裏は内面に折り返す	外面 口縁ヨコナナヘラミガキ 内面 口縁ヨコナナヘラミガキ	土師器
第16回 11	坪	SB2	2462	(38.0) (18.7)	灰褐色 砂粒	良好	SVH-2 灰褐色 糊部	口縁部は外反する	外面 口縁ヨコナナヘラミガキ 内面 ヨコナデ 鋼錆痕	土師器
第16回 12	有台坪	SB2	2391	— (2.0) (3.6)	白色・黒色・ 赤色砂粒	良好	73VH-7 灰褐色 糊部	右クロ口成形 話付高音 裏部は黄味あり突出する	外面 回転チズル 滲出回転ヘラケズリ 内面 回転チズル	深窓器
第16回 13	蓋	SB2	2424	(15.6) 3.1 7.8	白色・赤色砂粒	良好	10VH-1 灰褐色 糊部	右クロ口成形 話付高音 糊部が外反する	外面 回転チズル 土師回転ヘラケズリ 内面 回転チズル	深窓器
第16回 14	大壺	SB2	2421	—	白色・黒色・ 赤色砂粒	良好	10VH-1 灰褐色 糊部	内溝している	外面 タキヨリ文 内面 タキヨリ文	深窓器
第16回 15	大壺	SB2	2564	—	白色・黒色砂粒	良好	10VH-3 にない褐色 糊部	内溝している	外面 タキヨリ文 内面 ナデ	深窓器
第25回 1	蓋	A区	2390	9.7 (19.0)	白色・半透明砂粒	良好	73VH-3 褐色 糊部	表面の網目状 裏部は内溝して、裏部から口縁部はやや外傾して立ち上がる	外面 口縫跡文 瓢箪ハケメタタヘラミガキ 内面 ヨコナナヘラミガキ	既生土器
第25回 2	蓋	C区	2728	10.4 (38.0)	白色・黒色砂粒	良好	SVH-4 にない褐色 糊部	表面は外傾して立ち上がり中央に横溝を持って漏る 口縁部～糊部上半	外面 口縫跡文 瓢箪・部・部ナナヘラミガキ後タチヘラミガキ 内面 口縫跡ハケメタタヘナナヘラミガキ	既生土器 内窓器
第25回 3	蓋	B区	—	(22.3)	白色・赤色・ 赤色砂粒	良好	SVH-4 にない褐色 糊部	表面の網目状で、裏部は直線的に立ち上がる 裏部は下垂形で、裏部は内傾して立ち上がる	外面 瓢箪上に横溝を付した丸丈等と横溝を充 填した箇所 文 瓢箪下位ハナヘラミガキ 内面 ナナメ糊痕 指捺痕	既生土器 一側 内窓器
第25回 4	蓋	C区	2752	(5.7) 6.7	白色・黒色・ 半透明砂粒	良	10VH-2 灰褐色 糊部	表面の網目状 裏部は下垂形で、裏部は内傾して立ち上がる	外面 瓢箪上に横溝を付した丸丈等と横溝を充 填した箇所 文 瓢箪下位ハナヘラミガキ 内面 ナナメ糊痕 指捺痕	既生土器
第25回 5	蓋	D区	—	(1.4)	白色・赤色砂粒	良	10VH-4 にない褐色 糊部	底返し口縁部を有する 糊部裏に神狀文	外面 ナナメハケメ 内面 三ツハナヘラミガキ	既生土器
第25回 6	蓋	D区	—	(1.7)	白色・赤色砂粒	良	10VH-4 にない褐色 糊部	底返し口縁部を有する 糊部裏に神狀文	外面 ハナヘラミガキ 内面 ハナヘラミガキ	既生土器
第25回 7	蓋	F区	—	—	半透明砂粒	良好	73VH-4 にない褐色 糊部	口縁部下垂形 糊部の孔あら	外面 ハナヘラミガキ 内面 ハナヘラミガキ	既生土器
第26回 8	蓋	C区	—	—	白色・赤色砂粒	良	73VH-4 にない褐色 糊部	表面に縦溝を施す 内側洋文	外面 縦文 内面 ナデ	既生土器 内窓器

第4表 土器觀察表（2）

國名 番号	基盤	出土地点	通物名	口径 底径 厚さ	胎土	焼成	色調・残存部位	形態の特徴	手 火 の 特 徴	備考
第 26 国 9	台付壺	A 区	2730	21.0 (21.0) 5.8	白色、黒色、灰色 半透明砂粒	良好	519/H4-3 口縁部～胎土部	瓶頸の胎部側から外傾。瓶頸中位で直腹状に立ち上りかがり、瓶頸部は内側に凹む。瓶頸部にハサウエ工具による刮み目を残す	内面 ナメルハケテ底上半にハラ模様による横筋 外面 口縁部にヨコカケテ後ナデ 瓶頸下位ナデ～ 外面 前縁部にヨコカケテ後ナデ 瓶頸下位ナデ～ 外面 背火文	再生土器
第 26 国 10	壺	D 区	—	(21.0) (42)	白色、半透明砂粒	良好	735/H4-3 口縁部～胎土部	縦やかく丸高して立ち上る 口縁部に刮み目を残す	内面 コロハケテ後ナメルハケテ 内面 ハケテ	再生土器
第 26 国 11	壺	A 区	—	(28.4) (6.1)	白色、透明白砂粒	良好	519/H4-3 口縁部～胎土部	縦やかく丸高して立ち上る 口縁部は内側とむじく刮み目を残す	内面 各火文 内面 コナテ	再生土器
第 27 国 12	台付壺	D 区	2721	(14.4) (13.0)	白色、灰白色 透明砂粒	良好	735/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸の一部昂りあり 瓶頸部は内側に立ち上り、瓶頸部が僅る 口縁部に刮み目を残す	内面 口縁部コナデ 内面 前縁部コナハナツキメヨコハケテ 内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 13	台付壺	B 区	—	(12.5) (—)	灰色砂粒 透明砂粒	良好	519/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上りする	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 14	台付壺	A 区	—	(19.0) (2.7)	灰白、青白 半透明砂粒	良好	735/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上り、口縁部の邊取りが強め	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 15	台付壺	A 区	—	(18.2) (2.2)	灰白、赤色砂粒 透明砂粒	良好	519/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部の一部昂りあり 瓶頸部は内側に立ち上り、瓶頸部が僅る 口縁部に刮み目を残す	内面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	土師器
第 27 国 16	台付壺	C 区	—	(14.4) (4.5)	灰白、褐色 半透明砂粒	良好	735/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 17	台付壺	A 区	—	(17.0)	白色、半透明砂粒	良好	735/H4-4 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上り、口縁部の邊取りが強め	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 18	台付壺	A 区	—	(15.4) (3.8)	白色、半透明砂粒 透明砂粒	良好	735/H4-2 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上りする	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 ヨコナデ	土師器
第 27 国 19	台付壺	B 区	—	(12.2) (2.3)	白色、灰白色 半透明砂粒	良好	735/H4-2 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上りする	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 ヨコナデ	土師器
第 27 国 20	台付壺	A 区	2315	(2.9)	白色、灰白色 透明砂粒	良好	235/H4-2 透明黄 胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上る	内面 ナメルハケテ 内面 ナメルハケテ	土師器
第 27 国 21	台付壺	F 区	—	(5.5) (3.0)	白色砂粒 透明砂粒	良好	735/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺の瓶頸部 瓶頸部内側に折り返す	内面 ナメルハケテ 背火文 内面 ナメルハケテ	土師器
第 27 国 22	台付壺	D 区	—	(5.9) (7.8)	白色、灰白色 透明砂粒	良好	735/H4-3 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺の瓶頸部 瓶頸部内側に折り返す	内面 ヨコナデ	土師器
第 27 国 23	台付壺	C 区	—	12.4 (2.2) (8.3)	白色、黑色 灰白色砂粒	良好	235/H4-4 に少し赤色 透明砂粒	5 字状口縁付臺 瓶頸部中に立大昂り 瓶頸部～胎土部	内面 口縁部コナハメヨコナデ 内面 口縁部コナデ 構造上、新台部へ移工 具ノサビ 頭部下位ナデ	土師器
第 27 国 24	台付壺	B 区	2385	15.2 (35.1)	白色、黑色 透明砂粒	良好	735/H4-3 褐色 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は外傾して立ち上り。口位で内窪する	内面 口縁部コナハメヨコナデ 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 25	台付壺	B 区	—	15.0 (14.1)	白色、半透明砂粒	良好	519/H4-3 に少し褐色 透明砂粒	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上る	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 26	壺	C 区	—	(16.4) (5.1)	白色、透明砂粒	良好	235/H4-2 灰白色 口縁部～胎土部	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上る	内面 口縁部コナデ 背火文 内面 口縁部コナデ 背火文	土師器
第 27 国 27	台付壺	C 区	—	(7.2) (9.4)	白色、黑色 半透明砂粒	良好	735/H4-4 に少し褐色 透明砂粒	5 字状口縁付臺 瓶頸部は内側に立ち上る	内面 ハケテ 内面 ハケテ	土師器
第 27 国 28	台付壺	A 区	2431	(8.3) (9.4)	白色、半透明砂粒	良好	735/H4-4 に少し褐色 透明砂粒	瓶頸部は内側に折り返す	内面 ハケテ 内面 コロナデ	土師器
第 27 国 29	壺	差接	—	(13.2)	黑色、半透明砂粒	良	735/H4-3 に少し褐色 透明砂粒	口が広がる所を折る所の小型罐遺	内面 口縁部ハケテ後ナデコナデ 内面 ナメルハケテ	土師器
第 27 国 30	壺	A 区	—	(2.7)	白色、 黑色、半透明砂粒	良好	1019/H4-2 灰白色砂粒	平底から外傾して立ち上る	内面 ハケテ 残存新代陶 内面 ナメルハケテ	土師器
第 27 国 31	壺	C 区	—	(4.8)	白色砂粒 半透明砂粒	良	1019/H4-3 に少し黄色 透明砂粒	口部に凹 内窪で折れ込みあり	内面 ハケテ 内面 亂打ハケテ後ナデ 内面 口縁部破片	土師器
第 27 国 32	壺	A 区	—	(18.0) (—)	白色砂粒 半透明砂粒	良	735/H4-3 に少し褐色 透明砂粒	口部 内窪で折れ込みあり	内面 ナメルハケテ 内面 口縁部破片	土師器
第 27 国 33	壺	A 区	—	(1.4)	白色砂粒 半透明砂粒	良	735/H4-4 に少し褐色 透明砂粒	口部 内窪で折れ込みあり	内面 ハケテ 内面 口縁部破片	土師器
第 27 国 34	壺	B 区	—	(1.5)	白色砂粒 半透明砂粒	良	735/H4-4 に少し褐色 透明砂粒	口部 内窪で折れ込みあり	内面 ヨコナデ 内面 口縁部破片	土師器
第 27 国 35	壺	E 区	—	(12.0) (8.0)	褐色、 白色、 半透明砂粒	良	735/H4-3 褐色 透明砂粒	口部 内窪で折れ込みあり	内面 ハケテハラギ 内面 ヨコナデ	土師器

第5表 土器観察表（3）

器物 番号	種類	出土地	出物名	口径 横径 厚さ	施土	焼成	色調・種類部位	形・型の特徴	手法の特徴	備考
第29 回 36	壺	表様	—	(3.1) —	白色・灰色・ 赤色・半透明砂粒	良	75YR4/ L-37-1 口縁部	口口直・口縁部破片 口縫合する、口縁部は断面三角形状に内面に 肥厚する 神代洋文：木棒持	外面 タテハケメ後ヨコナデ 口縫合ヨコナデ 内面 ヨリナヂ	土師器
第29 回 37	壺	A区	—	(3.2) —	白色砂粒多 赤色砂粒	良	75YR4/ L-37-2 口縫合部	口口直・口縁部破片 口縫合する、口縁部は断面三角形状に内面に 肥厚する 神代洋文：木棒持	外面 口縫合・カメ後ヨコナデ 口縫合部内面(5字)神代洋文 内面 ヨリナヂ、ヨリハケメ	土師器
第29 回 38	壺	A区	—	—	白色・灰色・ 白色砂粒	良	75YR5-2 L-38-2 口縫合部	口口直・口縁部破片 口縫合する 神代洋文：木棒持	外面 ナリハケメ後ヨコナデ 内面 ヨコハケメ	土師器
第29 回 39	壺	表様	—	—	白色・灰色・ 赤色・半透明砂粒	良	75YR5-2 L-39-2 口縫合部	口口直・口縁部破片 口縫合する 神代洋文：木棒持	外面 口縫合ヨコナデ 脚部タテハケメ 内面 ヨリナヂ	土師器
第29 回 40	壺	B区	—	—	白色・赤色・ 白色・半透明砂粒	良	75YR5-2 L-40-2 口縫合部	口口直・口縁部破片 口縫合する 神代洋文：木棒持	外面 タテハケメ後ナヂ 内面 ヨリハケメ	土師器
第29 回 41	壺	A区	—	—	白色・黑色・ 白色・半透明砂粒	良	75YR6-4 L-41-2 口縫合部	口口直・口縁部破片 口縫合する 神代洋文	外面 タテハケメ後ヨコナデ 内面 ヨリハケメ	土師器
第29 回 42	壺	D区	—	—	灰色・赤色砂粒	良	75YR6-4/ L-42-2 口縫合部	口口直・口縁部破片 口縫合する	外面 ヨコナヂ 内面 ヨリナヂ	土師器
第29 回 43	壺	A区	—	(17.2) (3.4) —	白色・半透明砂粒 且好	—	25YR4-2 L-43-2 口縫合部	二重口縫合 脚部は複数か弱い脚を持って外反し、口縫合は屈曲 脚部は大らかに外反する、口縫合部を取取りしている	外面 上位ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 下位ヨコナデ 後タテラミガキ 内面 ヨリナヂ後ヘラミガキ	土師器
第29 回 44	壺	A区	—	(14.6) (3.3) —	白色・赤色 半透明砂粒	良好	25YR4-4/ L-44-2 口縫合部	二重口縫合 脚部は複数か弱い脚、口縫合は屈曲部から大きめ 外反する	外面 ヨリナヂ後タテラミガキ 口縫合部、屈曲部新変丈 内面 ヨリナヂ後ヘラミガキ	土師器
第29 回 45	壺	A区	—	(17.4) (4.9) —	白色砂粒	良好	75YR4/ L-45-2 口縫合部	单口口縫合 口縫合部は外反する、口縫合部を取取りしている	外面 ヨリナヂ後ヘラミガキ工具で脚部 内面 ヨリナヂ後ヘラミガキ工具で調整	土師器
第29 回 46	壺	E区	—	(11.2) 4.2	白色砂粒	良好	75YR4-4 L-46-2 口縫合部	小型の広口壺、脚部は弱く向外し、脚部は内反する 平底から外側へ立ち上がり、積もって内反する	外面 ハカマ後ヨリナヂガキ 脚部二つガキ、脚部一連部(ハケ)後ナヂ 脚部後 手縫法	土師器
第29 回 47	壺	C区	—	(7.3) —	白色・黑色・ 灰色・半透明砂粒	良	75YR4/ L-47-2 口縫合部	口口直 内面脚部外反する 脚部上半	外面 ナヂ 脚部絞丈(5字)式試掘跡文 内面 アナ	土師器
第29 回 48	壺	C区	—	(10.5) —	白色・黑色・ 灰色・半透明砂粒	良	75YR4/ L-48-2 口縫合部	口口直 脚部は内反し、脚部は外反する	外面 ナヂ 腹部一部脚部絞丈(5字)半伏加文 内面 ヨリナヂ 脚部後 手縫法	土師器
第29 回 49	壺	C区	—	(29.6) 8.8	白色・赤色 黑色砂粒	良	75YR4/ L-49-2 口縫合部	口口直 腹部の内部から内側へ立ち上がる	外面 タテヘラミガキ 腹部二つガキ 内面 ヨリナヂ 手縫法	土師器
第30 回 50	壺	B区	—	(12.4) 7.3	白色・黑色・ 赤色砂粒	良好	75YR4/ L-50-2 口縫合部	直口直 平底から内側へ立ち上がる	外面 脚部二ヶ所後ヘラミガキ 植木茎痕 内面 梯級後 手縫法	土師器
第30 回 51	壺	A区	—	(8.8) —	白色・黑色・ 灰色・半透明砂粒	良好	25YR4-4 L-51-2 口縫合部	直口直 脚部は外側へ立ち上がり、脚部は内反する	外面 タテヘラミガキ 腹部コヘラミガキ 口縫合部タテヘラミガキ 腹部ヨコヘラミガキ 脚部後筋痕、手縫法	土師器
第30 回 52	壺	D区	—	(3.0) —	白色・赤色・ 黑色砂粒	良	75YR4-4/ L-52-2 口縫合部	内窓1か所後 脚部外反する	外面 脚部二ヶ所後 ラタヘラミガキ 内面 ナヂ	土師器
第30 回 53	壺	B区	—	(20.4) (9.3) —	白色・黑色・ 赤色・半透明砂粒	良好	25YR4-1/ L-53-2 脚部	下位口部を有する有高脚 内窓異形に開く	外面 タテヘラミガキ 内面 タテナーハラミガキ	土師器
第30 回 54	壺	B区	—	(18.2) (5.6) —	白色・赤色・ 黑色砂粒	良好	75YR4-4/ L-54-2 脚部	下位口部を有する有高脚 内窓異形に開く	外面 タテヘラミガキ後ヨココギ 内面 ヘラミガキヨココギ	土師器
第30 回 55	壺	A区	—	(16.8) —	白色・黑色砂粒	良好	75YR4-3/ L-55-2 脚部	直通の開口 内窓2か所後	外面 タテハケメ後二ヶ所 内窓ナメハケメ	土師器
第30 回 56	壺	B区	—	(3.5) —	白色・黑色・ 半透明砂粒	良好	25YR4-2/ L-56-2 脚部	内窓して開口 内窓3か所後	外面 タテヘラミガキ 内面 ハナツ	土師器
第31 回 57	壺	C区	2382	15.0 13.0 10.0	白色・黑色・ 透明砂粒	良好	75YR4-3/ L-57-2 脚部	脚部は下位に複数持つて外縫する 脚部はやや外反して開き、脚部は直立する	外面 タテヘラミガキ 内窓口縫合部	土師器
第31 回 58	壺	A区	—	(15.4) (3.8) —	白色・黑色・ 灰色・透明砂粒	良好	75YR4-4/ L-58-2 脚部	脚部直通に縫を持ち、外縫して立ち上がる	外面 タテヘラミガキ 縫合直 内窓ターナメハラミガキ	土師器
第31 回 59	壺	C区	—	(3.2) (12.8)	白色・黑色・ 赤色・透明砂粒	良好	25YR4-2/ L-59-2 脚部	脚部直通に縫を持ち、外縫して立ち上がる	外面 タテヘラミガキ 内窓ナメハラミガキ	土師器
第31 回 60	壺	A区	—	(3.2) (12.8)	白色砂粒	良好	25YR4-2/ L-60-2 脚部	内窓1か所後 八字窓に開き、脚部部でさらに開く	外面 タテヘラミガキ 脚部ヨコナデ 内面 ヨリナヂ	土師器
第31 回 61	壺	A区	—	(3.9) —	白色・黑色・ 半透明砂粒	良	75YR4-4/ L-61-2 脚部	縫合に立ち上がる 中実	外面 タテヘラミガキ 後縫直 内面 ヨリナヂ	土師器
第31 回 62	壺	B区 G区	—	(15.6) (4.7) —	白色・黑色砂粒	良好	75YR4-4/ L-62-2 脚部	脚部直通 脚部は外縫して立ち上がる	外面 口縫合一部上ヨコナデ 体部下位ヘラミガキ 内面 口縫合一部上ヨコナデ後ヨコヘラミガキ 体部下位タテヘラミガキ	土師器

第6表 土器觀察表（4）

器物番号	基盤	出土地点	遺物名	口径 横径 厚さ	胎土	焼成	色調・表面状態	形態の特徴	手法の特徴	備考
第21回 63	基盤	C区	—	(11.0) 5.2	白色・黒色・ 灰色・赤色砂粒	良好	SIV-RS-2 にぶら褐色 口縁部・底部	上げ底、底部～口縁部は内側して立ち上がり 底部下半上部に様あり	内面 口縁部ヨコナデ 体部ハケメ後ハニガキ 内面 ヨコナデ	土師器
第21回 64	基盤	A区	—	(4.4) 2.8	白色・黒色・ 灰色・赤色砂粒	良	SIV-RS-4 にぶら褐色 体部・底部	上げ底から内側して立ち上がる	内面 体部ナメハケメ 内面 ヨコナデ	土師器
第21回 65	基盤	A区	—	(11.4) 7.0 5.0	白色・黒色・ 灰色・半透明砂粒	良好	SIV-RS-4 にぶら褐色 口縁部・底部	やや高火度の底部から内側して立ち上がり、口縁部は外傾する	内面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	土師器
第21回 66	基盤	B区	—	(11.6) —	白色・赤色砂粒	良好	SIV-R-2 にぶら褐色 口縁部	外気場に立ち上がり、口縁部がやや内側する	内面 ラフヘアリガキ 内面 ラフナーナヘリガキ	土師器
第21回 67	基盤	B区	—	(4.8)	黑色・赤色砂粒	良	SIV-R-2 にぶら褐色 口縁部	丸底から体部は内側して立ち上がり	内面 体部上部ヨコナデ 体部下部～底部へ カツラ	土師器
第21回 68	基盤	A区	2500	(12.0) 8.1	白色砂粒多	良好	SIV-R-4 にぶら褐色 口縁部・底部	球形の体部から口縁部はやや外方に聞く 最大径を口徑に持つ	内面 ラフハメドロ口縁部ヨコナデ 内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ	土師器
第21回 69	基盤	G区	—	(20.0) (11.0)	白色・黒色・ 灰色・透明白砂粒	良	SIV-R-2 にぶら褐色 口縁部・底部	脚部は外傾して立ち上がり、口縁部は肥厚して 底部は外傾する	内面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	土師器
第21回 70	基盤	B区	—	(4.5) (7.2)	白色・黒色・ 灰色・透明白砂粒	良好	398-R-2 黒褐色 口縁部	口縁部は肥厚し大きめ外反する	内面 口縁部ヨコナデ 脚部ハケメ後ヨコナデ 内面 ヨコナデヨコナデ 脚部ヨコナデ	土師器
第21回 71	小型盤	A区	2309	6.1 7.2	白色・黒色・ 半透明砂粒	良好	SIV-R-4 にぶら褐色 口縁部	短筒圓に脚部、底部中央がくぼむ やや高火度の底部から内側して立ち上がり、口縁部は外傾する	内面 口縁部ヨコナデ 内面 体部ラフハメドロハラケズリ 内面 口縁部ヨコナデハラケズリ	土師器
第21回 72	小型盤	表層	—	(4.1) (4.4)	白色・黒色・ 半透明砂粒	良好	74-R-4-3 受部	受部は内側して立ち上がり、底部はハの字状に 開く	内面 ラフハメドロヨコナデ 受部ハラケズリ 内面 ナデ、輪積底	土師器
第21回 73	小型盤	A区	—	(2.0)	白色・黒色・ 赤色砂粒	良好	2.9-R-6 透明褐色 受部	受部はほぼ水平に開く。口縁部は外反する	内面 口縁部ヨコナデ 受部ハラケズリ 内面 口縁部ヨコナデ 受部ナデ	土師器
第21回 74	小型盤	A区	—	(3.5)	白色・赤色砂粒	良好	SIV-R-3 にぶら褐色 底部	内面 1か所窪有 やや外傾する	内面 ラフハメドロタテハラケズリ 内面 ヨコナデ	土師器
第21回 75	小型盤	A区	—	3.4 (5.2)	白色・半透明砂粒	良好	SIV-R-4 にぶら褐色 天井部・底部	平坦な天井部から内側気泡に聞く	内面 ハバメナデ 内面 ハケメナデ	土師器
第21回 76	小型盤	D区	—	(7.0) 6.5 —	白色・黒色・ 赤色・透明白砂粒	良好	109-R-2 底裏砂粒	平底から内側して立ち上がり。口縁部はやや外反す る	内面 口縁部ヨコナデ ハラケズリ 内面 口縁部・体部上部ヨコナデ 内面 ヨコナデハラケズリ	土師器
第21回 77	小型盤	A区	—	4.5 —	白色・黒色・ 透明白砂粒	良	7-R-2 にぶら褐色 底部	平底から内側し口縁部は直立する	内面 ナデ 残積底 陰性底 内面 ナデ 残積底 陰性底	土師器
第21回 78	手標器	F区	—	(4.0) 3.8	白色砂粒	良好	7-R-2 にぶら褐色 口縁部・底部	小型の円筒形。底座中心や内側して立ち上がり り、背面で内側に引き上げる 口縁部は一筋で外傾する	内面 体部ナデ 陰性底 逆底木葉底 内面 ナデ 陰性底	土師器
第22回 79	手標器	A区	—	(8.2) (2.9) (3.4)	白色・赤色砂粒	良好	109-R-4 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から内側して立ち上がり。	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 80	手標器	C区	—	(7.4) 3.3 —	白色・黒色・ 赤色砂粒	良好	7-R-2 にぶら褐色 口縁部・底部	昇伏の大型土器 平底から内側して立ち上がり。口縁部は内側する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 81	手標器	E区	—	6.0 2.4 3.5	白色砂粒	良好	539-R-4 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 やや高火度で底部は内側し、口縁部はやや内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 82	手標器	G区	—	5.4 3.1 3.2	白色・黒色砂粒	良好	7-R-2 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から内側して立ち上がり。口縁部は内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 83	手標器	B区	—	1.9 —	白色・赤色砂粒	良好	539-R-4 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から内側して立ち上がり。口縁部は内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 84	手標器	A区	—	(8.4) 3.4 (4.0)	白色・赤色砂粒	良好	539-R-4 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から内側して立ち上がり。口縁部は内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 85	手標器	B区	—	(7.2) 3.2 (4.2)	白色砂粒 赤色砂粒	良	539-R-4 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から内側して立ち上がり。口縁部は内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 86	手標器	C区	—	(5.8) 2.5 3.8	白色・黒色砂粒	良	7-R-2 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から外傾して立ち上がり。口縁部は内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 87	手標器	C区	—	(5.8) 2.5 3.8	白色・赤色砂粒	良	7-R-2 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 平底から外傾して立ち上がり。口縁部は内傾する	内面 口縁部ヨコナデ 体部ナデ、陰性底 内面 ヨコナデ 陰性底	土師器
第22回 88	手標器	B区	—	(2.2) 4.3	白色・赤色砂粒	良好	539-R-4 にぶら褐色 底部	昇伏の大型土器 底部は中央に窪む1か所。底部よりやや上位に 窪みが2か所存在	内面 ハバメヨコナデ 内面 ナデ	土師器
第22回 89	手標器	A区	—	(2.3) (3.2)	白色砂粒	良	529-R-2 黄褐色 底部	左クロアコ 裏裏面 やや外傾して開く	内面 白軸ナデ 内面 黑軸ナデ	土師器
第22回 90	手標器	G区	—	(11.4) (3.8) —	白色・黒色・ 赤色砂粒	良好	N-A-2 N-A-2 N-A-2	右クロアコ 裏裏面 やや外傾して開く	内面 田軸ナデ 内面 田軸ナデ	土師器

第7表 土器観察表（5）

器物 番号	種類	生土地点	出土品名	口径 奥底径 厚さ	胎土	焼成	色調・種類部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第2回 31	蓋坪	D区	—	(3.2) (13.4)	白色・黑色砂粒	良好	10YR4/1 灰褐色 細粒	走り口形成 透し窓のあるあとが2か所複数	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 32	蓋坪	A区	—	(4.2) (9.7)	白色・黑色砂粒	良好	10YR5/2 灰褐色 細粒	右クロコ形成 透し窓のあるあとが2か所複数	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 33	縫	C区	—	(3.6)	白色・黑色砂粒	良好	10YR6/2 灰褐色 粗粒	複数大直径 10.0cm 口径 1.1 × 1.0cm クロコ成形	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 34	瓶	C区	—	(11.0) (3.2)	白色・黑色砂粒	良	75YR1/1 灰褐色 粗粒	走り口形成 窓状からやや外反して立ち上がり、口縁部は直線にする	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 35	瓶	D区	—	(9.2) (2.5)	白色砂粒	良好	5YR1/1 灰褐色 粗粒	クロロ口形成 内側削て立ち上がる	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 36	蓋付瓶頸	D区	—	(4.0) (3.1)	白色・黑色・ 赤色砂粒	良好	2.5YR5/1 灰褐色 粗粒	走り口形成 口縁部は内済する	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 37	小型井	A区	—	7.5 3.0 —	白色・黑色・ 赤色砂粒	良好	5YR5/4 灰褐色 完形	以小手彫刻 直線から透して立ち上がり、種を持て直線状に立ち上がり	外面 口縫目ヨコナデ 体部上位ハヤケ後ヨコナデ 体部下位ハラズリ 斜面直 内面 ハラケヨコナデ	土器群 灰褐色土器
第2回 38	井	D区	2560	14.0 4.0	白色・黑色・ 赤色・透明砂粒	良好	75YR4/3 褐色	直線から透して立ち上がり、体部は直線 窓状から立ち上がる	外面 口縫目ヨコナデ 体部下位ハラケズリ 底部 木更裏後ハラズリ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 39	無井环	D区	—	11.2 3.7 7.8	白色・黑色・ 赤色砂粒 半透明砂粒	良好	2.5YR4/4 灰褐色 粗粒	以小手彫刻 直線から透して立ち上がり	外面 回転ナデ 走り口ヘラケズリ 内面 回転ナデ後ヨコハラズリ	土器群
第2回 40	新井形	A区	—	(3.6) (3.1)	白色・黑色砂粒	良好	5YR1/1 灰褐色 粗粒	クロロ口形成 窓状から直線 体部は外傾した後傾を持って直線状 に立ち上がる	外面 回転ナデ 走り口ヘラケズリ 内面 直線斜削で透すテラヘルスヘラズリ 体部直柱 ナダヨコハラズリ	土器群
第2回 41	有井形	D区	—	(4.4) 4.9 7.3	白色・透明砂粒	良好	2.5YR4/2 灰褐色 粗粒	直線から透して立ち上がり、直線は直線状 窓状から透して立ち上がる	外面 回転ナデ 走り口ヘラズリ 内面 ヨコハラズリ	土器群 直線内 に立ち上る
第2回 42	土器形井	C区	—	—	白色・赤色砂粒	良好	2.5YR4/4 灰褐色 粗粒	以小手彫刻 直線から透して立ち上がり	外面 ヘラケズリ後ヨコナデ 底部ヘラケズリ 内面 ホリナデ	土器群 直線型井 陶器 内面に
第2回 43	井面	C区	—	—	白色・黑色砂粒	良好	5YR4/4 灰褐色 粗粒	クロロ口形成 直線成形	外面 回転ナデ後直射状後ヨコハラズキ キヨヘラズギ 内面 回転ナデ	土器群
第2回 44	井面	D区	—	—	白色・黑色砂粒	良好	5YR4/4 灰褐色 粗粒	クロロ口形成 天井部から内済して窓状、直線はやや外傾する	外面 回転ナデ 走り口ヘラズリ、穴切痕 内面 ヨコハラズリ	土器群 天井内 に立ち上る
第2回 45	埋罈	C区	—	18.2 (10.0) —	白色・黑色・ 赤色砂粒	良好	75YR1/2 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、口縁部 ヨコハラズリ 一部は内済する	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハケメヨコハラギ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 46	埋罈	C区	—	20.6 (8.5) —	白色・黑色・ 赤色・透明砂粒	良好	75YR1/2 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、やや外反 窓部は内済して開く	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハケメヨコハラギ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 47	蓋罈	D区	—	—	白色・黑色砂粒	良好	75YR4/2 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、内面が開ける	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハケメヨコハラギ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 48	蓋罈	D区	—	(23.0) (10.0) —	白色・透明砂粒 混合 3%	良好	75YR4/2 灰褐色 粗粒	直線型窓は字形を呈する 窓部は薄く直線状	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 49	縫	B区	—	(48.0) 25.0 (2.8)	白色・黑色・ 赤色砂粒	良好	75YR1/1 灰褐色 粗粒	直線から透して立ち上がり、直線は直線状 窓部は薄く直線状	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群 直線縫
第2回 50	縫	B区	—	(43.0) (7.8) —	白色・黑色・ 赤色砂粒	良好	5YR4/2 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、内面が開ける	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 51	縫	A区	—	(46.0) — —	白色・透明砂粒	良好	75YR5/4 灰褐色 粗粒	直線型窓は外反して立ち上がり 直線はあまり傾らない	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 52	縫	A区	—	(43.6) (7.7) —	白色・黑色砂粒	良好	5YR4/2 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、内面が開ける	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 53	縫	B区	—	(42.8) (17.4) —	白色・黑色・ 灰土・赤色・ 透明砂粒	良好	5YR5/4 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、直線は外傾して 立ち上がる	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 54	縫	B区	—	(38.0) (20.0) —	白色・黑色・ 赤色・半透明砂粒	良好	5YR4/2 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、内面が開ける	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	土器群
第2回 55	縫	F区	287	— (3.0) —	白色・赤色砂粒	良好	75YR5/3 灰褐色 粗粒	直線型窓 窓部は直線して立ち上がり、内面が開ける	外面 口縫目ヨコナデ 制限ハラズリハレ 内面 ヨコハラズリ	直筒器
第2回 56	井面	A区	—	(3.0) —	白色・黑色砂粒	良好	5YR5/1 灰褐色 粗粒	直線は上位に最大量を持ち、口縁部は外傾して 立ち上がる	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 57	井面	B区	—	(3.0) —	白色・黑色砂粒	良好	2.5YR5/2 灰褐色 粗粒	直線は上位に最大量を持ち、口縁部は外傾して 立ち上がる	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 58	井面	C区	—	(3.0) —	白色砂粒	良好	2.5YR5/1 灰褐色 粗粒	直線は上位に最大量を持ち、口縁部は外傾して 立ち上がる	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 59	井面	C区	—	(3.1) (14.6)	白色・黑色砂粒	良好	5YR5/1 灰褐色 粗粒	直線は上位に最大量を持ち、口縁部は外傾して 立ち上がる	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 60	井面	C区	—	(2.9) (15.4)	白色・黑色砂粒	良好	2.5YR5/1 灰褐色 粗粒	直線は上位に最大量を持ち、口縁部は外傾して 立ち上がる	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第2回 61	井面	C区	—	(2.4) (14.6)	白色・黑色砂粒	良好	2.5YR5/1 灰褐色 粗粒	直線は上位に最大量を持ち、口縁部は外傾して 立ち上がる	外面 天井部回転ヘラケズリ 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器

第8表 土器觀察表（6）

器皿番号	基種	出土地点	遺物類	口径 横径 厚さ	胎土	焼成	色調 窓孔部位	形態の特徴	手の特徴	備考
第34回 119	灰面	A区	—	(2.7) (15.8)	白色・透明白粉	良好	2.5V5/1 黄褐色 天井部・口縁部	左口口成形 口縫埋部はやや外反し、かえりは直立する	内面 天井部凹輪へラケズリ 口縫埋部凹輪ナデ 内面 凹輪ナデ	調査器
第34回 120	灰面	A区	—	(2.7) (15.8)	白色・黑色砂粒	良好	2.5V5/1 黄褐色 天井部・口縫埋	左口口成形 かえりは直立する	内面 天井部凹輪へラケズリ 凹輪ナデ 内面 凹輪ナデ	調査器
第34回 121	灰面	E区	—	(1.1) (15.6)	白色・黑色砂粒	良好	2.5V5/1 黄褐色 天井部・口縫埋	右口口成形 口縫埋部が外反し、かえりはやや内傾する	内面 凹輪ナデ 内面 凹輪ナデ	調査器
第34回 122	灰面	A区	—	(1.8) (16.0)	白色砂粒	良好	5V5/1 灰色 天井部・口縫埋	端面丸、左口口成形 天井部は低く、やや内傾しきれいが内傾する	内面 天井部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 123	有台坪	C区	—	(16.8) (4.7) (12.4)	白色・黑色・ 半透明砂粒	良	2.5V5/1 黄褐色 口縫埋部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 124	有台坪	B区	—	(2.8) (3.2)	白色・黑色砂粒	良	10V5/1 黄褐色 体部・底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ 凸部摩耗	調査器 調査時に用いた可能性あり
第35回 125	有台坪	B区	—	(10.8) (4.0) (12.9)	白色・黑色砂粒	良	10V5/2 黄褐色 口縫埋部・底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 126	有台坪	D区	—	(13.8) (4.4) (11.0)	白色・黑色砂粒	良	2.5V5/1 黄褐色 口縫埋部・底部	右口口成形 口縫埋部がやや外反する 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 127	有台坪	D区	—	(14.8) (3.8) (10.0)	白色・黑色砂粒	良好	2.5V5/1 黄褐色 口縫埋部・底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 128	有台坪	D区	—	(17.8) (4.5) (11.6)	白色・黑色砂粒	良好	5V5/1 黄褐色 口縫埋部	右口口成形 窓型・點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 129	有台坪	D区	—	(12.4) (3.9) (12.6)	白色砂粒	良好	5V5/1 黄褐色 口縫埋部	右口口成形 窓型・點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 130	有台坪	E区	—	(13.4) (4.5) —	白色・黑色砂粒	良	10V5/2 黄褐色 口縫埋部・底部	右口口成形 外傾して立ち上がる	内面 凹輪ナデ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 131	有台坪	B区	—	(14.6) (4.2) (10.4)	白色砂粒	良好	2.5V5/1 黄褐色 口縫埋部・底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 132	有台坪	B区	—	(2.3) (10.0)	白色・黑色砂粒	良好	7.5V5/1 黄褐色 体部・底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 133	有台坪	C区	—	(2.3) (10.0)	白色砂粒	良好	10V5/2 黄褐色 底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 134	有台坪	F区	—	(1.7) (3.4)	白色・黑色砂粒	良	2.5V5/1 黄褐色 底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 135	有台坪	B区	—	(1.8) (18.0)	白色・黑色・ 半透明砂粒	良好	10V4/1 黄褐色 底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 136	有台坪	B区	—	(1.2) (9.8)	白色・黑色砂粒	良好	2.5V5/1 黄褐色 底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 137	有台坪	E区	—	(1.3) (9.8)	白色砂粒	良好	10V5/2 黄褐色 底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 138	有台坪	E区	—	(1.3) (10.4)	白色・黑色砂粒	良好	5V5/1 黄褐色 底部	右口口成形 點付高台	内面 凹輪ナデ 凸部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 139	有台坪	A区	—	(1.5) (4.2)	白色・黑色・ 黑色砂粒	良	10V5/2 黄褐色 底部	右口口成形 底部は外傾して立ち上がり、口縫埋部はやや外傾	内面 凹輪ナデ 底部凹輪へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 140	無台面	A区	—	(11.6) (4.2)	白色・黑色・ 黑色砂粒	良	2.5V5/1 黄褐色 口縫埋部	右口口成形 底部は外傾して立ち上がり	内面 凹輪ナデ 底部へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 141	無台面	B区	—	(2.1) (8.0)	白色・黑色砂粒	良	10V5/2 黄褐色 底部	右口口成形 底部は外傾する	内面 凹輪ナデ 底部へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 142	無台面	C区	2862	(15.8) (4.9) (5.6)	白色砂粒	良	2.5V5/2 黄褐色 口縫埋部	右口口成形	内面 凹輪ナデ 底部へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器 窓孔部に外側に凹むように記号あり
第35回 143	無台面	E区	—	(1.6) (12.0)	灰色砂粒・礫	良	2.5V7/2 黄褐色 体部・底部	左口口成形 底部は外傾する	内面 凹輪ナデ 底部へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第35回 144	無台面	C区	2883	(11.2) (4.1) (6.0)	白色砂粒	良好	10V5/2 黄褐色 口縫埋部	右口口成形	内面 凹輪ナデ 底部へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器 底部外側に凹むように記号あり
第35回 145	罐	C区	—	(12.5) (12.0)	白色・黑色・ 灰色砂粒	良	2.5V7/4 黄褐色 底部	右口口成形 窓孔部は外傾する	内面 凹輪ナデ 底部へラケズリ 内面 凹輪ナデ	調査器
第36回 146	長縦巻	G区	—	(7.2)	白色・半透明砂粒	良好	10V5/2 黄褐色 底部	右口口成形 窓孔部は外傾する	内面 凹輪ナデ 内面 凹輪ナデ	調査器

第9表 土器観察表(7)

器物 番号	種類	生土地点	出土物名	口径 底径 厚さ	胎土	焼成	色調・種類部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第34 図 147	壺形器	B 区	—	(8.0) (5.9) —	白色・黑色砂粒	良	23YS-1 黄灰土色 口縁部一色	ロウロ成形 窓から縁部はやや外反する	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第35 図 148	壺形器	E 区	—	(5.5) —	白色・黑色砂粒	良	10YRA-1 褐色 藍色	ロウロ成形 縁部に窓から外傾する	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第36 図 149	壺形器	B 区 C 区	—	(7.3) —	白色・黑色砂粒	良	NS-0 淡色 藍色	ロウロ成形 窓部は内斂する	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器
第37 図 150	小型壺	A 区	—	(3.0) 4.0 (3.4)	白色・黑色・ 半透明砂粒	良	23YS-1 黄灰土色 口縁部一色	ロウロ成形 半球から縁部は内斂する 口縁部は外傾する	外面 回転ナデ 内面 回転ナデ	直筒器 木蓋し
第38 図 151	壺	C 区	—	(7.4) —	白色・黑色・ 蓝色砂粒	良	23YS-1 黄灰土色 口縁部	ロウロ成形	外面 回転ナデ 二重丸錐 窓部斜突出 内面 回転ナデ	直筒器
第39 図 152	壺	D 区	—	(3.7) (3.6)	黑色・黑色砂粒	良	30G-1 青灰色 深部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 薄部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第40 図 153	壺	C 区	—	(2.6) (2.4)	白色・黑色・ 黑色砂粒	良	23YT-1 淡白色 體部一色	窓部 ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 浅部斜軽ヘラケツリ 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第41 図 154	壺	C 区	—	(2.0) (1.8)	白色砂粒	良	10YRS-2 灰黃褐色 深部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第42 図 155	壺	直徑	—	(2.2) (1.8)	白色・黑色・ 灰色・透明砂粒	良	23YS-1 黄灰土色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第43 図 156	壺	G 区	—	(1.8) (1.2)	白色・黑色砂粒	良	23YT-1 淡白色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第44 図 157	壺	E 区	—	(2.4) (6.0)	黑色・黑色砂粒	良	23YT-1 黄灰土色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ 窓部斜切口張	瓦輪陶器
第45 図 158	小壺	G 区	—	(2.2) (3.8)	白色・黑色砂粒	良	23YF-2 灰黃色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第46 図 159	小壺	C 区	—	(1.5) (4.0)	白色・黑色砂粒	良	23YRS-1 黄灰土色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第47 図 160	壺	C 区	—	(2.1) (1.8)	白色・黑色砂粒	良	10YRF-2 灰黃褐色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第48 図 161	壺	B 区	—	(3.6) (7.4)	白色・黑色砂粒	良	23YT-2 黄灰土色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 底部へラケツリ 内面 回転ナデ	瓦輪陶器
第49 図 162	小壺	C 区	—	(1.6) (1.0)	白色・黑色・ 半透明砂粒	良	10YRF-2 灰黃褐色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	山茶樹
第50 図 163	小壺	C 区	—	(1.6) (0.7)	白色砂粒	良好	10YRF-2 灰黃褐色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	山茶樹
第51 図 164	小壺	E 区	—	(1.3)	白色・黑色・ 黑色砂粒	良	10YRS-2 灰黃褐色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	山茶樹
第52 図 165	小壺	A 区	—	(1.6) (0.7)	白色・黑色・ 黑色砂粒	良	23YS-1 黄灰土色 窓部	ロウロ成形 貼付窓台	外面 回転ナデ 窓部斜切口張 内面 回転ナデ	山茶樹
第53 図 166	かわらけ	F 区	—	(0.4) (2.1) (4.0)	白色・黑色・ 透明砂粒	良好	23YRS-2 に白・黄・青 口縁部一色	ロウロ成形	外面 回転ナデ 窓部斜切口張、毛口底 内面 回転ナデ	
第54 図 167	円盤	E 区	—	(2.6) —	灰色・黑色砂粒	良好	10YRF-2 に白・青・黒 口縁部	土陶燒成羽音 口縁部はやや内斂する 窓部は呈状を呈し、水平にのびる	外面 ロコナデ 内面 ロコナデ	土器器

第10表 円面硯観察表

団体番号	基種	出土地点	遺物No.	口径 直高 底高 底径	胎土	焼成	色調・残存部位	形態の特徴	手法の特徴	備考
第37団 166	円面硯	D区	—	11.0 —	白色・黒色、 灰色砂粒	良好	5V4/1 灰色 底の一部	圓底円面硯	口吹成形	深窓器

第11表 陶磁器観察表

団体番号	基種	出土地点	遺物No.	口径 直高 底高 底径	胎土	焼成	色調	残存部位	产地	備考
春耕園版2-1	甕	F区	—	—	白	良好	10VRS-2 に灰褐色 15VRS-2 に灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-2	甕	C区	—	—	青	良好	2.3V6/2 に灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-3	甕	D区	—	—	白	良好	7SVRS-3 に灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-4	甕	E区	—	—	白	良好	10VRS-2 に灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-5	甕	G区	—	—	白	良好	10VRS-2 灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-6	甕	直縫	—	—	白	良好	10VRS-2 に灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-7	甕	F区	—	—	白	良好	2.3V5/1 灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-8	甕	A区	—	—	白	良好	5VRS-4 に灰褐色	瓶部	東洋	圓底陶器
春耕園版2-9	甕	E区	—	—	白	良好	2.3V6/1 灰褐色	瓶部	西美	圓底陶器
春耕園版2-10	甕	E区	—	—	白	良好	2.3V6/1 灰褐色	瓶部	西美	圓底陶器
春耕園版2-11	小甕	B区	—	—	白	良好	10VRS-2 灰褐色	口縫部	關戸	圓底陶器
春耕園版2-12	橫縫	C区	—	—	白	良好	10H4/1 暗赤褐色	口縫部	關戸	圓底陶器
春耕園版2-13	横縫	C区	—	—	白	良好	10H4/1 暗赤褐色	体部	關戸	圓底陶器
春耕園版2-14	横縫	E区	—	—	白	良好	10H4/1 暗赤褐色	体部	關戸	圓底陶器
春耕園版2-15	横縫	E区	—	—	白	良好	10VRS-1 暗赤褐色	体部	關戸	圓底陶器
春耕園版2-16	甕	C区	—	—	幽青	良好	10V5/1 灰褐色	体部～底部	—	質素陶器
春耕園版2-17	甕	E区	—	—	幽青	良好	10V5/2 オレンジ色	口縫部	—	質素陶器
春耕園版2-18	甕	D区	—	—	幽青	良好	2.3V6/2 に灰褐色	口縫部	—	質素陶器
春耕園版2-19	横縫	D区	—	—	白	良好	7SVRS-3 に灰褐色	体部～底部	關戸	圓底陶器

第12表 石器観察表

団体番号	造様	基種	遺物No.	部位	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
第34団 1	B区	砾石	—	土壌	10.2	4.4	2.9	146.8
第34団 2	直縫	砾石	—	土壌	10.2	5.1	4.4	208.8
第39団 2	C区	砾石	—	土壌	4.4	4.6	1.2	36.8

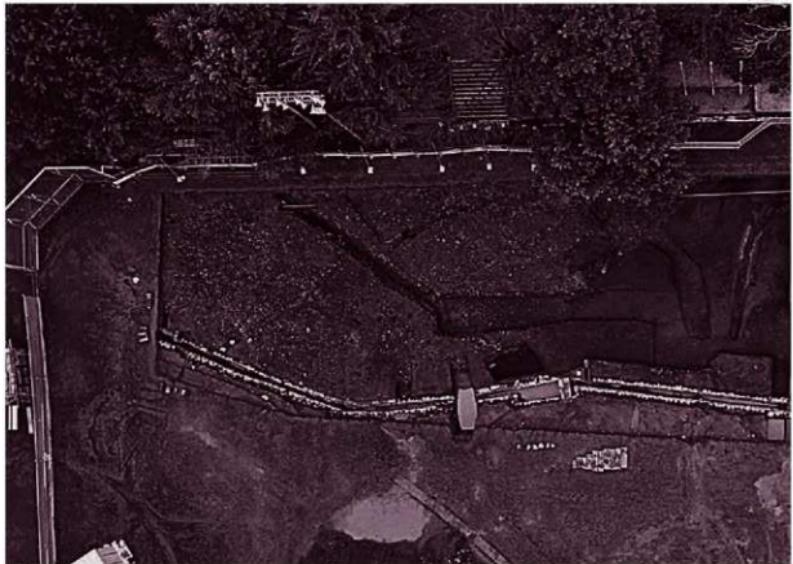
第13表 土製品観察表

団体番号	造様	基種	遺物No.	部位	最大長(cm)	最大幅(cm)	重さ(g)	表面(cm)	裏面(cm)
第39団 1	D区	土縫	—	土壌	5.3	4.1	363	18.0	22.2
第39団 2	G区	土縫	—	土壌	3.8	3.9	571	16.5 × 15.5	—
第39団 2	B区	土縫	—	土壌	5.3	4.1	804	21.4 × 18.1	22.6 × 19.0
第39団 4	A区	土縫	—	土壌	5.8	4.2	531	18.0	22.2

第14表 銭貨観察表

団体番号	造様	基種	遺物No.	材質	部位	幅(cm)	径(cm)	内径(cm)	重さ(g)	最大厚	備考
第21団 1	SD1	銭貨	216	銅	土壌	27.6	27.8	20.6	5.4	1.3	貞永通宝
第21団 2	SD1	銭貨	—	銅	土壌	22.8	22.7	20.5	3.4	1.5	—錢(大正)
第40団 1	F区	銭貨	—	銅	土壌	22.5	22.7	18.2	1.6	0.8	貞永通宝
第40団 2	F区	銭貨	—	銅	土壌	22.4	22.3	16.9	2.0	1.2	貞永通宝
第40団 2	A区	銭貨	—	銅	土壌	27.0	27.0	20.8	3.6	1.3	文久永寶
第40団 4	直縫	銭貨	—	銅	土壌	20.3	20.3	18.1	4.4	1.7	五錢(明治)

写 真 図 版



調査区北部



調査区南部

P.L. 2



第2号溝状遺構検出状況



第2号溝状遺構セクション



第2号溝状遺構完掘状況



第1号住居址検出状況

P.L. 4



第1号住居址遗物出土状况



第1号住居址床面检出状况



第2号住居址検出状況



第2号住居址北東セクション

P.L. 6



第2号住居址遺物出土状况



第2号住居址床面檢出狀況



第2号住居址完掘状况



第3号住居址床面検出状況

P.L. 8



第3号住居址カマド検出状況



第3号住居址完掘状況



第1号溝状遺構セクション



第1号溝状遺構B・C区



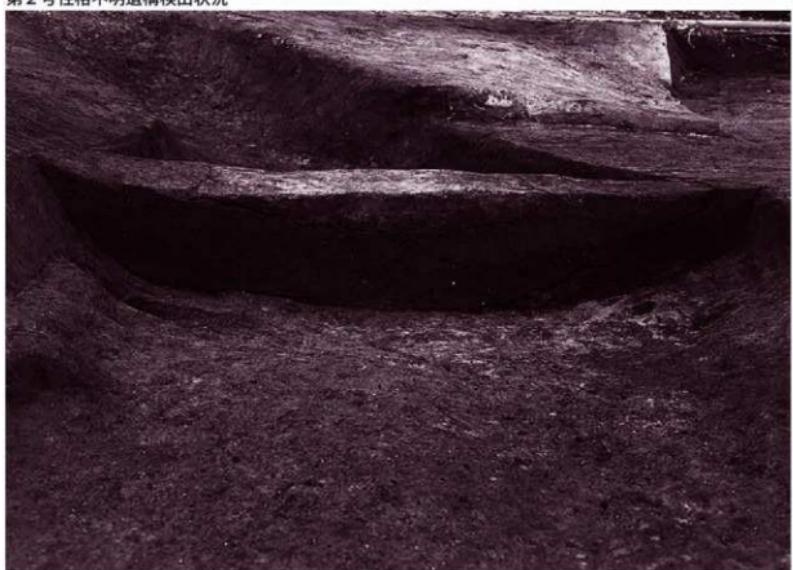
第1号溝状遺構E・F区



第1号溝状遺構G区

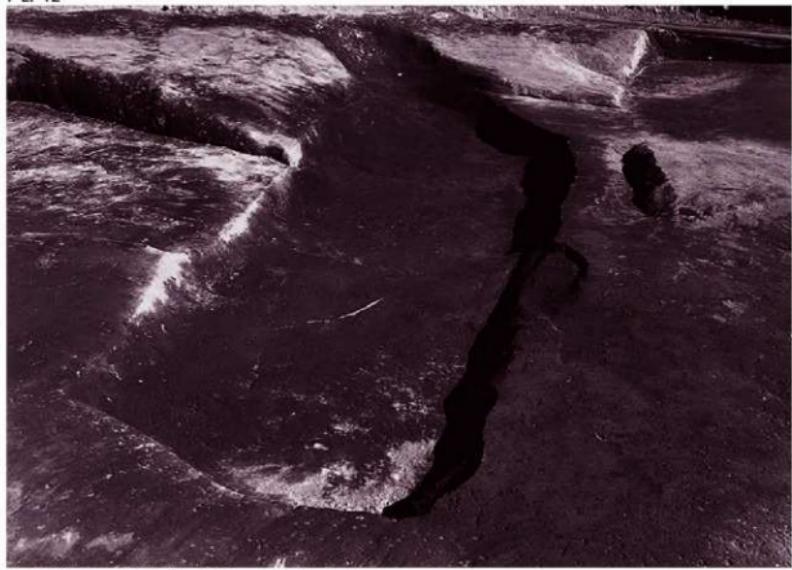


第2号性格不明遺構検出状況



第2号性格不明遺構セクション

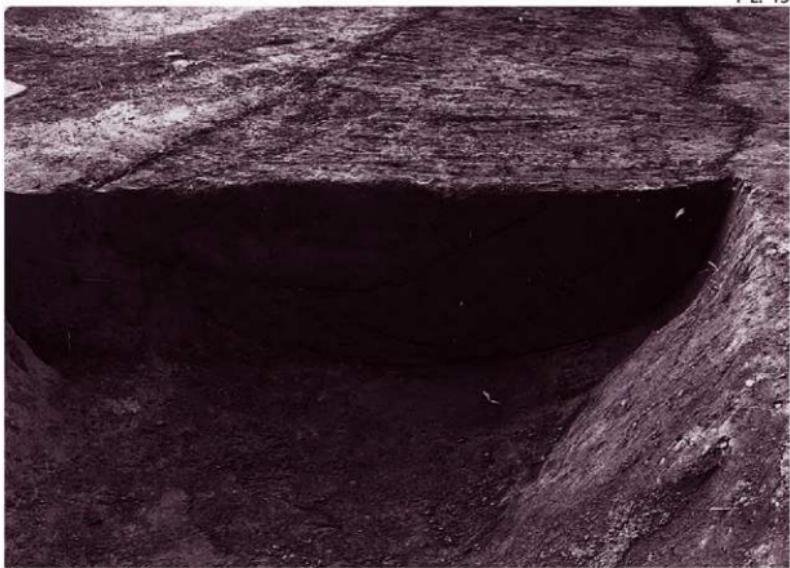
P.L. 12



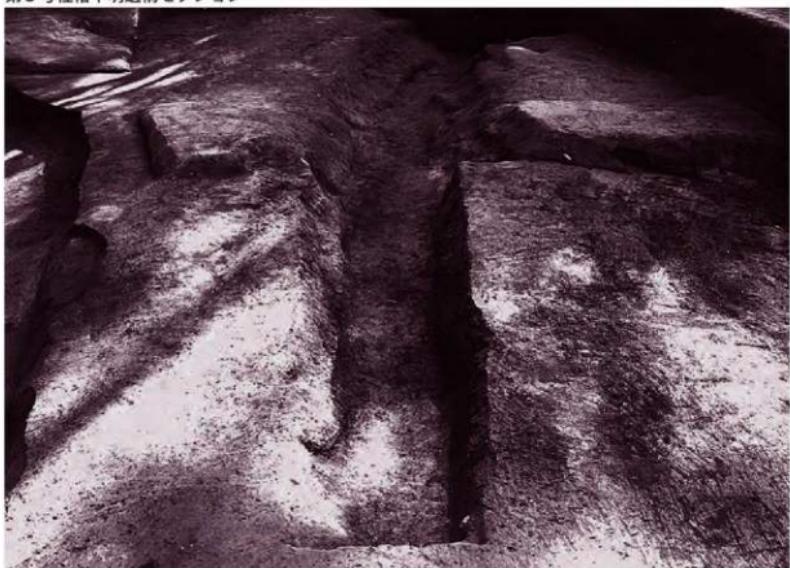
第2号性格不明遺構完掘状況



第3号性格不明遺構Bセクション



第3号性格不明遺構セクション

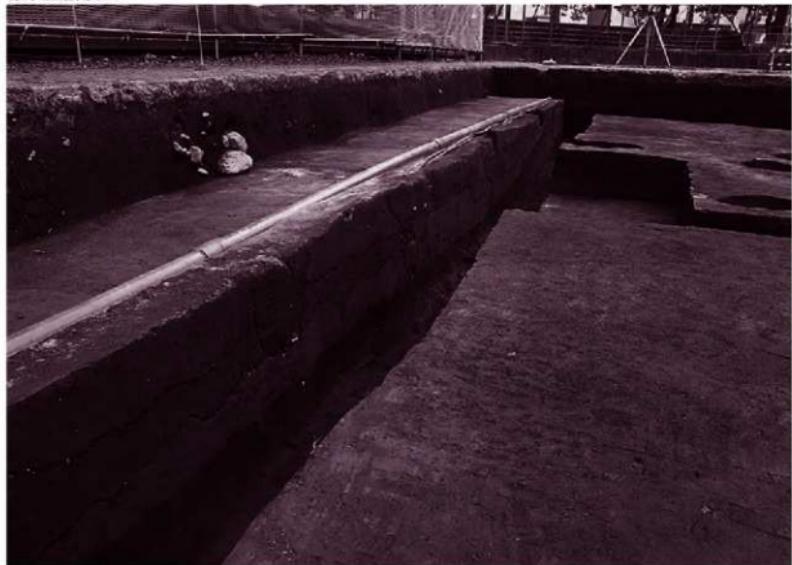


第3号性格不明遺構完掘状況

P.L. 14



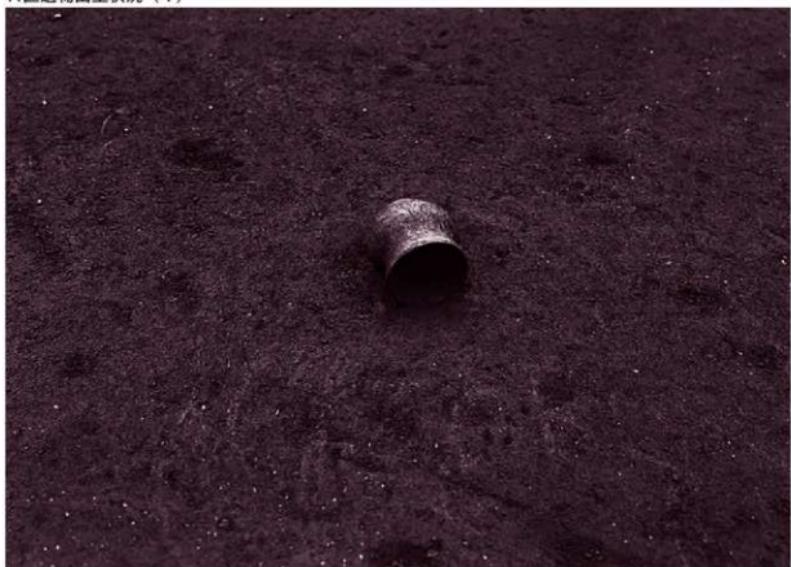
標準土層南より



標準土層北より

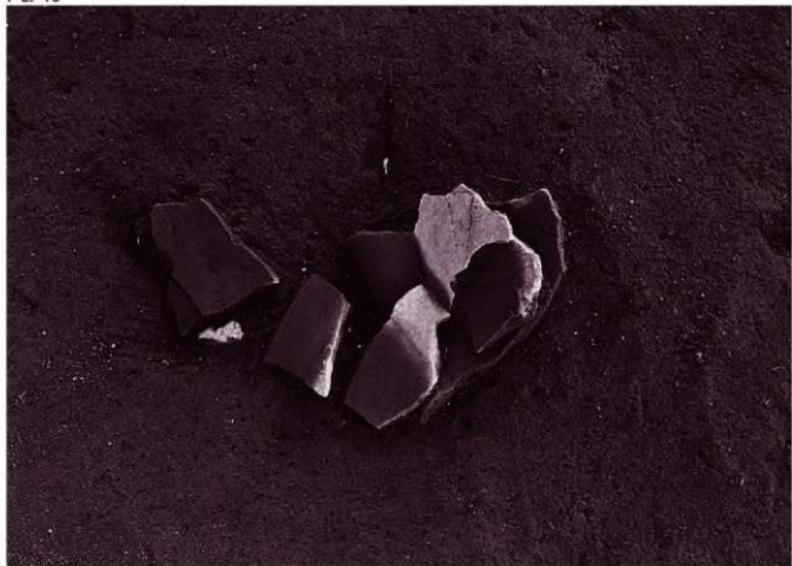


A区遺物出土狀況（1）

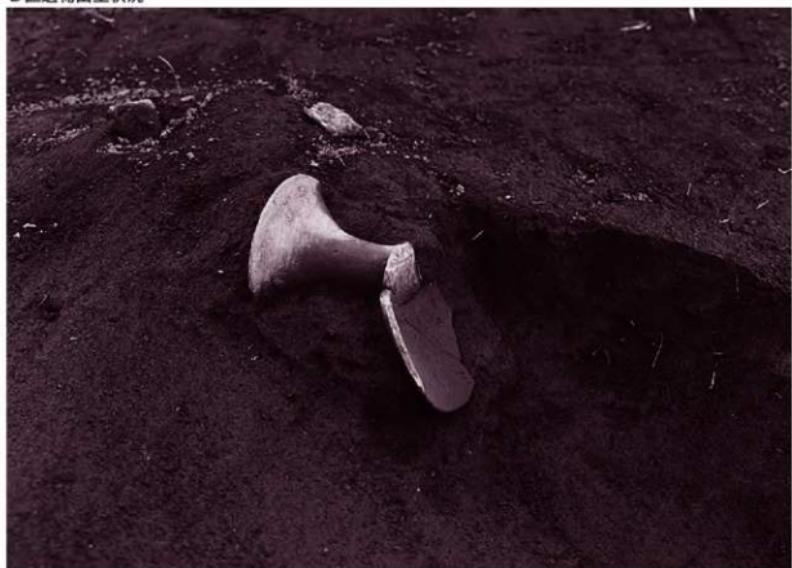


A区遺物出土狀況（2）

P.L. 16



B区遗物出土状况



C区遗物出土状况



1

第2号溝状遺構出土遺物



1



3



2

第1号住居址出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9

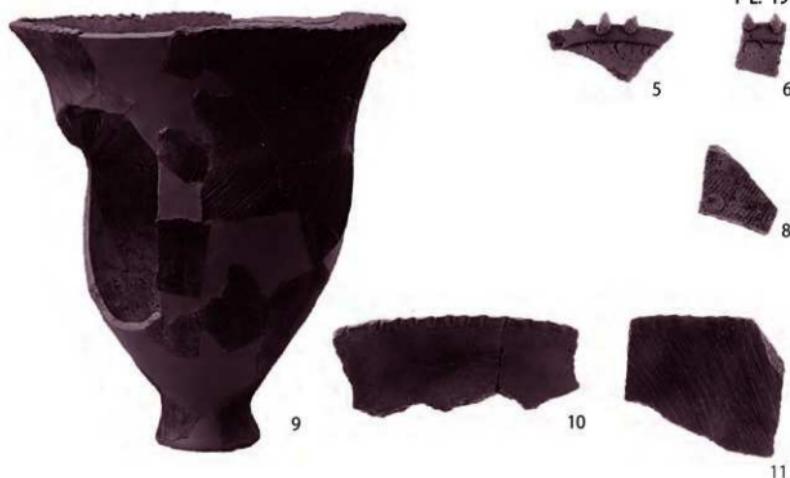
第2号住居址出土遺物（1）



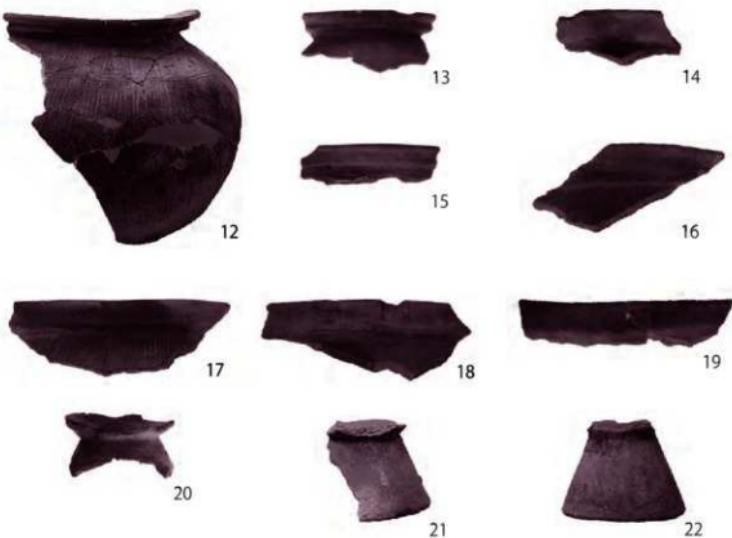
第2号住居址出土遺物（2）



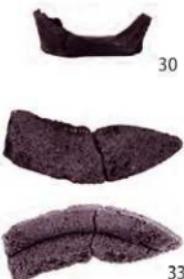
弥生時代遺構外出土遺物（1）



弥生時代遺構外出土遺物（2）

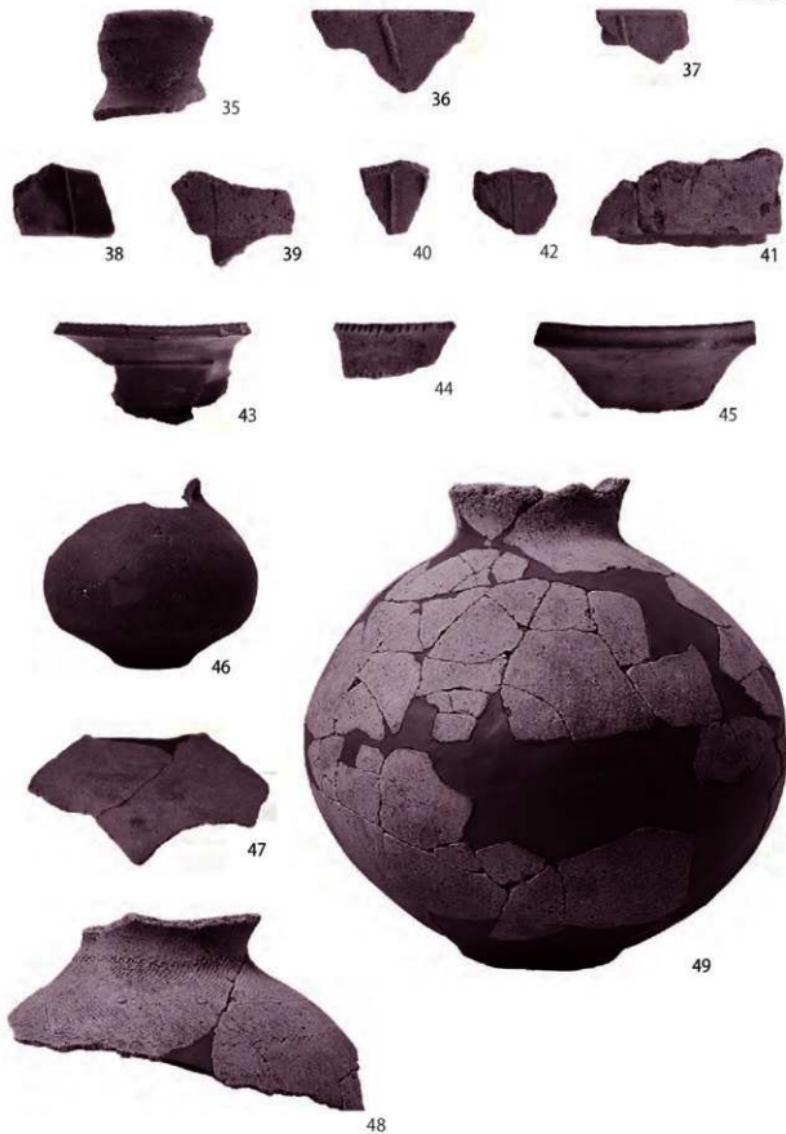


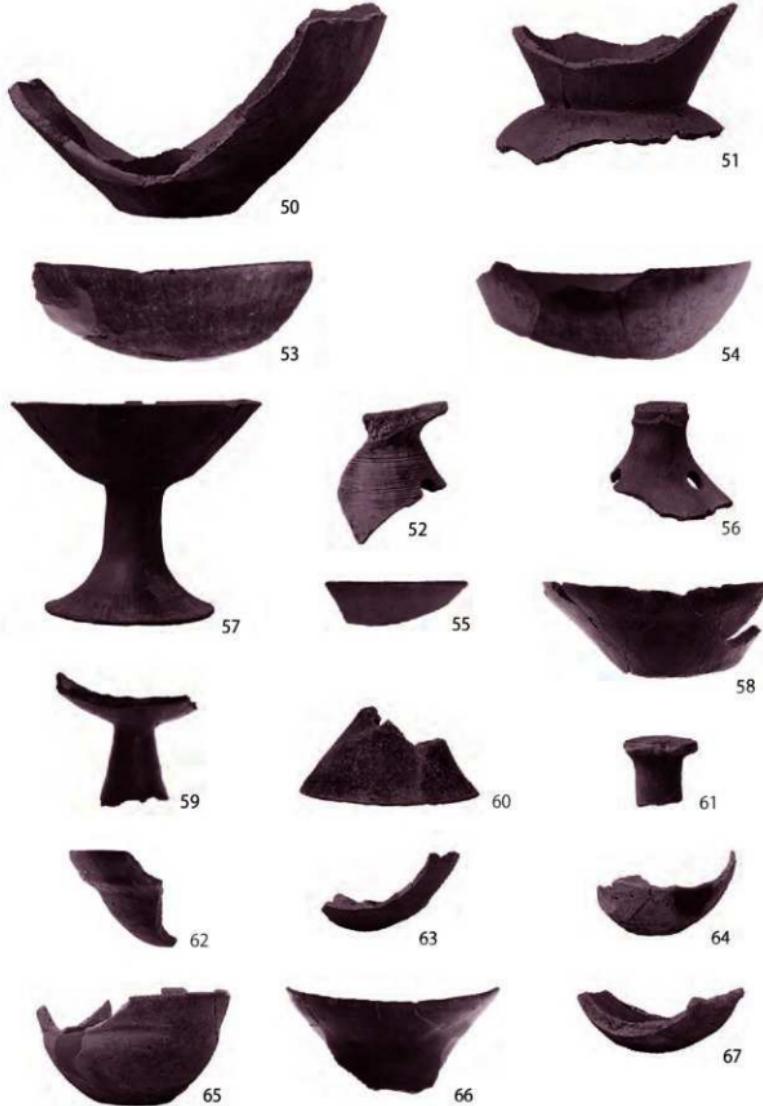
古墳時代遺構外出土遺物（1）

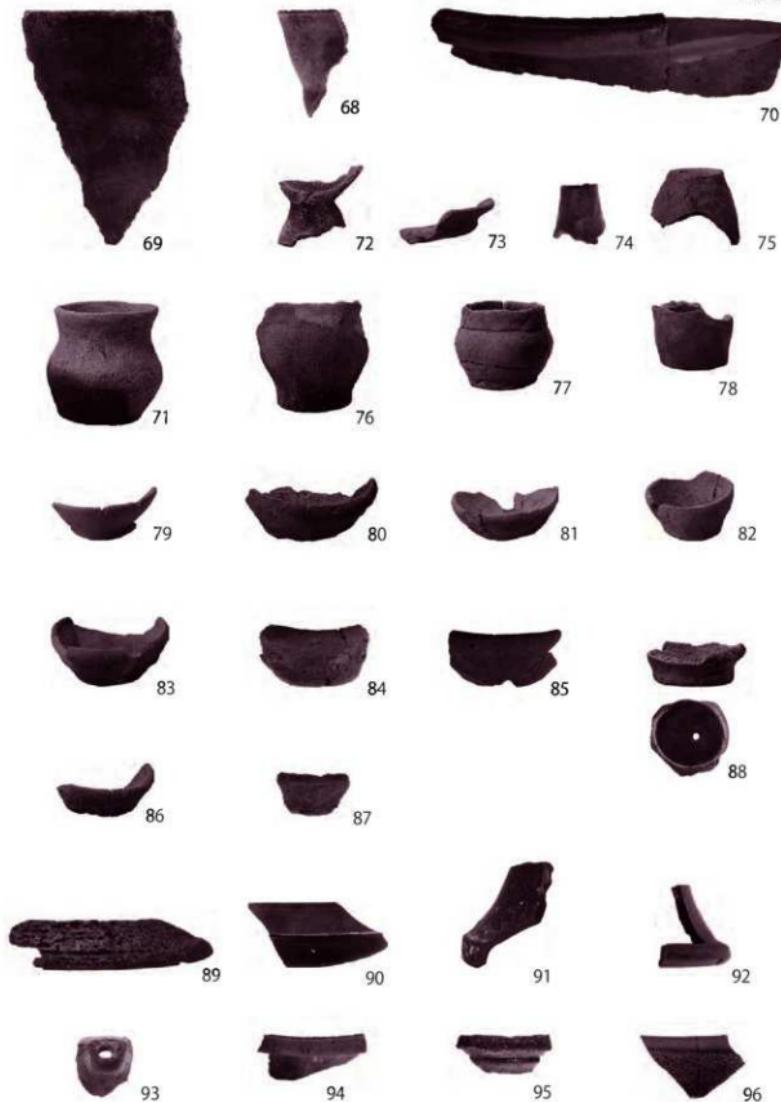


32









P.L. 24



97



98



99



100



101



102



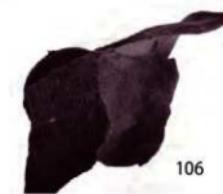
103



104



105



106



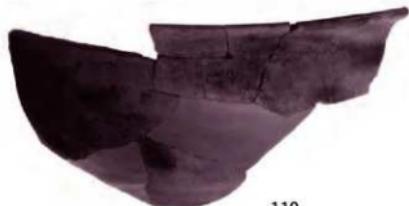
107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119



120



121



122



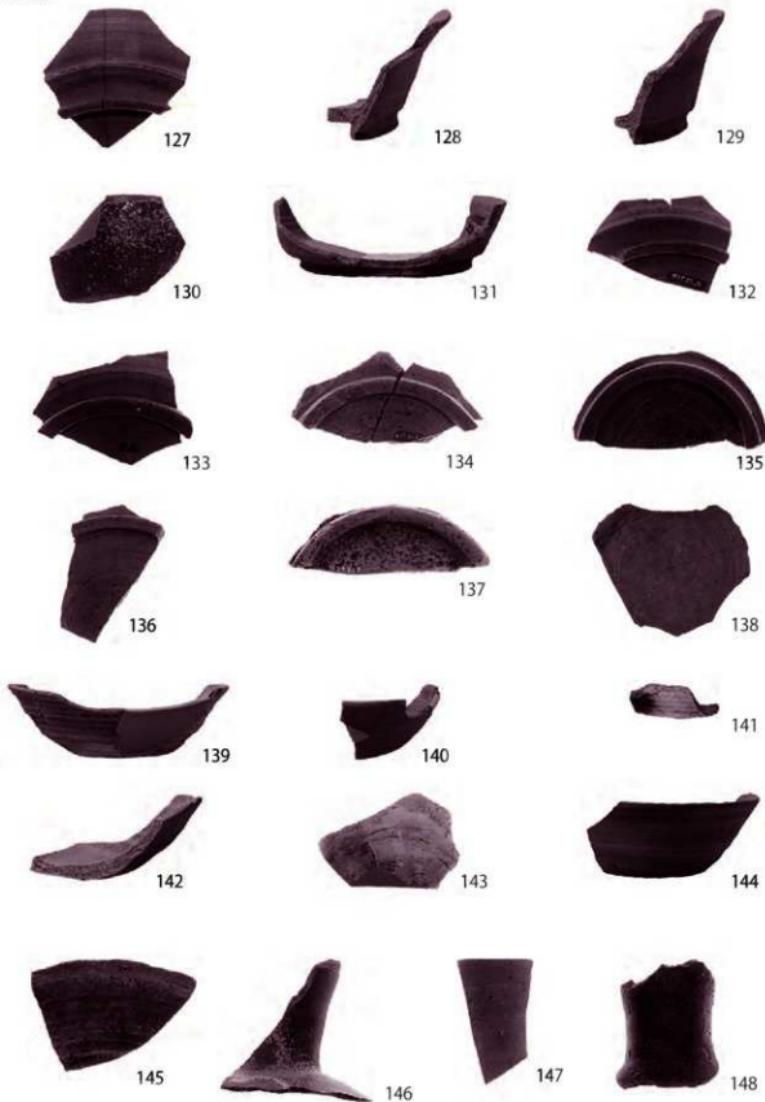
123

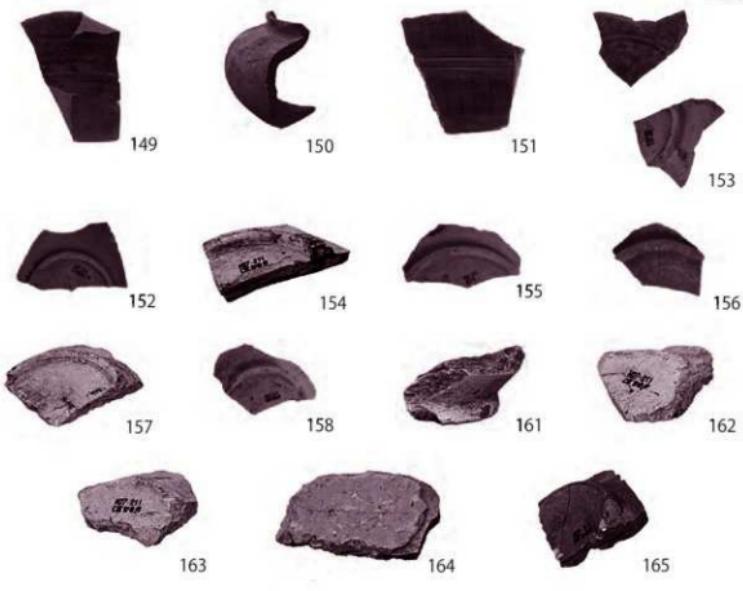


124



125





166

奈良・平安時代遺構外出土遺物（4）



167



168

中世遺構外出土遺物

支脚



磁石



磁石



土錘



21-1

21-2

40-1



40-2

40-3

40-4

錢貨

報告書抄録

ふりがな	みゆきちょういせきだいよじはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	御幸町遺跡第4次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第117集							
編著者名	前嶋秀張 矢田晃代							
編集機関	沼津市教育委員会							
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL055-931-2500							
発行年月日	西暦 2017年3月24日							
ふりがな 所収道路	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 道路番号	東経 世界測地系	発掘期間	発掘面積	発掘原因	
御幸町遺跡	沼津市御幸町	22203	211	35° 05' 43"	138° 51' 55"	2015.11.20 ~ 2016.03.25	1,980m ²	新体育館建設 のため
				35° 05' 31"	138° 52' 06"			
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
御幸町遺跡	集落	弥生時代	溝状遺構1		土器	弥生時代中期 の土器が多い		
	集落	古墳時代	住居址1		土師器・須恵器	大席式土器破 片が多く出土		
	集落	奈良・平安時代	住居址2		土師器・須恵器(円面鏡) 灰陶陶器・山茶碗	伊勢・畿内 の二重口縁壺		
		中世			かわらけ・陶磁器			
要約	<p>御幸町遺跡は、駿河湾に面した狩野川左岸の低地に営まれた、弥生時代後期から奈良・平安時代にかけての複合遺跡であり、人や物の流通拠点となる遺跡の一つである。</p> <p>今回の調査で遺跡の様相が明らかとなった時期は、古墳時代前期と奈良・平安時代である。</p> <p>古墳時代前期は、集落の西端に位置する住居址1軒を検出し、包含層からは大席1式から中見代1式にいたる在地系の土師器の他、廻間1式からII式の東海西部系の土師器、伊勢・畿内系の土師器が出土している。これらの土器は、高尾山古墳から出土する土器と時期的に並行することから、古墳の被葬者が治めた古代スルガのクニを構成した集落跡の一つとして位置づけることが可能である。</p> <p>奈良・平安時代は集落の住居址を2軒検出し、包含層から円面鏡の一部が出土した。陶鏡の出土は静岡県東部では出土例が少なく、市内で下香貫の宮原1号墳の把手付鏡に続き、2例目となった。今回、新たに円面鏡が出土したことにより、御幸町遺跡を含む狩野川河口の遺跡群が古代東海道や狩野川水運と深い関わりをもつ官衙的な遺跡群として発展してきたことが明らかとなった。</p>							

沼津市文化財調査報告書 第117集
御幸町遺跡第4次発掘調査報告書

平成29年3月17日 印刷
平成29年3月24日 発行

編集／沼津市教育委員会
発行／沼津市教育委員会
沼津市御幸町16番1号
TEL (055) 931-2500㈹
印刷／文光堂印刷株式会社